

スーパー艦隊大戦  
Fleet Girls

モンターク

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

西暦2020年

兼ねてより深海棲艦の徹底抗戦の勢いが激化しつつあるなか

し  
日本政府はアメリカ軍の南太平洋での対深海棲艦戦のために部隊派遣をすると発表

した。  
自衛隊及び艦娘隊から選抜されたメンバーによる統合任務部隊「つばめ」が編成され

だが「つばめ」は突如発生した異常気象により異世界に転移してしまう。

そしてその異世界では艦娘に似た艤装を持った少女同士が争っていた……………

.....

前作及び前前作とは違い、完全なオリジナルストーリーとなります。

またスーパーロボット大戦を一部参考にしています。

またいくつかの設定は前前作・前作より引き継がれていますが、読まなくてもお楽しみいただけると思います。

前作↓<https://syosetu.org/novel/104438/>

前前作↓<https://syosetu.org/novel/96227/>

なおこの作品はフィクションです

実在の人物、団体、国とは全く関係ありません

同一艦は

艦これ側は艦名のみ表記で

アズレン側は略称の艦Bから取り艦名(B)と付けさせていただきます

### 追記

14話以降より艦これを中心とした世界を西暦世界、アズルレーンを中心とした世界を新暦世界、紺碧・旭日の艦隊シリーズを中心とした世界を後世世界と称します。

# 目次

設定解説

第1話 見知らぬ海

第2話 艦船少女

第3話 珊瑚海へ

第4話 五航戦VS五航戦

第5話 二人の艦

第6話 NATO連合

第7話 ミッドウエー

第8話 転移、新たなる世界

第9話 後世

第9・5話 「船」

第10話 迎撃

1

10

30

52

76

106

119

133

161

179

193

201

第11話 姫

第12話 集結

第13話 潜水艦掃討戦

第14話 帰りを待つ者

第15話 突破せよ

第16話 再び

214

228

256

269

280

303

# 設定解説

(順不同)

艦これ設定

艦娘

実の艦の記憶・魂を持つ少女

実の艦に乗っていた・関わっていた人間の記録なども把握しており、なおかつ後に伝わった情報なども把握している。

元となった艦と同様の艦装を持っており、それで深海棲艦に攻撃する。

体は人と同様であり、人と同じように食事・睡眠などを取るが

身体能力は同じくらいの女性より格段上である。

深海棲艦

深海棲艦とは数年前に突如出現した未知の生物

特に対策もせずに通常兵器だけだと倒せないが

メーカー、メカゴジラなどの対G兵器だと大打撃を与えることができ

艦娘の攻撃では対G兵器と同等、それ以上の打撃を与えることができ倒せる。なお艦娘の攻撃を撃ち込んだ後直ぐに通常兵器の攻撃を与えれば通常兵器でも倒すことは可能である。

鉄底海峡での戦いから一年半経つが未だに勢力は衰えていない。

アズレン設定

艦船少女

艦娘と同様に艦の記憶・魂を持つ少女

ただし艦娘と違い、艦の記録のみを少女達は記憶しており、後ほど伝わった情報などは少女は把握していない。

メンタルキューブとよばれるものから生まれるとされる

同じく元の艦と同様の艦装を持っており、それでセイレーンに攻撃することができ  
る。

艦娘と違い、日本以外の海外艦の数が多い

なおセイレーンと戦うのが本来の仕事だが、後述する陣営ごとの争いにより、艦船少女同士の戦いが殆どになってしまっている。

セイレーン

突如出現した謎の勢力であり、人類に敵対的であり、目的は不明ながら圧倒的な力により人類の半数を殲滅したとされる。

その後人類の大規模反抗作戦により、人類の生存圏から退けさせるのには成功したが未だに健在であり、その上人類がセイレーンそつちのけで「人類の今後の在り方」を巡って二大勢力が衝突するという戦争を始めてしまったため、セイレーンは再び力を盛り返していると考えられる。

アズールレーン

通称「連合」

元々は突如発生した「セイレーン」に対抗するための超国家軍事連合であり

連邦制国家「ユニオン」、王政国家「ロイヤル」、軍事国家「鉄血」、君主制国家「重桜」の4大国家が中心となって設立された。

セイレーンを退けさせるのには成功したものの、方針の対立から「鉄血」がレッドアクスズと呼ばれる勢力を設立してしまい、そのまま連合を離脱。

その後その方針に賛同した「重桜」もレッドアクスズに鞍替えする形で離脱し4大国家は真つ二つとなり、そのまま戦争になってしまった。

所属国家は「ユニオン」「ロイヤル」及び「東煌」「北方連合」

「人類の科学技術と天然自然の力による人類の発展」を組織の主題に掲げている。

レッドアックス

軍事国家「鉄血」が結成したもう一つの超国家軍事連合。

セイレーンとの戦いで戦利品として手に入れた技術などを積極的に導入し、人類の更なる発展と革新を目標として掲げている。

そのため「人類自らが生み出した科学技術と天然自然の力による自然進化的な発展」を掲げる連合とは折り合いがつかず、最終的には戦争となってしまうた。

オリジナル設定

統合任務部隊「つばめ」

南太平洋での対深海棲艦戦のために編成された統合任務部隊

第1空母機動群司令の涌井海将補が指揮官となっているが、実質的な指揮は黒木特佐が取る。

「つばめ」所属部隊は以下の通り

海上自衛隊

いぶき型航空母艦「いぶき」・「あまぎ」

こんごう型ミサイル護衛艦「きりしま」・「ちようかい」



あたご型ミサイル護衛艦「あたご」

いずも型ヘリコプター搭載護衛艦「かが」

ゆきなみ型ヘリコプター搭載護衛艦「あすか」・「みらい」

むらさめ型汎用護衛艦「いかづち」・「さみだれ」

たかなみ型汎用護衛艦「さざなみ」

あきづき型汎用護衛艦「ふゆづき」

やまなみ型潜水艦「たつなみ」

そうりゆう型潜水艦「けんりゆう」・「こくりゆう」

あつみ型艦娘輸送艦「みうら」

おおすみ型輸送艦「おおすみ」・「しもきた」

航空自衛隊

第92航空団 第309艦載飛行隊

第92航空団 第403艦載飛行隊

陸上自衛隊

水陸機動団 第1・2連隊

特生担当隊 第17メーサー戦車大隊

特生担当隊 スーパーX2隊

特生自衛隊

第1メーサー群 第3メーサー隊

艦娘隊

戦艦「大和」「金剛」「霧島」「長門」

航空戦艦「扶桑」「山城」

空母「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」「翔鶴」「瑞鶴」

重巡「高雄」「愛宕」「摩耶」「鳥海」

軽巡「球磨」「多摩」「阿武隈」「夕張」「川内」「神通」

駆逐「吹雪」「夕立」「睦月」「如月」「時雨」「陽炎」「暁」「響」「雷」「電」「秋月」「初月」

工作艦「明石」

国連軍

第6航空団第66飛行隊「ガラム」

第8航空団第28航空隊「ガルーダ」

第8航空団第29航空隊「ボーンアロー」

独立国家「やまと」

原子力潜水艦「やまと」（旧名：シーバット）

### 艦船設定

#### あつみ型艦娘輸送艦

おおすみ型輸送艦を元に艦娘を輸送する能力や艦娘を艦尾門扉より発着艦させる能力を付与させた新型輸送艦。

V-22オスプレイなどの輸送ヘリコプターも搭載することが出来る。

なおおおすみ型同様に普通の戦闘員・戦車を輸送することも可能であり、LCCの運用もそのまま可能である。

また艦娘を整備・回復させる設備なども整っており、まさに動く鎮守府である。

武装は自衛用のCIWSファンクスブロック及びSeaRAMのみを搭載する。

### 参戦作品

艦隊これくしょん〜艦これ〜

アズールレーン

ゴジラ（1984年版）

ゴジラVSビオランテ

ゴジラVSメカゴジラ

ゴジラVSスペースゴジラ

ゴジラVSデストロイア

ゴジラ×メカゴジラ

沈黙の艦隊

ジパング

空母いぶき

エースコンバット04 シャツタードスカイ

エースコンバット5 ジ・アンサンブル・ウォー

エースコンバット・ゼロ ザ・ベルカン・ウォー

エースコンバット6 解放への戦火

エースコンバット インフィニティ

紺碧の艦隊

旭日の艦隊

インデペンデンス・デイ



# 第1話 見知らぬ海

「吹雪ちゃん！……吹雪ちゃん！」

吹雪「ん……」

如月「気がついたみたいね」

吹雪「……ここは……」

夕立「輸送艦「みうら」の中っぼい」

霧島「全く、無茶しすぎです、あんな嵐の中でギリギリまで吹雪さんは戦ってたんですから」

吹雪「す、すみません……」

吹雪は自分が生きているのに安堵する

吹雪「……ところで今は大丈夫なんですか？」

霧島「確かに嵐は去ったみたいだけど……」

長門「……GPSや航法装置が一部エラーをお越し、通信の連絡も取れなくなっているようだ」

吹雪「だ、大丈夫ですか!？」

大和「明石さんや整備員さんたちが今機器の状態を確認しているのですが」  
大和「今のところ特に異常は見当たらないらしいそうです」

どの艦艇の通信・GPSなどの機器もエラーをお越し、現在はこの海域に留まっ  
てる。

電子整備員「こちらの機器、異常なし！」

明石「こっちのGPSの端末もロストしたまんまですが、機器自体に異常は見られ  
ません！」

電子整備員「一体どこが悪いんだ……」

自衛隊の整備員による懸命な確認作業が行われていたが、何回確認しても特に異常は  
見られなかったが、GPS・通信がロストしたことは変わらなかった。

数時間後

航空母艦「いぶき」に報告のため各艦長が到着し、状況を報告した

涌井「……一体何があったというのだ」

「つばめ」の指揮官を務める涌井海将補は頭を悩ませる。

梅津「これだけの点検作業をしたにもかかわらず異常も何もないのか……」

「みらい」の艦長である梅津も同じく疑問を感じていた

浮船「にも関わらず他の艦もGPSはロスト、通信も相変わらず不能か」

浮船「我々「ちようかい」も相変わらずだ。連絡も何も取れないままだ」

沼田「うむ……………」

「つばめ」の副指揮官を務める沼田海将補も頭を悩ませ

提督「うむ……………艦娘のほうにも異常はありませんでしたし」

艦娘隊の司令で今回の作戦に同行している本川提督も頭を悩ませた

???'「すみません、今戻りました」

涌井「入ってくれ、黒木君」

黒木「失礼します」

黒木三等特佐

「つばめ」の対特殊生物についての指揮を担当している。

黒木「スパーX2やメーサー戦車の状態も一応確認しましたが、異常は見られませんでした」

黒木「……………そこでこれらから推測できる要素で思いついたことがあります」

沼田「何かね？」

黒木「我々は異世界に来てしまったのでは？」と」



涌井「異世界に？」

黒木「はい、これだけの機器の点検にも関わらず異常は見つかりませんでした」

黒木「ですが、GPSなどの外部との連絡は回復していません」

黒木「もし機器に我々の想像以上のエラーがあるとすれば話は別ですが、今のところそれも確認できません」

黒木「あくまでも憶測の域を出ませんが……タイムスリップ、もしくは我々が知っている世界とは別の世界に来たと考えることもできます」

沼田「なるほど……確か前の鉄底海峡での戦いの際」

沼田「紺碧艦隊・旭日艦隊の方々が我々とは違う別世界から来たと言っていた」

沼田「あの方々も嵐に巻き込まれて転移したと言っていたな」

涌井「だが転移したと考えるにはまだ早い、なら本来の経由地点であるハワイ・パールハーバーに向かう必要がある」

涌井「そこで全てがわかるはずだ、異世界に来たのか、タイムスリップしたのか、ただ機器が想定外のエラーをはいたか……」

深町「航法装置が正しければ、ここから後6時間でハワイ諸島にたどり着くはずだからな」

海江田「ああ……」

涌井「全艦に通達する、これより我が艦隊は予定通りハワイ方面に進行する！」  
 「つばめ」の全艦はハワイ方面に進むことになった。

某海域

「……時間です」

「全艦、速力そのまま、発艦準備」

「了解、姉さま」

「姉さま、真面目にやってくださいね？」

「ふふふ、わかってるわ」

「あの時と同じように……ね？」

「ええ」

次々と発艦する零式艦戦21型・九七艦攻・九九艦爆

あの真珠湾攻撃を再現するように……

一方、「つばめ」はハワイ方面に急ぎ向かっていた

黒木「もうそろそろでよろしいかと」

涌井「うむ、偵察機発艦せよ」

「みらい」・「はるか」よりMV/SA-38J「海鳥改」が発艦する

シーフオール1<<<こちらみらい所属シーフオール1、発艦に異常なし>>>

シーフオール2<<<こちらはるか所属シーフオール2、同じく発艦に異常なし>>>

黒木「ハワイ方面に変わったところがないか偵察するのが今回の任務だ、頼むぞ」

シーフオール1<<<了解>>>

シーフオール2<<<了解>>>

そのまま飛び立っていく海鳥改の2機

涌井「これがどう出るか……………」

黒木「……………」

シーフオール1<<<シーフオール1、飛行状態異常なし>>>

シーフオール2<<<しかし今日はやけに雲が多いですね>>>

航空管制<<<こちら航空管制、聞こえるか?>>>

シーフオール1<<<聞こえます>>>

航空管制<<<もうそろそろでハワイ諸島が一望できるポイントにつくはずだ>>>

シーフォール2<<<異世界に飛んでいたらどうなるんです?>>>  
シーフォール1<<<その時はその時だ、いくぞ!>>>

航空母艦「いぶき」内艦橋

涌井「そろそろ海鳥の2機がハワイ上空空域にいるはずだ」

通信『緊急連絡!緊急連絡!』

通信『シーフォール1・2からです!』

沼田「通信開け!」

シーフォール1<<<こちらシーフォール1!大変です!>>>

沼田「何事だ!」

シーフォール1<<<何事もあったもんじゃありません!>>>

シーフォール1<<<真珠湾:Pールハーバーが炎上しています!>>>

シーフォール2<<<出来る限りの写真を撮りました、転送して離脱します!>>>

沼田「了解!」

涌井「……深海棲艦の空襲か?」

黒木「とにかく、その写真を見てみましょう」

黒木「各艦長及び一部艦娘は「いぶき」に集合せよ」

数分後

「いぶき」 内作戦会議室

淵上「これがシーフオール2機が転送した写真です」

梅津「これは……………」

そこには炎上するパールハーバーとその周辺の軍事施設

そして迎撃する「少女」達と上空から攻撃中の航空機らしきもの

それらが写っていた

深町「こりやなんだ？艦娘か？」

深町「あまりよく見えんが」

浮船「艦装であるの航空機を迎撃するもんだから艦娘だろうが」

提督「問題がこの少女をデータベースに照会しても何も一致しなかった」

瀬戸「我々も知らない艦娘か……………」

清家「あてこの航空機は……………」

赤城「!？」

その航空機は紛れもない零式艦戦21型・九七艦攻、九九艦爆

初期の太平洋戦争において活躍した名機達であり

一航戦・二航戦・五航戦の第一航空艦隊も広く使用していた  
また性能不足になった戦争末期でも使われた航空機でもある。

赤城「なぜ零式たちが……？」

加賀「サイズ的には私達の艦載機と同様ね」

蒼龍「つまり艦娘の航空機が艦娘を攻撃している……？」

飛龍「うーん………」

浦田「深海棲艦が艦娘の装備を擬態したとも推測される………だが見知らぬ艦娘か」

梅津「謎が増えてしまったな」

涌井「だが襲われてる状況に変わりはない、どちらにしろ我々は行動を起こす必要がある」

涌井「黒木君、作戦指揮を」

黒木「了解です、涌井海将補」

カーンカーンカーン

「全艦、戦闘用意！全艦、戦闘用意！」

輸送艦「みうら」

「艦尾門扉開放！カタパルトシークエンス異常なし！」

「最終確認OK！発艦準備OK！」

赤城 「了解です」

赤城 (ともかく、今はやれることをやるのみ！)

赤城 「二航戦赤城、出ます！」

赤城が攻撃し続々と「加賀」「蒼龍」「飛龍」「翔鶴」「瑞鶴」が出撃する  
そして

「発艦準備整いました！」

摩耶 「おう、わかったぜ！」

摩耶 「防空巡洋艦摩耶、抜猫だ！」

摩耶率いる防空艦隊「秋月」「初月」「吹雪」「夕立」「時雨」が出撃した

一方海自の航空母艦「いぶき」「あまぎ」では……………

「発進位置整いました！」

ガラム2<<<ガラム2、テイクオフ！>>>

国連空軍より派遣された「ガラム」が発艦する

アルバトロス1<<<アルバトロス1、テイクオフ！>>>

ブレイド1<<<ブレイド1、テイクオフ!>>>

F-35B編成のアルバトロスの5機及びF-3B編成のブレイドの5機も発艦する

各護衛艦も対空戦闘の準備に入った

デビル1<<<こちらいぶき所属AEW、デビル1>>>

>>>  
デビル1<<<戦闘機・攻撃機・爆撃機共に多数だ、施設の被害が増える前に撃墜せよ

ガルム2<<<了解だ、相棒行くぞ!>>>

ガルム1<<<……>>>

赤城「風向きよし、速力よし!第一航空艦隊、艦載機発艦始め!」

瑞鶴「発艦始め!」

翔鶴「発艦始め!」

赤城達から発艦するのは戦闘機の「烈風」「紫電改二」そして前回の戦いにおいて後世世界からの技術提供で実現した烈風を超える戦闘機「電征」が発艦する。

瑞鶴（私達の艦載機に似ている航空機が真珠湾を攻撃している……）



瑞鶴（あの時のように……………か）

翔鶴（私達があの時攻撃した時のように深海棲艦は攻撃してるのかしら？）

翔鶴（それとも……………）

烈風妖精「ゴーゴーゴー」

ガルム2<<FOX2!FOX2!>>

アルバトロス2<<FOX1、Fire!>>

ブレイド4<<FOX2、Fire!>>

紫電改二妖精「ハッシャ!ハッシャ!」

電征妖精「ーテッ!」

次々と戦果を上げる戦闘機達

指揮官「あれは……………どこの隊が迎撃しているんだ!？」

通信『わかりません!』

通信『少なくとも我々の敵ではないと考えられます!』

指揮官（あれは確かF-35……………数年前にほぼ消失して以降製造も何もされていな

いはずだ……………）



護衛艦「みらい」

青梅「こちらに接近してきた航空機の撃墜を確認！」

菊池「艦長、来るのでしょうか？」

梅津「ああ……敵も慌ててこちらに戦力を割くであろう」

「報告！敵、航空機群こちらに一斉にやってきました！」

菊池「対空戦闘用意！」

蒼龍「こつちのほうにあの航空機群が来た模様です！」

赤城「第一次隊はすぐに後退して、第二次隊発艦急ぎます！」

加賀「第二次戦闘機隊、発艦！」

再び「烈風」「紫電改二」「電征」が発艦する

赤城「防空艦隊は対空戦を密にして！」

摩耶「任せろ！対空戦闘用意！」

秋月「撃ち方用意！」

吹雪「発射用意よし！」

摩耶「発射！」

防空艦隊も対空戦の弾幕を張る

護衛艦「ちようかい」

電測員「敵航空機群接近！迎撃距離に入ります！」

砲雷長「ESSM、発射用意よし！」

浮船「撃ち方始め！」

護衛艦の対空ミサイルによる迎撃も開始される。

烈風妖精「ウテツ！ウテツ！」

電征妖精「ファイア！ファイア！」

練度も高く、機体性能もあつてか、相手の航空機をいとも簡単に撃ち落としていく

青梅「SM-2、命中！撃墜確認」

青梅「全艦が迎撃した数は約30機かと」

菊池「これで敵は引いてくれるはずだ」

梅津「……………」

青梅「ま、待つてください！超高速で接近する6つの反応を探知！」

青梅「これは……………」

赤城「……!?!」

その時赤城達の目に映ったのは

2人の

加賀「あれは一体……」

瑞鶴「嘘……」

姿は妖狐のようであるが、空母の艦装を持っている

そしてその艦装から推測できる艦は

「赤城」と「加賀」である

黒木「あれは艦娘か? 深海棲艦か?」

雨沢「特生リーダーでは深海棲艦とは判断されていません! 艦娘とは60%の確率で同一とのこと!」

黒木「100%ではない……か」

赤城(B)「……来てみれば……なるほどね……」あの方が言っていた「艦娘」ね

加賀(B)「姉さま、待つてください。いくら強化されていても空母が前線に出てし

まっては元も子もありません」

加賀(B)「すでに我々の目標を達成されています、これ以上の戦闘行為は危険では?」

赤城（B）「……………ええ……………離脱するわ」

赤城（B）（次会う時は、徹底的に叩き潰すわ）

赤城（B）（もう一人の「私」）

青梅「謎の少女」、急速で当海域を離脱していきます！」

菊池「これは……………」

梅津「これで証明されたようだな、この世界は我々が知る世界ではない……………」

赤城「……………」

加賀「赤城さん……………」

赤城「ええ……………大丈夫です、加賀さん」

吹雪（赤城さん……………）

航空母艦「いぶき」艦橋

通信員「オープンチャンネルでの通信を確認しました！ハワイからの通信です！」

涌井「繋げ」

ピッ

指揮官『こちらアズールレーン第201独立遊撃部隊「アスカロン」の指揮官だ』

指揮官『貴艦達の所属は？』

沼田「アズールレーン……？」

黒木「………」

涌井「こちら日本国自衛隊統合任務部隊「つばめ」司令の涌井海将補だ」

指揮官『日本国……？』

涌井「ここで説明するときりが無い、そちらに上がらせてもらえないだろうか？」

指揮官「………了解した」

ピッ

涌井「………どうやら黒木君の勘が当たったようだな」

沼田「アズールレーン………か」

黒木「ともかく、こっちの事情も話し、なおかつこの世界についての詳細を聞かなければなりません」

黒木「ヘリであちらに向かいましょう」

涌井「ああ」

沼田「各艦に通達！パールハーバー付近に向かい、そこで停船せよ！」

輸送艦 「みうら」内

瑞鶴 「あの子達は一体……………」

赤城 「私であつて私じゃない気がします」

瑞鶴 「赤城さん……………」

加賀 「五航戦の子たちもあの子達の後ろにいたのかもしれないね」

瑞鶴 「……………この世界つてどうなってるのかな」

翔鶴 「今、提督が涌井海将補さんや沼田海将補さん、黒木特佐さんと共にハワイでアズールレーンというところの指揮官さんに事情を話して、なおかつこの世界について聞きに行つてるところだから……………」

蒼龍 「ますます謎が深まりましたね」

飛龍 （この世界の私つてどうなのかなあ……………」

「まさかのイレギュラーな事態ね」

「でも潰す必要はないわ、暫くの間は」

「ええ、計画に支障はない……………」

「引き続き観察を進める……………」

????????????



???  
「艦娘」、活躍を楽しみにしているわ」

続く

## 第2話 艦船少女

オアフ島 パールハーバー近海

球磨 「かれこれもう2時間経つクマー」

神通 「大丈夫かしら………」

睦月 「もし、信じてもらえなかったらどうなるの？」

吹雪 「うーん………」

高雄 「ともかく、今は提督達を信じるしか無いわ」

時雨 「ところで気になってることがあるんだ、扶桑」

外の様子を見る時雨

扶桑 「何かしら？」

時雨 「私達の艦隊を包囲しているあの人達……艦娘なのかな？」

山城 「艦装を持って海を浮かんでるなら艦娘に間違いはないと思うけど」

霧島 「似たような存在はここにもいるのでしょうか……ただ」

霧島 「私達に攻撃してきた艦載機達は……あの通り過ぎた二人が持っているものと確

定していいと思います」

霧島「ですが、それだと何故艦娘が艦娘を攻撃しているのかは……」  
大和「……………今は待つしか無い」

オアフ島・パールハーバー

司令部施設内

応接室

指揮官「……なるほど」

指揮官「つまりあなた方は嵐に巻き込まれ、結果ここに迷い込んでしまったと」

提督「はい、突拍子も無い話であります……………」

指揮官「いえいえ、事実は小説より奇なり……………私は信じる事が出来る」

涌井「では……………」

指揮官「ええ、貴方達を我々「アスカロン」が保護いたします」

指揮官「しかし……………艦娘ですか……………」

黒木「はい、艦の記憶と艦装・魂を持つ少女達です」

指揮官「私達では、そのような少女達を「艦船少女」と呼んでいます」

指揮官「現在「セイレーン」に対抗できる唯一の存在です」

指揮官「先のセイレーン出現時、イージス艦などの従来兵器は惨敗し、その殆どを消しました」

指揮官「それ以降、海軍の主力は艦船少女になっています」

指揮官「なおその艦船少女の力によりセイレーンを人類勢力下よりは追い出しましたが、完全には消滅していません」

指揮官「そして、方針の違いにより「鉄血」と「ユニオン」「ロイヤル」の勢力対立が激化し、「鉄血」が「レッドアクシズ」という新勢力を設立しアズールレーンより離脱」  
指揮官「さらに「鉄血」に賛同した「重桜」がレッドアクシズに加入し、「ユニオン」「ロイヤル」VS「鉄血」「重桜」という構図による戦争が勃発しました。」

沼田「人類同士の争いか……………」

涌井「聞き限りユニオンが我々で言うアメリカ、ロイヤルがイギリス、鉄血がドイツ、重桜が日本のようだな」

黒木「人類同士の争いで、そして通常兵器も殆ど無い今……………使われるのは艦船少女か……………」

指揮官「はい、艦船少女には艦船少女の攻撃しか効かないので、必然的に従来兵器なども使用できなくなります」

黒木「ちなみに過去に我々の世界のような世界大戦のような戦争は起こったのでしょ

うか？」

指揮官「いえ、そのようなことは全く……………」

黒木「そうですか……………」

黒木「ちなみに暦はどんなものですか？我々は太陽暦のグレゴリオ暦での数え方で西暦というもので、現在は2020年です」

指揮官「暦は確か…新暦というもので2020年です。その太陽暦の数え方で間違いはないと思います」

黒木「なるほど……………」

沼田「……………」

涌井「……………では「つばめ」の艦隊をパールハーバーの湾内に入れてよろしいでしょうか？」

指揮官「ええ、構いません」

航空母艦「いぶき」

通信員「通信です、パールハーバーまで出た涌井司令からです」

新波「繋げ」

涌井『こちらは「つばめ」の涌井司令だ』

涌井『相手方との指揮官の話し合いの結果、我々を保護してくれることになった』

涌井『これより「つばめ」の全艦はパールハーバーの湾内に移動してくれ』

涌井『以上だ』

ピッ

新波「どうやら、わかってくれたようですね」

秋津「ああ……海将補達に感謝しなければな」

夕立「なんとかなっただつぽい？」

時雨「そうみたいだね」

吹雪「あの艦娘達……どんな人なんだろう……？」

長門「まあ、行ってみるしか無いな」

赤城「……………」

数時間後

パールハーバー内  
停泊エリア

蒼龍「……………で」

飛龍「わ、私達が行くんですか!？」

提督「仕方がないだろう、あちらの指揮官が君たちに興味を示しているのだ」

提督「それと同時に、これからの方針について話し合うつもりだ」

赤城「艦娘と艦船少女……………」

加賀「厳密にはこっちの艦娘は艦船少女というのね」

提督「どうやら「重桜」と呼ばれる国家は平行世界間を移動できる技術を持っているらしい」

長門「つまり、それがあれば我々も元の世界に戻る……………」

霧島「ですかその「重桜」はこのアズールレーンの敵なんですよ？そう安々と技術を渡してくれそうにはなさそうですが……………」

提督「それらについても話し合う予定だ」

陽炎「ふーん」

???「……………」

物陰より陽炎を見る少女

陽炎「？」

だが陽炎がそちらに振り向くと誰もいなかった

吹雪「陽炎ちゃん、どうしたんですか？」

陽炎「なんか私の方を見てる人がいたような……気のせいかな？」

明石「私もさつきから誰かに見られてる気がする……」

多摩「うん、見られてる気がするニヤ……」

吹雪「明石さんと多摩さんも？」

長門「気のせいだろう、異界の地で気が張って過剰になっているだけかもしれないぞ」

長門「早く行くぞ」

明石「は、はい！」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

艦娘達を見つめる少女が約二人……

司令部



応接室

指揮官「彼女達が艦娘か……」

提督「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」「翔鶴」「瑞鶴」「霧島」「長門」「明石」「鳥海」「多摩」「神通」「吹雪」「陽炎」です」

ひと通り紹介する

提督「流石に人数が多すぎるので、いつぺんに連れて行くわけにはいかなかったのですが……他にも潜水艦の娘などもいます」

指揮官「……なるほど……」「重桜」の艦とも違うな」

指揮官「これが「艦娘」か……」

吹雪（この人がこの指揮官さん……）

指揮官「うむ……じゃあこれを見て欲しい」

備え付けプロジェクトで何か映し出すようだ

指揮官「先程の襲撃は「重桜」の艦艇が行ったと君たちの情報とのすり合わせの結果そう断定した」

指揮官「そして、襲撃を行った艦は「重桜」の主力航空母艦達だ」

指揮官「これが「赤城」」

指揮官「これが「加賀」」

指揮官「蒼龍」に「飛龍」、そして「翔鶴」「瑞鶴」だ」  
瑞鶴「!？」

蒼龍「……………これがこの世界での私でしょうか？」

提督「ああ、間違いない」

飛龍「獣の耳がついていますね」

指揮官「重桜の艦は全体的に人外的な容姿が多く、一説にはセイレーンの技術を取り込んだからとされる」

翔鶴「セイレーンは私達の世界で言う深海棲艦と似たようなものですよね？」

明石「つまり敵の技術を利用してあるってことね」

指揮官「ちなみにうちにも重桜の艦船少女がいる……正式には元重桜のだが」

陽炎「へー……」

指揮官「入っついで、「不知火」と「明石」」

ガチャ

不知火（B）「失礼致します……………」

明石（B）「失礼しますにゃ」

指揮官「紹介しよう工作艦「明石」と駆逐艦「不知火」

明石「……………にゃ？」

陽炎「あの子が……この世界の不知火!？」

不知火(B)「あらあら……あなたが噂の「艦娘」の陽炎?」

不知火(B)「あの陽炎とは随分違うのやな……」

不知火(B)「まあともかく、よろしゅうな」

陽炎「よ、よろしく」

陽炎(うちの不知火とも随分違うわね……)

一方

「明石」のほうは

明石「えーつとあの……」

明石(B)「ふ、ふつつかものですがよろしくお願いしますにや……」

明石「よ、よろしく!」

あんまりにも違いすぎるため明石もびっくりしている

多摩「………にやー」

明石(B)「にや?」

多摩「にやー」

明石(B)「にやー」

多摩・明石(B)「………!」ガシッ

明石「何か通じ合ったみたいね、握手しているわ」

球磨「感心するクマー」

和やかになっているようだ

指揮官「彼女達は「重桜」がアズールレーンに加入していた時に連絡員として派遣されていたのだが、「重桜」が離脱し、それによる混乱により本国に帰ろうにも帰れなくなり、さらにアズールレーン内で反レッドアクシズ思想が増えつつあり、このまま通常部隊に配備されていても隊内での不信を増やすだけだというわけで我々が預かっている」

指揮官はひと通り説明した

一方吹雪は険しい表情だった。

吹雪「……………指揮官さん、この世界では艦船少女同士が戦っているんですよね？」

指揮官「……………ああ」

吹雪「……………そんなの間違ってると思います。いくら方針とかが違うからって、分かり合えないんですか!?!」

神通「吹雪ちゃん……………」

提督「……………」

指揮官はすぐに口を開く

指揮官「……ああ、俺もそう考えている。だがな上の連中の殆どは自分の保身・利権拡大に必死だ。セイレーンを押し戻すまではまだよかったんだが…その後、急に180度方針を変えて「鉄血」と「重桜」を離反させる原因を作ったんだ」

指揮官「だがそれをよく思わない人もいる、俺や上の一部の幹部だ」

指揮官「その幹部の尽力によりこの「アスカロン」が作られたんだ、相手を一方的に叩きのめさずに、この戦いを終わらせ、再び台頭してくると考えられるセイレーンに対抗するためにな」

指揮官「俺はこの人類同士の戦いを終わらせ、セイレーンを倒し平和な世界にするために指揮官の椅子にいるんだ。」

吹雪「……………」

霧島「ちなみに私達が元の世界に戻る方法は……………」

指揮官「それは……………」

ビービービービー

突然、警報音が鳴り響く

吹雪「な、なんですか!?!」

長門「敵襲か!?!」

指揮官「報告しろ!」

通信『報告！周辺を哨戒していたミサイル艇がセイレーンに撃破された模様！』

指揮官「セイレーンか………出撃用意！」

赤城「提督、私達も！」

赤城「放っておく訳にはいきません！」

提督「うむ、プランC構成で出撃せよ！」

長門「了解！」

指揮官「指揮は指令センターで取る！提督氏もこちらへ！」

提督「はっ！」

「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」「翔鶴」「瑞鶴」の第1航空艦隊及び

「大和」「金剛」「長門」「吹雪」「夕立」「愛宕」の第2艦隊が出撃する

一方「アスカロン」は「エンタープライズ」「ホーネット」「イラストリアス」「ユニコーン」「ノーフォーク」「サンティエゴ」を出撃させた。

ハワイ諸島近接海域

ホーネット「あれが噂の「カムス」………」

イラストリアス「私達と同じように記憶を受け継いでいる存在のようですね」

ユニコーン「仲良く出来る……かな？」

エンタープライズ「「重桜」の艦艇とも少し似ているが……だいたい違うな」

エンタープライズ（指揮官の「彼女達が信用に足る人物なのか見極めろ」……か）

赤城「あれが「ビッグE」のエンタープライズ……」

加賀「五航戦の子をも超える運を持った日本海軍最大の敵……そして第2次大戦での最高峰武勲艦……」

瑞鶴「流石に私もあんな応急修理はできるわけではないし……」

飛龍「日本海軍自体、応急修理の技術はアメリカより劣っていましたね……まあ今さら悔やんでも仕方ないですが」

蒼龍「ともかく今は目の前の敵に集中しましょう」

翔鶴「ええ」

吹雪（セイレーン……深海棲艦とも違う敵……一体どんなのだろう？）

デビル1<<<こちら「いぶき」所属早期警戒機デビル1、セイレーンらしきものを確認！まもなく交戦距離に入ります！>>>

長門「各艦、戦闘用意！」

大和「第1、第2主砲、発射準備！」

主砲妖精「エツサエツサエツサ」

金剛「こちらの電探でも目標探知デース！」

吹雪「あれは……………」

セイレーン駆逐「……………フフフフ」

見た目は深海棲艦に少し似ている

だが出しているオーラが違った

デビル1<<<「アスカロン」より転送された種別データで照会した結果！戦艦タイプ

5隻！空母タイプ4隻！重巡タイプ5隻！駆逐タイプ5隻の模様！>>>

長門「小手調べ程度だな……………これは」

赤城「風向きよし、速力よし！第一次攻撃隊発艦始め！」

加賀「いきます……………！」

赤城達から護衛の戦闘機「烈風」と攻撃機「流星改」爆撃機「彗星一二甲」が発艦する

エンタープライズ「突き進むぞ！各艦、第1次攻撃隊発艦！」



一方エンタープライズ達は戦闘機「F6Fヘルキャット」「シーフアング」攻撃機「バラクーダ」「TBFアベンジャー」爆撃機「SB2Cヘルダイバー」を発艦させる

長門「戦艦の殴り合いは我々に任せろ！」

金剛「いくデース！」

大和「第一、第二主砲撃ち方始め！」

金剛「全砲門、ファイヤアア！」

長門「全主砲、斉射！ーてえええっ！」

初っ端からの主力戦艦3隻の砲撃により、セイレーンの戦艦3隻があっけなく落ちる

長門「…………殴り合いする暇もなかったようだな」

ホーネット「流石Japanの戦艦、火力が違うわね！」

エンタープライズ「負けてはいられん、攻撃隊は残りの戦艦2隻をねらえ」

もちろんエンタープライズ達の航空隊も負けてはおらず

戦艦2隻を葬り去る

赤城「残りの空母に攻撃を仕掛けて！」

流星改妖精「リョウカイ」

空母Queen「……………！」

セイレーンの空母も艦載機を出すか……

烈風妖精「ゴーゴーゴー！」

烈風妖精「ファイアファイア！」

やはり落とされていく

赤城「あまり深海棲艦とは変わらないようね……」

セイレーン空母「ナニ!？」

空母も4隻が一気に撃破される。

吹雪「当たって！」

夕立「撃ち方始めっばい！」

愛宕「ばんばかばん!ーてっ！」

駆逐3隻を撃破する3人

サンティエゴ「Fire! Fire！」

ノーフォーク「ノーフォーク、がんばる!撃てっ！」

サンティエゴ・ノーフォークの二人も重巡二隻を撃破する

デビル1<<残り戦艦2、重巡3、駆逐2!>>

赤城「最後まで慢心しないで！」

蒼龍「了解！」

瑞鶴「もちろんよ！第三次攻撃隊、爆装急いで！」

最後まで気は抜かず……攻撃する

前世での戦い、そして今までの戦いで学んだことである。

エンタープライズ「……………」

それをまじまじと見つめるエンタープライズ

エンタープライズ（違う……「重桜」とも違う……）

エンタープライズ（あれは「守る」という覚悟がよく見える……必死だ）

エンタープライズ（「重桜」の空母のように破壊を繰り返すような物ではない……）

エンタープライズ（あれはまさに「世界」を守る守護者のようだ）

ホーネット「姉ちゃん？」

エンタープライズ「攻撃隊、発艦開始」

エンタープライズ「異世界から来た日本の空母だけに戦果を取られてしまつてはア

ズールレーンの名に傷がつく！」

エンタープライズ「残りの艦を全て沈めるつもりでいくぞ！」

ホーネット「イ、イエス・ママ！」

ホーネット（姉ちゃんがあんなに燃えるところなんて……初めてみた……）

イラストリアス「敵航空機群、さらに発艦！」  
エンタープライズ「戦闘機隊、迎撃せよ！」

.....

大和「これで、最後よ！」

戦艦Rook「.....！」

大和の近距離砲撃で最後に残った重巡が轟沈する

デビルー<<周辺海域にストレンジャーなし！迎撃成功です！>>

吹雪「ふう.....よかったあ.....」

夕立「疲れたっぼい.....」

大和「しかし.....深海棲艦のように人型タイプはいないみたいですね」

長門「だが我々の攻撃が通用したということは.....深海棲艦とは同じような「なか」があるのだろうか」

金剛「気になりますネー.....」

エンタープライズ「……………おいお前」

赤城「は、はい！」

エンタープライズ「お前が空母艦隊の旗艦の「赤城」と言ったな」

赤城「そ、そうですが……………」

エンタープライズ「ようこそ「アスカロン」へ、これからよろしく頼むぞ」

赤城「……………ええ、こちらこそよろしく頼むわ」

握手をする二人

瑞鶴「さすがビッグE、艦載機の連携も見事だったわね」

飛龍「なるほど！ああいう風にすればもともとも強くなれるかも！」

エンタープライズ「……………」

赤城「エンタープライズさん、どうしたんですか？」

エンタープライズ「私に恨みとかないのか？…私はかつてミッドウェーであなた達を

……………」

加賀「……………憎しみからは何も生まれないから」

瑞鶴「あの時は戦争だった……………だから殺し合いもやってたわ、私達も」

飛龍「戦争である以上殺し合いも仕方ありませんからね……………だけど今は違う」

蒼龍「憎しみなんか引きずられて深海棲艦にやられたら元も子もないですからね」

エンタープライズ「……………なるほど」

エンタープライズ（お前たちの覚悟、よく見れた）

エンタープライズ（指揮官よ、これならあの「作戦」も進められるぞ）

指揮官『エンタープライズ達そして艦娘達もよくやってくれた』

指揮官『帰投してくれ、なお言いそびれた「方法」については2時間後に話す』

長門「了解だ」

司令部内

指揮官室

指揮官「どうだったか？艦娘達は」

エンタープライズ「信用に足る人物達だ、練度なども申し分ない」

エンタープライズ「これなら「作戦」もいけるはずだ」

指揮官「……………彼女達は我々を助けるために来たのかもしれない」

指揮官「さて、作戦室に移動するか」

エンタープライズ「ああ」

指揮官（人類同士の戦いはここで終わらせてみせる！）

指揮官（それが俺たちにできることだ！）  
続く

## 第3話 珊瑚海へ

司令部内

作戦会議室

指揮官 「「つばめ」の方々、早速ですが「方法」について話したいと思います」

涌井 「うむ、確か我々の世界に戻れる方法だったな」

沼田 「「重桜」がその平行世界についての技術を持っていると……う？」

指揮官 「正確には重桜が所属している軍事同盟の「レッドアクシズ」がそれを持っていると言われています」

指揮官 「彼らレッドアクシズはセイレーンの技術を徹底的に吸収しており、その副産物としてその平行世界の観測・移動技術を断続的ながら持っている……とスパイからの情報です」

黒木 「なるほど……」

指揮官 「ただそれも確たる証拠もなく……一種の博打とも言えますが」

梅津 「ただじつと待つより自ら行動したほうが良い」

浦田 「全くです」



指揮官「そのためには……あなた方に協力をお願いしたいのですが……」

涌井「なんでしょうか？」

指揮官「「重桜」はこの先、あなた方が言う「太平洋戦争」での動きと同じようなことをしてくるでしょう」

指揮官「それを逆手に取り、「重桜」の艦達を撃破してほしいのです」

指揮官「もちろん、相手は殺さず拿捕するのです」

黒木「拿捕してその技術について聞き出す……と？」

指揮官「はい」

涌井「これはもぐらたたきのような作戦になるな……」

深町「だがやらんわけにはいかんでしよう、我々がいない間に深海棲艦が勢力を盛り返したりでもしちまったら！」

海江田「途方もない戦いになりそうだが、やる価値はあります。涌井海将補」

涌井「うむ」

涌井「これより「つばめ」は「アスカロン」に全面協力する」

指揮官「ありがとうございます」

深々と礼をする指揮官

黒木「……我々はなにを？」

指揮官「重桜」はすでにフィリピン方面・ラバウルなどの要所を占領し、ロイヤル領オーストラリアに迫る勢いです」

指揮官「重桜」はオーストラリア占領のために同じくロイヤル領パプアニューギニアの要所「ポートモレスビー」を攻略すると思われます」

提督「……でしたら珊瑚海海戦でしょうか？」

瑞鶴「ポートモレスビーの攻略なら、私達のあの時の珊瑚海海戦でしょうね」

翔鶴「あの戦いですか……」

瑞鶴「要するに、相手が昔の私みたいなことをするから、それを逆手に取って迎え撃つてことね」

指揮官「ご名答だ」

瑞鶴「私が私に負けるつもりはないわ、ね？翔鶴姉」

翔鶴「ええ、瑞鶴」

指揮官「我々「アスカロン」から「エンタープライズ」「ホーネット」「ヨークタウン」「レキシントン」「サラトガ」「イラストラアス」「不知火」「明石」「ラファイ」「ユニコーン」「ノーフォーク」をそちらに派遣させてよろしいでしょうか？」

提督「ええ、構いません」

指揮官「了解しました」

「流石「アレ」のオリジナルと言ったところね……艦娘は」

「ええ、「アレ」より威力がとても高いということがわかったわ」

「小艦隊をあつちに割いて良かったわね」

「さて、ここからどう動くのかしら……」「ヒト」は」

「さあね、前と同じようになるんじゃない？」

「フッフ、そうなたらなつたで面白いけど……つまらないわね」

「まあ、とりあえず監視していきましよう……今のところ「計画」に支障はない

からな」

??? 「フッフッフ………」

艦娘輸送艦「みうら」内

エンタープライズ「というわけで、よろしく頼むぞ」

長門「ああ、よろしく頼むぞ、ビッグE」

ホーネット「よろしく頼むわ」

ラフィー「ねえ、もう休んでいい？」

霧島「数が足りてないような気がします……」

イラストリアス「ヨークタウンさんたちは別の任務の関係で後ほど合流の予定です」

長門「了解した」

航空母艦「いぶき」内

作戦会議室

黒木「今後の行動ですが、我々は珊瑚海のエリア1—3—1に向かいます」

黒木「途中、セイレーンや重桜艦隊による奇襲の可能性も高いので念のため、対空見張は厳としてください」

黒木「空母の航空隊はスクランブル待機、艦娘隊も念のため警戒態勢維持のままいつでも出撃できるようにしてください」

沼田「アスカロンの艦船少女達は どうする？」

黒木「艦船少女達は艦娘隊に組み込んでください、配備も「みうら」で」

沼田「ああ、わかった」

浮船「しかし、弾薬やミサイルの規格が同じだったのは不幸中の幸いやったな」

浦田「ああ、ミサイルはこの世界にもまた少数はあるミサイル駆逐艦・戦闘機のが、艦

娘の弾薬は艦船少女の弾薬と共通できたようだからな」

瀬戸「食糧の問題も無いですからね」

涌井「うむ、これに関してはアスカロンの指揮官に感謝しなければならんな」

黒木「では通達どおり、お願いします」

.....

「重桜」帝都東京 帝国議会議堂 大臣会議室

首相「真珠湾への攻撃は半分成功だと？」

部下「はっ！途中謎の艦隊に邪魔された模様で！」

海軍大臣「ロイヤルの連中か？」

部下「それに関しては現在調査中です！」

海軍大臣「全く、一航戦共は……」

???「まあまあ、良いじゃないですか、戦場では何か起こるかわかりませんよ」

首相「こ、これはまさかあなた様がココに来るとは……」

???「たまには陸もいいですわね……」

海軍大臣「今回はどのようなご用件でしょうか？」

???「我々からの技術提供で実現した「アレ」は出来上がっていますかしら？」

海軍大臣「すでに試作段階のものは前線に配備済みです、アズールレーンの艦船少女共の数倍の力を発揮させることができますからね」

???「ほう、それは楽しみですわ……この星のために、これからも頼みますわよ」  
首相「りよ、了解です！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

輸送艦「みうら」艦内

神通「・・・・・・・・・・ということになっています」

イラストリアス「深海棲艦・・・・・・・・・・セイレーンと似てますね」

エンタープライズ「うむ・・・・・・・・・・艦娘と艦船少女類似していることが多い」

ホーネット「そういえば・・・・・・・・・・艦娘にはメンタルキューブはないんだね」

霧島「メンタルキューブ？」

イラストリアス「私達艦船少女はメンタルキューブといわれる、「大戦」の記録が蓄積されている高濃度の記録メモリ素体から生まれます」

霧島「私達は・・・・・・・・・・妖精さんたちによって生まれていますが・・・・・・・・・・正直なところはつきりはしてません」

大和「提督曰く、燃料・弾薬・ボーキサイト・鉄の四つを妖精さんたちが調合して私

達は生まれたと……」

ホーネット「なるほどね……」

長門「そしてその「大戦」は私達が艦だった時に経験した第二次世界大戦……」

エンタープライズ「うむ、偶然とは言いがたいな」

イラストリアス「なにかの因果関係はあるかもしれませんがね」

……

霧島「ふう、一段落ついたから金剛お姉さまのところに……ん？」

ラファイ「疲れた……横になりたい……」

霧島「あなたは……アスカロンの……」

ラファイ「ベンソン級駆逐艦の……ラファイだよ……」

霧島「ラファイさん、よろしくお願いしますね」

霧島（ラファイ……確か第三次ソロモン海戦のときに比叡お姉さまと交戦した艦

……）

霧島（比叡お姉さまが負傷して戦線から離脱したあと、反転して私達の陣を突破して

「私」を狙い撃とうとした……）

霧島（その後……魚雷・砲弾を受けて沈没……でしたっけ）

ラファイ「あなたがキリシマ？」

霧島「ええ、そうよ」

ラファイ「ふーん……どこか休めるところ、ある？」

霧島「でしたらここを右に曲がって……」

ビービービー

霧島「何事!？」

アナウンス「レーダーにて重桜の戦艦少女を確認！総員対水上戦闘用意！」

アナウンス「艦娘・艦船少女出撃せよ」

霧島「早く行かないと……ラファイさんも行きますよ？」

ラファイ「………はい」

………

航空母艦「いぶき」内

艦橋

涌井「報告しろ」

電測員「早期警戒機のレーダーにて重桜の艦船少女を捕捉しました」

電測員「駆逐4、重巡2、軽空1です！」

電測員「データ哨戒の結果、「如月」「睦月」「吹雪」「神風」「加古」「古鷹」「祥鳳」の

模様！」



電測員 「こちらに接近している模様！」

涌井 「艦娘・艦船少女機動部隊、発艦せよ」

涌井 「続いて、いぶきの艦載機もあげさせる！」

淵上 「了解しました」

「みうら」内

「カタパルトシークエンス、問題なし」

「機装チエック完了」

「発艦準備完了！」

「最終確認完了！オールクリア！」

霧島 「旗艦霧島！出撃します！」

第1隊 「霧島」「高雄」「鳥海」「球磨」「多摩」「鳥海」

神通 「旗艦神通、出撃します！」

第2隊 「神通」「川内」「吹雪」「陽炎」「睦月」「如月」

エンタープライズ 「エンタープライズ、出撃する！」

第3隊 「エンタープライズ」「ユニコーン」「ラファイ」「ノーフォーク」

.....

ガラム2<<<こちらガラム2、定位置についた>>>

ブレイド1<<<こちら問題ありません>>>

オペレーター「各艦娘隊、配置つきました！」

電測員「レーダー反応！敵、軽空母のものとみられる艦載機を確認！」

黒木「イージス艦、迎撃始め」

オペレーター「「みらい」SM-2発射！続いて「きりしま」「あたご」もSM-2発射しました！」

青梅「5、4、3、2、1、スタンバイ！」

青梅「本艦のSM-2、ターゲットα群を撃破！きりしまとあたごもβ群、γ群を撃破！」

黒木「よし、艦娘・艦船少女隊、前方へ！」

吹雪（この世界の私がいるみたいだけど、どんな子だろう？）

神通「まもなく、敵の視認距離に入ります！」

睦月「あれは……」

如月「あれって……」

艦娘達が見たものは……

睦月（B）「あ、アメさんとするわるいひとだ……」

如月（B）「ほんとだ……」

吹雪（B）「へーあれが艦娘かー」

神風（B）「あれが目標なのじゃ……」

吹雪「あれって!？」

霧島「あの幼稚園児姿の二人が睦月・如月で……あの水色の髪の人が吹雪で……あの銀色の髪の人が神風……」

睦月「にや!?!睦月達こっちだと園児なの!？」

如月「ふっつ可愛いわね……あつちの睦月ちゃんと私」

如月（だけど……あの子達の目……何かがおかしい……）

霧島「後方の重巡二隻が古鷹と加古、そして軽空母は祥鳳……」

エンタープライズ「敵艦確認、攻撃を開始する」

エンタープライズ「なお、撃沈はするな、ある程度ダメージを与えて拿捕せよ」

ラファイ「りょうかい……」

吹雪「いきます！」

愛宕「園児達に攻撃は気がひけるけど……痛くしたらごめんなさいね」

鳥海「撃てっ！」

艦娘達が攻撃を開始するが……

加古（B）「確認、攻撃開始……」

古鷹（B）「撃て」

祥鳳（B）「艦載機、発艦……」

霧島「!？」

陽炎「っ、強い！」

ラファイ「くっ……負けない……」

エンタープライズ（今までより攻撃力が強化されているだど？）

あきらかにアスカロンの艦船少女や艦娘達の攻撃力を上回っていた

鳥海「敵艦載機来ます！」

ユニコーン「ユニコーン、頑張る！いけっ！」

エンタープライズ「テイクオフ！」

吹雪「対空砲当たって！」

激しくなる砲撃戦

そして霧島はあつことに気づく

霧島（この艦船少女達、目が赤い……）

エンタープライズ「キリシマ、どうやら気づいたようだな」

霧島「……まさか！」

エンタープライズ「戦つてわかつたが、この艦船少女達には理性が感じられない」

エンタープライズ「今の彼女たちは戦闘をするだけの……バーサーカーだ」

吹雪「そんな……」

睦月「嘘……」

如月「酷い……」

涌井「あの少女達が戦闘マシンに……だと？」

提督「何らかの薬か何かで攻撃力を引き出すかわりに理性をなくした……か」

新波「非人道的だ……」

涌井「おそらく、重桜は艦船少女達を人としては扱つてないのだろう……」

黒木「司令、対艦ミサイル発射を許可願います」

涌井「どうするんだ？」

黒木「艦娘達とミサイルの同時攻撃を仕掛けるのです」

涌井「わかった、「あたご」・「ちようかい」・「あすか」・「いかづち」と航空隊に対艦ミサイル発射を許可する」

部下「了解」

通信『各艦娘・艦船少女隊に通達！あたご・ちようかいより対艦ミサイルを発射する！一時後退せよ！』

霧島「了解です！皆さん、後退してください」

エンタープライズ「ああ……」

艦娘・艦船少女達が一時後退する。

霧島「主砲発射用意！」

エンタープライズ「第二次攻撃隊、準備せよ」

砲雷長「SSM、攻撃始め！うちーかた始め！」

護衛艦ちようかい・あたご・あすか・いかづちより対艦ミサイルが発射され

ガラム1<<<FOX3>>>

ガラム2<<<FOX3!>>>

ブレイド1<<<FOX1、Fire!>>>  
ブレイド2<<<FOX1、Fire!>>>  
ブレイド5<<<FOX1、Fire!>>>  
通信『弾着10秒前!』

霧島「主砲撃ち方始め!てっ!」

エンタープライズ「Fire!」

エンタープライズと霧島が遠距離から攻撃する

通信『5、4、3、2、1、スタンバイ!』

9発の対艦ミサイルが命中する……

だが

霧島「……!」

霧島「目標視認!」

如月(B)「だいいち・だいにしゅほうそんしょう……にんむぞっこうかのう」

睦月(B)「そんしょうちゆうきぼ……にんむぞっこうかのう」

神風(B)「魚雷発射管・機関一部損傷、問題なし」

吹雪 (B) 「第三主砲・第一第二魚雷発射管損傷、任務続行可能」

古鷹 (B) 「魚雷発射管大破、作戦に問題なし」

加古 (B) 「第一主砲、第一副砲大破、作戦続行可能」

祥鳳 (B) 「航空機、損傷大、接近戦に移る」

再び砲撃を開始する彼女達

鳥海 「本当に戦う機械に……」

エンタープライズ 「……」

ラファイ 「まだ、負けない……」

霧島 「……！」

霧島 「ラファイさん！前に出すぎです！」

ラファイ 「……！」

霧島 「くっ！」

吹雪 「霧島さん！」

砲撃からラファイを庇う霧島

ラファイ 「キリシマ……」

霧島 「これくらい平気です」

霧島 「戦艦ならともかくラファイさんは駆逐艦なんですから、無理しないでください



ね？」

ラファイ「……うん」

エンタープライズ「無駄話は後だ！砲撃頼むぞ」

霧島「了解！」

ラファイ「……」

吹雪「撃てっ！」

吹雪（B）「……軽微」クラッ

吹雪「!?……任務続行可能」

吹雪（今足が……よろめいたような……）

吹雪「……！」

吹雪『通信いいですか！』

霧島『どうしましたか？吹雪さん』

吹雪『一つ思いついたんですが……足の艦装部分を集中攻撃してください！』

鳥海『足の艦装を……？』

吹雪『下の方に砲撃した時、上のところまではバリアみたいのがはってあったみたいだけど、足のところだけバリアがなかったんです』

吹雪「もしかしたら、そこを攻撃すれば……………」

エンタープライズ『やってみる価値はあるかもしれん……………了解した』  
ノーフォーク『や、やってみます!』

陽炎「下の攻撃なら、魚雷よ!」

睦月「いつけえっ!」

如月「ーてっ!」

吹雪（お願い・・・当たって!）

吹雪「撃ち方始め!」

吹雪（B）「!」

睦月（B）「きのう、ていし……………」

如月（B）「ていし……………」

神風（B）「……………」

パリンッ

何かが割れ、あちら側の駆逐艦4人は海面に倒れ込む  
もちろん、沈んではない。

霧島「保護お願いします!」

高雄「わかりました！」

鳥海「重巡二隻への攻撃は任せてください」

ノーフォーク「いい、行きます！」

球磨「行くクマー！」

多摩「ニヤァー！」

エンタープライズ「なら軽空のほうはいくぞ！」

ユニコーン「は、はい！」

巡洋艦の雷撃及び空母の攻撃機による雷撃が行われ

古鷹(B)「……！」

加古(B)「……！」

祥鳳(B)「！」

パリンッ

こちらも倒れ込んだ。

霧島「保護完了しました」

通信『了解、ただちに帰還してください』

電測員「現在、レーダーにストレンジヤーはありません！」

涌井「ご苦労、引き続き警戒を頼む」

電測員「了解！」

黒木「保護した艦船少女達は？」

提督『明石さん達が見えています。艦装は損傷しましたが命に別状はないそうです』

提督『目を覚まし次第、話を聞くつもりです』

黒木「わかった」

新波「しかし狂戦士の戦艦少女か……」

秋津「彼女達を詳しく調べる必要があるな……」

涌井「うむ……あと敵の情報を聞き出さねばな……」

黒木「推測ですが、彼女たちは薬か何かを投与されたと考えています」

黒木「もちろん、そのことに関しては艦娘の専門家の明石さん達に聞かないといけま

せんが……」

涌井「頭の片隅には入れておいたほうが良さそうだな……」

.....

「みうら」艦橋

吹雪「司令官、彼女達は……」

提督「幸い、命に別状はない」

提督「今はぐっすりと眠っているところだ」

提督「起き次第、話を聞くつもりだ」

吹雪「じゃあその話を聞くことに参加してもいいですか？」

提督「構わん、ちようど声をかけようと思ったところだ」

睦月「なら睦月も参加します！」

如月「私も参加……いいですか？」

提督「ああ……いきなり敵地の中で話を聞いたところで相手も混乱するだろう」

提督「だから日本の艦であり一番近い存在に話を聞いてもらった方が良いはずだ」

吹雪（もう一人の私……どんな子だろう？）

ラファイ「キリシマ……」

霧島「なんででしょうか？ラファイさん」

ラファイ「どうしてあの時ラファイを庇ったの？」

ラファイ「前」の時は敵同士だったのに……」

霧島「大戦」の時は確かに敵同士でした」

霧島「ですが、今はこうして一緒にいる仲間です」

霧島「仲間なら助け合わないといけませんからね……」

ラフィー「……………あの」

霧島「ん？」

ラフィー「……………ありがとう」

霧島「……………ええ、これからもよろしくお願いします」

……………

??? ???  
地点

翔鶴 (B) 「瑞鶴？準備はいいかしら？」

瑞鶴 (B) 「ええ……………」

翔鶴 (B) 「大丈夫？、どこか悪い？」

瑞鶴 (B) 「別に……………」

翔鶴 (B) 「なら良いのだけれど……………」

翔鶴 (B) 「私達は拠点ア—431に到達後、警戒待機……………」

瑞鶴 (B) 「ええ……………わかってるわ」

瑞鶴 (B) (胸騒ぎがする……)

瑞鶴 (B) (私であつて私でないものが……近づいてくる……う?)

.....

瑞鶴 「うう……」

翔鶴 「だ、大丈夫? 瑞鶴」

瑞鶴 「風邪引いたわけじゃないんだけど、なんか気分が変……」

翔鶴 「きつと疲れてるのだから、早く休んだら? 提督さんには私が言っておくから」

瑞鶴 「うん……おやすみ……」

瑞鶴 (なんなの……この感じ……疲れたにしては違和感がする)

瑞鶴 (珊瑚海に近づいているからかな……)

なんとも言えない違和感を抱えながら自分の部屋に戻る瑞鶴

加賀 「……」

そしてそれを見守る加賀であつた

続く

## 第4話 五航戦VS五航戦

ヨークタウン「こちらアズールレーン第27隊所属「ヨークタウン」「レキシントン」「サルトガ」、合流地点に到着しました。応答願います」

通信『こちらつばめ所属艦娘輸送艦「みうら」、了解』

通信『着艦許可します、こちらの誘導に従ってください』

ヨークタウン「了解しました」

.....

輸送艦「みうら」内格納庫

ヨークタウン「久しぶりね、エンタープライズ、ホーネット、イラストリアスさん」

エンタープライズ「合同演習以来だな、姉さん」

ホーネット「姉さんも元気そうね」

ホーネット「レキシントンさん、サルトガちゃんも久しぶり」

レキシントン「お久しぶりね、ホーネットちゃん」

サルトガ「お久しぶり！」

赤城「あなた達が……」



エンタープライズ「ヨークタウン姉さんとレキシントン、サラトガだ」

ヨークタウン「あなた達が艦娘……指揮官様から話は聞いています、どうかよろしくお願いたします」

瑞鶴（あの二人がレキシントン……そしてこっちの世界のサラトガさん……）

翔鶴（ずいぶん違うわね……）

飛龍（ヨークタウン……いけない！いけない！こういうの考えすぎると体に毒！）

赤城「ええ、よろしくお願います」

加賀「よろしく……」

蒼龍「よろしくお願います」

飛龍「よ、よろしくお願います！」

ヨークタウン「ええ……」

……

艦内 明石の工廠兼艦娘保健室

提督「どうだ？彼女達は」

明石「意識はハッキリしていて、問題ありません」

吹雪「ちなみに体の異常とかは……？」

明石「明石ちゃんと共同で彼女達の血液を調べてたら、なんかよくわからない物質が

検出されました」

明石「試しにセイレーンの残骸の破片の物質とその物質を照らし合わせたら、なんと！」

明石（B）「その破片の物質と彼女たちの血液中にあった物質が同一と一致したにゃー」

提督「うむ……………やはり重桜はセイレーンの技術を積極的に使用している……………」

提督「その技術を使って艦船少女達を戦闘する駒にしている…か」

睦月「ひ、酷い……………」

吹雪「彼女達のことをなくして戦闘するためだけにするなんて……………」

如月「許せないわね……………」

提督「ともかく、話を聞いてみよう」

明石「ならこちらにどうぞ」

睦月（B）「……………」

如月（B）「……………」

提督（おや、二人同時か）

明石（外見上幼い子なので、一人ぼっちは流石に……………）

明石 (B) (にや)

提督 「…いやあ、はじめまして提督だよー」

睦月 (B) 「……………」

如月 (B) 「……………」

提督 「お兄さんは怖くないよー」

精一杯笑顔になろうとするが

睦月 (B) 「……………」

如月 (B) 「……………」

黙ったままだった

如月 「全く司令官ったら……………」

提督 「すまない、頼んだ」

如月 「ええ、わかったわ」

睦月 「お名前、教えてくれるかな？」

睦月 (B) 「……………睦月だよ」

睦月 「へー！私も睦月なの」

睦月(B)「睦月……同じ……」

睦月「うん、同じだよ！よろしくね」

睦月(B)「よろしく……」

睦月「よし、あいさつよくできました！ご褒美に飴玉をあげちゃうよ」

睦月(B)「………！」

睦月(B)「アメさんだ！」

睦月「うん、アメさんだよ〜なんと中に練乳が入ってるよ」

睦月(B)「いったただきま〜す！」

一方、如月

如月「ふふっ、可愛い子………」

如月(B)「お、おいしくないよお………」

如月「大丈夫、食べないから………名前を教えてくれるかしら？」

如月(B)「如月……だよ」

如月「ふふっよく言えました」

如月「私も如月、これからもよろしくね」

如月(B)「………うん、よろしくおねがいます………」

如月「よく言えました、はなまるあげちゃうわ」

如月（B）「はなまる……」

少しずつ笑顔が見えてくる

提督（やはり同じ女の子ではほほ同じ存在相手だと安心感があるのだろうか）

明石（ただ単に提督が園児相手に怖すぎただけなんじゃ……）

明石（B）（確かににゃー）

提督（そんなに怖いか、俺……）

提督「睦月達、ここだとアレだからあつちの視聴覚室で一緒に遊んでこい」

睦月「了解にゃ！」

睦月「さあ、いくよー」

如月「行きましようね〜ふふっ」

睦月（B）「アメさん〜♪アメさん♪」

如月（B）「うん……」

二人とも手を繋いで別室に移動するのであった……。

明石「いいんですか？提督、聞かなくても……」

提督「睦月達には遊びながらそれとなく聞いてくれと言っておいた……」

提督「やはり俺って……そんな怖い……？」

吹雪「まあまあ……」

明石（B）「次は吹雪だにやー」

提督「ええつと、念のため艦名を覚えてくれるかな？」

吹雪（B）「吹雪型の長女、吹雪よ！」

吹雪（B）「よろしくね！」

提督「お、おう」

吹雪（明るい……）

吹雪（B）「……あなたが艦娘の「私」かな？」

吹雪「は、はいーどうしてそれを……」

吹雪（B）「なんとなく！よろしくねー」

吹雪「よ、よろしくお願いします……」

吹雪（B）「じゃあ知りたいことがあるならなんでも聞いて！」

吹雪「いや、そこ普通は「敵に情報は渡しません」って風になるんじゃない……」

提督「俺もそう思った」

吹雪（B）「あなた達は普通のユニオンのほうに比べて信用できると思っただけ」

吹雪（B）「長女の勘ってやつだけどね！」

提督 「ゴホン……ではだな……………」

提督 「平行世界の転移技術とかは君は知っているかね？」

吹雪 (B) 「平行世界の技術なんて知らないわ」

提督 「ふむ、あと君は理性を無くして我々に攻撃を仕掛けていたのだが、何かその件に關しての原因などを覚えているかね？」

吹雪 (B) 「……確かある注射を打たされたと思う」

吹雪 (B) 「なんか栄養剤とかドーのこーの言つてたよ」

吹雪 (B) 「そのせいなのか、出港した後の記憶がないんだよねー」

吹雪 (B) 「それで見境なくあなた達を攻撃しちゃったけど……」

吹雪 「い、いえー！止められてよかったですー！」

提督 「うむ……………なるほど」

……………

睦月 「それでどうだったの吹雪ちゃん？」

吹雪 「實際話してみるとちよつとおかしいところもあるけど、良い人だったよ」

如月 「まあ、それはよかったわねー」

睦月 (B) 「すーすー」

如月（B）「……………うむにや……………」

夕立「二人とも眠ったっぽい」

如月「可愛い……………」

睦月「にやしい……………」

夕立「他の4人の艦船少女さん達はどうしたっぽい？」

吹雪「司令官さんと話しているところ……………」

……………

航空母艦「いぶき」内

作戦会議室

涌井「収穫はなしか……………」

提督「いずれも平行世界への転移技術は知らない」と

浦田「ほぼ捨て駒として使われた艦船少女だからか……………囚われて問題ないのを選んだらう」

深町「どちらしろ、もっと上級の艦船少女じゃなければ知らなそうだがな」

海江田「戦艦・正規空母クラスか……………」

涌井「ともかく、目標地点到達後に早期警戒機及び哨戒機を発艦させ、哨戒に当たらせる」



涌井「艦船少女を探知次第、攻撃開始とする」

「はっ！」

涌井「なお深町君達潜水隊は対潜哨戒を厳とせよ、今まで潜水艦が現れたことはないが、今後現れないということはないはずだ」

深町「了解つと」

海江田「了解です、涌井海将補」

・・・・・・・・・・・・・・・・

エリアー1―31

新波「配置準備つきました」

涌井「作戦開始」

新波「了解！「あまぎ」と「あすか」、「かが」、「みらい」に連絡。へり艦載機発艦せよ」

「いぶき」「あまぎ」早期警戒管制機 EV―22 オスプレイ・アイが発艦し

「あすか」「かが」「みらい」より哨戒機 SH―60K及びMV／SA―38J 「海鳥

改」が発艦した。

梅津「各員に通達、対空見張りを厳となせ！」

菊池「はっ！」

## 青梅「了解」

デビル1<<<こちらデビル1、現在アンノウン確認できず>>>  
 デビル2<<<こっちもです>>>

シーフオール1<<<こっちも現在確認できません>>>

シーフオール2<<<同じく、静かです>>>

沼田「うむ……………」

黒木「念のため、艦娘達と空母艦載機も出しておいたほうが良いかと」

涌井「ああ……艦娘隊及び「いぶき」「あまぎ」航空隊、発艦せよー」

「大和」「長門」「翔鶴」「瑞鶴」「エンタープライズ」「レキシントン」「サラトガ」「ヨークタウン」「摩耶」「吹雪」「睦月」「夕立」「時雨」「ラファイ」以上14隻が発艦

そして続いてF-35B編成の「ガラム」「アルバトロス」「ガルーダ」とF-3B編成の「ボーンアロー」「ブレイド」が発艦する……。

F-35BはAIM-120C・AIM-9X満載の対空重視、F-3BはASM-3CとAAAM-4C・AAAM-5C搭載の対空・対艦バランスの装備になっている

艦娘・艦船少女の空母達の編成は戦闘機「烈風改」「震電改」攻撃機「流星改」爆撃機

「彗星」「二型」偵察機「彩雲」となっており

アメリカ空母であるエンタープライズ達も同様の装備になつてい  
る。エンタープライズ「……まさか日本の航空機を我々が扱うとは思つても見なかつた  
な」

レキシントン「人生何があつても不思議ではないわ」

ヨークタウン「ええ……」

そして海の中でも動きがあつた

深町「ASM発射準備！3番と4番に装填しろ！」

速水「何回も言わなくても大丈夫です！」

深町「馬鹿野郎！海江田に負けないためにまずは声をだな……おい、ソナー！海域は

どうだ！」

南波「ソナーは静かです、なんもありません！」

深町「そのまま観測を続けろ！」

南波「はっ！」

海江田「1番・4番にハーブーン装填、2番・5番にトマホーク装填」

山中「はっ！1番・4番にASM、2番・5番にAGM装填！」

溝口「ソナーの敵艦反応は今のところ確認できません」

海江田「引き続き監視を続けてくれ」  
溝口「はっ」

滝「深町や海江田に負けるかあ！ASM発射準備！」  
副長「ASM発射準備急げ！」

一方、空では

引き続き観測を続けているが

未だに姿を見せない敵の艦船少女達

シーフオール1<<<まだ確認できません>>>

シーフオール2<<<静かすぎますね……>>>

デビル2<<<うむ……我々を恐れているとは到底思えんしな……>>>

デビル1<<<ともかく観測を続ける>>>

テノール2<<<了解>>>

ガラム2<<<胸騒ぎがするな……>>>

ガルダーダ2<<<何か来そうって感じだね>>>

ポーンアロー2<<<これ以上の貧乏くじはやめてくれよ……隊長>>>

ボーンアロー<<<……………>>>

翔鶴「静かね……………」

エンタープライズ「ああ……………」

瑞鶴「……………」

瑞鶴（敵には「私」がいる……………私がやりそうなこと……………それは……………!）

瑞鶴「っ!」

瑞鶴「緊急通信回線開きます!」

CVL いぶき<<<どうした?>>>

瑞鶴「各護衛艦と随伴の艦娘達は今すぐ対空砲火急いで!」

瑞鶴「私達は航空隊を発艦させます!」

DDH みらい<<<りよ、了解した!>>>

DDG きりしま<<<了解!>>>

吹雪「あれ?」

吹雪（今、瑞鶴さんの周りにオーラみたいなのが……………）

睦月「どうしたの?吹雪ちゃん」

吹雪「なんでもないよ、睦月ちゃん」

提督「どうやら瑞鶴は何かを気づいたようだな」

涌井「リーダーだけではわからない……か」

沼田「艦娘の勘というやつなのか……？」

黒木「ともかく、賭けてみる価値はあります」

黒木「対空戦闘用意の号令を」

涌井「ああ、各艦対空戦闘用意！」

カーンカーンカーン

瑞鶴「瑞鶴航空隊、発艦始め！」

翔鶴「翔鶴航空隊、発艦始め！」

エンタープライズ「エンタープライズ航空隊、テイクオフ！」

レキシントン「レキシントン航空隊、テイクオフ！」

サラトガ「サラトガ航空隊、発艦始め！」

ヨークタウン「ヨークタウン航空隊、テイクオフ！」

瑞鶴「……………」

瑞鶴と先鋒の攻撃機「流星改」がリンクする

瑞鶴（私がやりそうなこと……私がやりそうなこと……………）

瑞鶴（……………！）

瑞鶴「そこだっ！」

翔鶴(B)「くっ!……迷彩が破られた!」

瑞鶴(B)「翔鶴姉!」

瑞鶴(B)「私の作戦が破られた…?」

デビル2<<<でました!空母艦船少女2隻!>>>

デビル2<<<データベース照会の結果、翔鶴・瑞鶴の模様です!>>>

デビル1<<<敵航空隊突如出現!方位3—1—4!まっすぐ近づきます!計40機

!>>>

デビル1<<<光学迷彩とステルスだど!>>>

CVL いぶき<<<短SAMじゃ間に合わん!各艦主砲・CIWS戦用意せよ!>>>

DDH みらい<<<了解!みらい迎撃開始します>>>

DDG きりしま<<<攻撃用意!>>>

DD ふゆづき<<<主砲攻撃始め!>>>

DD さぎなみ<<<撃ち方始め!>>>

「みらい」「きりしま」「ふゆづき」「さぎなみ」が迎撃を開始する

青梅「攻撃始め！」カチッ

敵はジェット機でもないため、主砲の射程に入り、撃墜されていく……

ガラム2<<FOX2!FOX2!>>

ボーンアロー2<<FOX3!FOX3!>>

ボーンアロー3<<FOX2!FOX2!>>

ガルダ2<<FOX3!FOX3!>>

ブレイド3<<FOX1、Fire!>>

アルバトロス2<<FOX1、Fire!>>

もちろん空母航空隊も活躍する

青梅「敵機、こちらにまっすぐ突っ込んでいきます!」

菊池「CIWS、AAWオート!」

撃ち漏らした敵機もCIWSで撃墜する

青梅「全機撃墜を確認」

瑞鶴「殴り合うわよ!大和、長門、お願い!」

大和「了解です!主砲1番、2番発射用意!」

長門「主砲1番、2番行くぞ!」

デビル2<<着弾予想開始……主砲プラス二度>>



大和「主砲、2度上げて！」

46cm主砲妖精「エイサー」

41cm主砲妖精「ドッコラショー」

瑞鶴「潜水艦隊に連絡！」

瑞鶴「対艦ミサイル攻撃させて！」

CVL いぶき<<<了解、ULF通信送信します！>>>

速水「いぶきより通信！」「ミサイル発射せよ」

深町「よし、発射管開け！」

速水「発射管開きます！」

滝「対艦ミサイル発射用意！深町や海江田に遅れるな！」

副長「はっ！」

ソナー手「たつなみ、発射管解放！」

滝「こつちも発射管開放しろ！」

海江田「ASM発射準備！」

山中「対艦ミサイル発射管開け！」

溝口「「けんりゆう」「たつなみ」も発射管を開きました！」

海江田「せっかちな……あの男は……」

大和「主砲1番、2番！撃ち方始め！」

長門「主砲1・2番、発射！」

海江田「ハーブーン発射！」

深町「ASM発射！」

滝「発射用意、撃てっ！」

潜水艦3隻及び戦艦娘2隻の攻撃が開始された

デビル2<<<弾着観測！大和・長門の砲弾、弾着まで10、9、8、7、6、5>>>

デビル2<<<4、3、2、1>>>

デビル2<<<弾着、今！>>>

大和・長門の主砲が弾着し

デビル2<<<続いてミサイル弾着>>>

デビル2<<<5、4、3、2、1、弾着、今！>>>

対艦ミサイル6発が着弾した

爆煙が周囲を包む

涌井「やったか！」

黒木「……………」

瑞鶴（B）「くっ……………航空甲板は大丈夫ね」

翔鶴（B）「ええ、危なかったわね、瑞鶴」

デビル2<<<目標未だ健在！>>>

大和・長門の主砲を耐えた上、しかも対艦ミサイルの攻撃をまともに食らったはずだが

損傷こそあるものの、航空甲板を損傷する致命的な損傷には至っていなかった

沼田「うむ、どうやら相当強化されているようだな」

涌井「ああ……………」

黒木「やはり空母には空母か……………」

瑞鶴「各艦の航空隊、随時発艦！」

エンタープライズ「了解！」

ガラム2<<<いくぞ、相棒>>>

ガラム1<<……>>

ボーンアロー2<<いくぜええええ！>>

ガルーダ2<<ガルーダ2、エンゲージ>>

アルバトロス1<<いくぞ！>>

瑞鶴（B）「グレイゴースト」にも「私」にも負けない！瑞鶴航空隊、発艦！」

翔鶴（B）「翔鶴、参る！瑞鶴に続くわ！」

空戦の火蓋が切って落とされた

敵の航空機は「零式艦戦21型・52型」「九七艦攻」「九九艦爆」という味方の艦載機より劣るものだったが

開戦直後の乗員の高い練度とセイレーンの技術を使用したと思われる強化により「烈風改」にも劣らないようだ

烈風改妖精「ハッシャ！ハッシャ！」

震電改妖精「fire!fire！」

敵零式21型「クウセンカイシ、サンカイ」

ガラム2<<fire!fire！>>

ジェット機相手でも善戦する敵戦闘機

ガラム2<<すばしっこい戦闘機だ>>

ガルダー2<<<侮れないぞ、ガルダー1!>>>

ガルダー1<<<FOX2、FOX2>>>

空戦はまさに手に汗握る戦いであつた

気を抜くと落ちる……

ガルム2<<<円卓にも勝るとも劣らない戦いだな……これは>>>

ボンアロー2<<<うおっ、あぶねえ……>>>

ガルダー2<<<喋つてると舌を噛むぞ!>>>

そして下の護衛艦隊も援護する

青梅「目標群α捕捉!」

菊池「よし、SM-2発射!始め!」

榎本「後部VLS、SM-2発射!サルポー!」

オペレーター「「みらい」「きりしま」「ちようかい」「あすか」、SM-2発射!」

オペレーター「続いて「ふゆづき」「さざなみ」「いかづち」「さみだれ」がESSM発

射!」

オペレーター「「かが」、RAMとCIWSを発射!」

オペレーター「「おおすみ」「しもきた」はメーサー戦車を甲板に上げ、対空砲火を開

始する模様！」

メーサーは対特殊生物用のものであるが、本来はミサイル迎撃システムとして開発されていたため

対空砲としても使用できる

だが敵航空機の勢いは止まらない

艦載機の数にも限度があるはずだが、それも見えない

瑞鶴「くっ……」

エンタープライズ「左20度！敵機！」

摩耶「おらあ！左舷弾幕！撃ちまくれ！」

大和「三式弾装填！」

長門「てーっ！」

吹雪「右舷弾幕用意！」

睦月「魚雷発射っ！」

ラファイ「魚雷、1番、発射」

瑞鶴（B）（くっ、艦載機を一度補給させないと……）

瑞鶴（B）「翔鶴姉、一旦艦載機を直掩戦闘機除いて下がらせて」

翔鶴 (B) 「ええ」

瑞鶴 (B) 「対空砲用意！」

デビル2 <<< 敵攻撃機、引いていきます >>>

デビル2 <<< ここまで、約60機は撃墜しました >>>

デビル1 <<< 補給に戻るようです！ >>>

瑞鶴 「なんとかか……攻撃隊は引いたみたいね……」

瑞鶴 (こうなったら………)

瑞鶴 「翔鶴！エンタープライズ！攻撃隊発艦させて！」

瑞鶴 「レキシントン、サラトガ、ヨークタウンは戦闘機を発艦させて！」

瑞鶴 「私の航空隊を先鋒にして、突撃させるわ！」

瑞鶴 「各戦闘機隊は攻撃隊の援護に！」

翔鶴 「わかったわ瑞鶴。エンタープライズさん、頼みます」

エンタープライズ 「了解した」

ヨークタウン 「了解よ」

レキシントン 「いくわよ、サラトガ」

サラトガ 「はい」

瑞鶴 「はあああああああつ！」

瑞鶴 「攻撃隊！発艦始め！」

流星改が計60機発進する。

瑞鶴 「随伴機に構わないで！狙いはただひとつよ！」

大和 「主砲徹甲弾！次弾装填！」

長門 「次弾装填急げ！装薬急げ！」

主砲妖精 「ワッセワッセ」

艦娘達が反撃に出る中

護衛艦隊もミサイルの発射準備を急ぐ

菊池 「トマホーク発射準備！」

青梅 「座標リンク、準備よし」

梅津 「……………」

勿論海中でも

山中 「いぶきより通信です「トマホーク、発射せよ」

海江田 「2番・5番、トマホーク発射準備」

溝口 「座標入力よし！」



深町「ハーブーン第二射の準備は出来てるのか？」

速水「な、なんとかです！」

ハーブーン・トマホークによる攻撃を仕掛けるようである。

ボーンアロー2<<ASM、発射準備OKです>>

ブレイド3<<こちらもです>>

瑞鶴「……」

再び先鋒の攻撃機とリンクする

デビル2<<敵対空砲火！きます！気をつけてください！>>

翔鶴「私達五航戦が」

瑞鶴「そんな対空砲火に負けるものか！」

流星改妖精「オーオー」

アクロバティックな変則飛行で華麗に避けていく

烈風改妖精「マカセテ」

震電改妖精「ヤーヤー」

敵艦載機「!？」

デビル1<<敵戦闘機を30機撃墜！>>  
エンタープライズ「……………」

五航戦は一航戦と二航戦に比べ新造艦の翔鶴型を母艦としているため、それに関して  
は有利だ

だが、大戦直前に瑞鶴が完成し、訓練を十分すること無く真珠湾に向かった。

そのため、しばらくは一航戦達の背中を追うことで限界だったと言う

珊瑚海海戦でもその練度の低さが原因で多数の損害が出たと言う。

「彼女」達はとにかく頑張った。

一航戦・二航戦損失後の戦いにおいても

新一航戦としてなんとか日本を守ろうとしていた。

だが、もはや逆転は不可能となっていた。

「翔鶴」1944年6月19日 マリアナ沖海戦においてアメリカ潜水艦「カヴァラ」の

魚雷3本を受け、撃沈

「瑞鶴」1944年10月25日 レイテ沖海戦においてアメリカ海軍攻撃隊による集

中攻撃を受け、撃沈

二人の艦は海の奥深くで沈んでいった……………。

そしてそれから数十年たち、翔鶴型の二人は艦娘に転生。

今度こそ日本を守るため、そして世界を守るため戦う……………

そして転移した世界でも「守る」ために戦う

自分を、そしてもうひとりの「自分を」

翔鶴「援護、頼みます！」

エンタープライズ「ああ……………我々も負けるな！USNの底力を見せてやれ！」

デビル1<<<ガルム隊・ガルダー隊、援護頼む！>>>

ガルダー2<<<了解だ>>>

ポーンアロー2<<<隊長、もう一息だ！>>>

瑞鶴（私の弱点は……………）

瑞鶴「ここだあああああああああああつ！」

瑞鶴（B）「!?」

爆煙が周囲を包む

涌井「どうだ？」

黒木「……………」

提督「瑞鶴……………」

瑞鶴 (B) 「……………完全に私の負けね」

瑞鶴 (B) 「流石「私」……………煮るなり焼くなり好きにしちゃっていいわ」

瑞鶴 「一緒に来てくれるかしら？もうひとりの「翔鶴」姉と一緒にね」

瑞鶴 (B) 「ええ……………」

瑞鶴 「……………立てる？」

瑞鶴 (B) 「これくらいは立てるわ」

瑞鶴 「流石「私」」

デビル2<<<敵の瑞鶴、翔鶴共に保護！こちらの瑞鶴・翔鶴とともに帰還するとのことです！>>>

黒木 「うまくいきましたね」

涌井 「手に汗握る戦いだつたな」

沼田 「各部隊の損傷報告急げ！」

通信 「ではまず航空隊が……………」

赤城 「瑞鶴さん達がやったみたいね」

加賀「ええ……………」

赤城「あら、喜ばないの？」

加賀「……………別に……………」

赤城（加賀さん、素直じゃないわね……………）

続く

## 第5話 二人の艦

「みうら」艦内

明石の工廠兼保健室

瑞鶴「……………というわけなのよ」

瑞鶴（B）「ふーん……………あいにくだけどそういうのは知らないわ」

瑞鶴（B）「ただ噂は聞いたことがあるわ」

瑞鶴「噂？」

瑞鶴（B）「瞬間移動する装備が作られたらしいぞという噂」

瑞鶴（B）「詳しくは一航戦に聞かないとわからないわ」

翔鶴（B）「ええ……………」

翔鶴（私と似ているわね……………どこか違う気がするけど）

提督「やはりあちらの一航戦から聞くしか無いのか……………」

……………

「ごんき」内会議室

提督「とりあえず、ハワイに戻るべきかと」

涌井「ああ……」

海老名「ところで、艦娘達と艦船少女達は大丈夫なのでしょうか？ 雰囲気と言いますか」

海老名洋子

護衛艦「かが」艦長

階級 一等海佐

提督「まあ特にひばなとかちらしてないから大丈夫だとは思いますが……」

ピピピッ

提督「おっと、すまん」ピッ

提督「もしもし」

明石『た、大変です提督！今すぐ戻ってきてください！』

明石『加賀さんともう一人の翔鶴さんが！』

提督「わかった、今戻る」

ピッ

提督（こりや大変なことになるな……）

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

輸送艦「みうら」内

加賀「だから、何？」

翔鶴(B)「別になんでもないですわ」

翔鶴(B)「五航戦を早く認めてくれとかそうは思ってますわ」

加賀「……これだから五航戦の子は……」

翔鶴(B)「はい？今なにか言いましたかしら？」

加賀「言葉の通りよ」

赤城「ま、まあ加賀さん……」

翔鶴「ええ……そちらの私も……まあまあ……」

瑞鶴(B)「はあ……また始まったね」

古鷹(B)「うん……」

如月(B)「またあ？」

神風(B)「またじゃな……」

提督「おいおい、どうしたんだ」

赤城「あ、提督」

吹雪「加賀さんとあちらの翔鶴さんが……」

加賀「……」

翔鶴(B)「……」



バチバチバチバチ

大和「どうしましょう……」

提督「はあ……好きにやらせとけ」

吹雪「そんな……」

提督「たまにはこういうときも必要だと思っぞ、俺は」

提督「艦船少女と艦娘の交流とかな……」

吹雪「はあ……」

翔鶴(B)「もうひとりの私と瑞鶴達、付き合いなさい」

加賀「赤城さん……」

翔鶴「はあ……」

……

海域

加賀「……良いのかしら、私が烈風であなたが零式で」

翔鶴(B)「旧型機で先輩の新型機を超えてこそよ、うふふ……」

瑞鶴「あの、あっちの翔鶴姉って……」

瑞鶴(B)「うん……あんな感じよ」

赤城「では両者準備はいいですか？」

加賀「ええ」

翔鶴（B）「もちろんです」

赤城「用意！」

パンッ

加賀「…一航戦航空隊、発艦始め！」

翔鶴「翔鶴参る！翔鶴航空隊、発艦！」

ヒュンヒュンヒュン

白熱する航空戦

押しては引いて、引いては押して

両者譲らぬ戦い

吹雪「す、すごい……」

加賀「左、回って」

翔鶴（B）「右に！」

だがその時

デビル1<<<…レーダーにアンノウン捕捉！認識コード……セイレーンです！>>>

涌井「総員、対水上戦闘用意！」

新波「対水上戦闘用意！」

「デビル2<<<駆逐通常型3隻！空母通常型4隻！そして人形駆逐スカベンジャーで  
す！>>>」

涌井「深海棲艦と同じく人型か……ともかく、赤城達は陣形を整えろ！各艦娘及び航  
空隊発艦せよ！」

出撃艦娘

空母「赤城」「加賀」「翔鶴」「瑞鶴」「翔鶴(B)」「瑞鶴(B)」「エンタープライズ」「ホー  
ネット」「レキシントン」「サラトガ」

戦艦「大和」「長門」「扶桑」

重巡「古鷹(B)」「加古(B)」「摩耶」

駆逐「吹雪」「夕立」「時雨」「睦月」「如月」「秋月」「神風(B)」「睦月(B)」「如月  
(B)」

出撃航空隊

ガム隊(F-35B)

ガルダ隊(F-35B)

ボーンアロー隊(F-3B)

スパロウ隊(F-35B)

ターキー隊 (F-35B)

ワンド隊 (F-3B)

秋津「しかし、良いのですか？ 重桜の方々も出して」

提督「ああ、重桜相手はともかく、セイレーン相手なら話は別とあちらの瑞鶴さんも言ってくれた」

新波「確かに、本来の艦船少女の役割はセイレーンと戦うことですからね、艦娘の役割と同じように」

提督「ああ……」

提督（しかし謎は残ったままで、何故別世界に艦娘と同じ存在、そして同じような敵がいたのか）

提督（そして何故セイレーンに艦娘の攻撃は効くのか……）

レーダー手「敵艦載機接近！」

通信員「あたご」「きりしま」「ちようかい」「あすか」「みらい」SM2発射！」

通信員「続いて「いかづち」「さみだれ」「ふゆづき」「さざなみ」ESSM発射！」

ガラム2<<<FOX2！FOX2！>>>

ガルーダ2<<<FOX1！FOX1！>>>

ワンド3<<<FOX1、fire!>>>

スパロウ2<<<FOX2、fire!>>>

加賀「左に回って、右は赤城さん頼みます」

赤城「了解よ、艦載機のみなさん、頼みます!」

翔鶴「いくわよ!第二次攻撃隊発艦!」

瑞鶴「護衛戦闘隊は翔鶴姉の援護に回って!」

翔鶴(B)「瑞鶴達のほうに戦闘機を!攻撃隊は今すぐ発艦して!」

瑞鶴(B)「いっけえ!」

ドンドンドン

デビル2<<<目標群β、39機撃墜を確認!>>>

翔鶴(B)「これならいけるわ!攻撃隊前進!」

だがその時……

デビル2<<<!?!方位212より重攻撃機接近!突然現れました!>>>

青梅「こちらのリーダーでも同じく!」

敵重攻撃機「……………」

魚雷が空母……あちらの翔鶴達のほうに向かっていく

瑞鶴(B)「翔鶴姉!」

翔鶴 (B) 「!」

加賀 「……くっ!」

翔鶴 (B) 「加賀、先輩……」

加賀 「……久しぶりにやったわね、これ……くっ!」

赤城 「加賀さん!」

デビル2 << 加賀、大破! 下がらせてください! >>>

加賀 「……私が居なくても、お願いよ……五航戦」

翔鶴 (B) 「……」

翔鶴 「私とがんばりましょう、翔鶴さん」

翔鶴 (B) 「ええ……行きますわ」

大和 「攻撃始め! 第1主砲撃ち方始め!」

長門 「てーっ!」

扶桑 「絶対に、負けないわ!」

戦艦主砲攻撃を合図に

菊池 「SSM攻撃始め! サルボー!」

S S Mの攻撃と

ボーンアロー2<<<FOX3!FOX3!>>>

ワンド4<<<FOX1、fire!>>>

スパロウ2<<<FOX1、fire!>>>

A S Mが攻撃する

スカベンジャー「……………」

デビル2<<<随伴艦艇、全て撃沈!のこり人型駆逐艦のみ!>>>

涌井「一斉攻撃を仕掛ける!」

スカベンジャー「……………ウテ」

凄まじい弾幕を繰り広げる

吹雪「魚雷攻撃頼みます!」

神風(B)「任せるのじゃ!」

如月「私達と一緒に…ね?」

如月(B)「うん、頑張る」

睦月(B)「うん、がんばる」

夕立「行くっばい!」

時雨「行くよ!」

駆逐艦による魚雷攻撃

大和「第二射、攻撃始め！」

長門「次弾撃て！副砲もだ！」

扶桑「弾着観測後、発射！」

戦艦の弾着観測による主砲攻撃

菊池「SSM、第2、3攻撃始め！撃ち方始め！」

青梅「発射！」

護衛艦のSSM攻撃

次々と槍が突き刺さる

スカベンジャー「……………！」

スカベンジャー「……………サスガ、ダ」

次の瞬間、爆発した

デビル2くく周辺海域にストレンジャーなし！>>

涌井「各隊、帰還せよ」

提督「……………ふーっ……………」



黒木「なんとかなりましたね」

沼田「ああ……」

輸送艦「みうら」内

翔鶴(B)(……)「ジーツ

加賀「……なに？」

翔鶴(B)「いえ、大丈夫かなって思いました」

加賀「バケツで一瞬よ……」

翔鶴(B)「そうですか……」

翔鶴(B)「……次は負けませんわよ」

加賀「……いつでも掛かってきなさい」

翔鶴「………なんやかんやでなんとかなりましたね」

瑞鶴「ふーっ疲れた」

瑞鶴(B)「こっちの加賀さんも」

翔鶴「そっちの加賀さんはどんな感じなんですか？」

瑞鶴(B)「ええつと………」

空母「いぶき」内

会議室

涌井「ともかく、ハワイ方面に帰還することは確定とする」

提督「まずまず謎が増えましたね」

黒木「艦船少女と艦娘……そしてセイレーンと深海棲艦……」

新波「司令、ハワイのアスカロンより通信が」

涌井「わかった……」「つばめ」の涌井だが」

涌井「……なに？未確認艦隊がハワイ周辺に？」

涌井「ああ、わかった」

ピッ

涌井「ハワイ周辺に未確認の大艦隊が確認された、そこで我々に調査に向かつてほし

いとのこと」

涌井「ハワイで補給を受け次第、地点GFのほうに向かう」

一同「はっ！」

続く

## 第6話 NATO連合

ハワイ沖 地点GF

涌井「ここが例の未確認艦隊が目撃されたところか……」

提督「はい、指揮官によると戦艦・航空母艦などが確認されたようで……」

黒木「探索を続けてくれ」

レーダー手「了解」

早期警戒機による探索をする

そして少し待つと

デビル1<<<こちらデビル1!艦隊の艦影探知!これは……>>>

涌井「どうした?」

デビル1<<<米海軍のアイオワ級1隻、ニミッツ級2隻!ジェラルド・R・フォード級1隻!そして英海軍のクイーン・エリザベス級1隻!仏海軍のシャルル・ド・ゴール級1隻!伊海軍のカヴール級1隻!随伴艦艇多数!>>>

黒木「もしや……司令、そちらの艦隊に呼びかけてください!」

涌井「了解した、オーブンチャンネル開け」

ピッ

涌井「こちら日本国自衛隊統合任務部隊「つばめ」応答願う」

???「やつと繋がってくれたか……こちらNATO統合艦隊の司令を務めるニコラス・

A・アンダーセンだ」

アンダーセン「すまない、こちら嵐に巻き込まれ本国と連絡が取れなくなっている……」

涌井「こちら涌井、実は……」

……

アンダーセン「なるほど……つまり我々は別世界に」

涌井「ええ、すでにこちらの世界の指揮官と連絡を取り、現在は敵のレッドアクシズを退けながら元の世界に帰る方法を探しています」

アンダーセン「我々もそちらに合流したい……どうかね？」

涌井「ええ、構いません」

アンダーセン「では詳しい話を聞くためにそちらで」

涌井「わかりました、では」

ピッ

黒木「まさかNATOの大艦隊までいるとはな……アメリカ・イタリア・イギリス・フ

ランス・ドイツが一緒か……」

沼田「うむ……」

空母「いぶき」内

会議室

アンダーセン「いやはや、どうも……」

ニコラス・A・アンダーセン

階級 海軍大将

アメリカ第7艦隊の司令官であり

NATO統合艦隊の総司令を務める

アレックス「久しぶりです、Mrクロキ」

アレックス・ホッパー

階級 海軍中佐

駆逐艦「ジョン・ポール・ジョーンズ」艦長

シエーン「早速ですが、本題に入りたいと思います」

シエーン

階級 海軍中将

アメリカ空母航空団の司令であり

NATO統合艦隊の副司令を務める

沼田「うむ……ではこちらのスクリーンを……」

……

アンダーセン「艦船少女とセイレーンか……」

イーランド「同じ艦船少女同士が戦う、か……国同士の戦争に」

マシユー・イーランド

階級海軍大佐

空母「ロナルド・レーガン」艦長

ベルツ「もし、我々が道を誤ってしまったら、艦娘を使って国家紛争になったかもしれないですね」

レオナード・ベルツ

階級海兵隊大尉

海兵隊コマンド部隊の統括を担当

提督「ああ……日本に大量に艦娘が現れたのはむしろ幸福とも言える」

提督「アメリカやロシアが大量に持つと戦争に組み込まれる可能性があるからな」

アンダーセン「ああ……ハーリング大統領曰くその可能性もあったと」

ビーグル「ええ、幸い深海棲艦の侵攻が激しく、そうも言ってられなかったというのは不幸中の幸いだ」

ピーター・N・ビーグル

階級海軍少尉

本人はアメリカ海軍の航空機整備兵であるが、アンダーセン司令に信頼されており、彼によく付き添う

おやじさんとして親しまれているが、本人には謎が多い

涌井「ともかく、NATOの皆様はこれからどうしますか？」

アンダーセン「我々は「つばめ」についていくことにします」

アンダーセン「そして元の世界に戻るために……協力いたします」

涌井「これは心強い……よろしくおねがいます」

提督「では早速ですが、今後のですが……」

輸送艦「みうら」内

ビスマルク「久しぶりね！長門！大和！」

アイオワ「お久しぶり〜！」

大和「お久しぶりです」

長門「ああ……」

ローマ「まさか異世界に来るなんて……」

アーク・ロイヤル「そしてあなた達もここにいるなんて……」

リシユリユー「わからないものね……」

エンタープライズ「……まさかドイツの艦と形は違えどここで会うことになるとはな」

ウオースパイト「こちらは？」

長門「ああ、ユニオン……アメリカの航空母艦」

エンタープライズ「エンタープライズだ、よろしく頼む」

ビスマルク「なるほど、そちらが艦船少女ってやつね」

サラトガ「久しぶりね、エンタープライズ」

エンタープライズ「ああ……」

サラトガ(B)「あなたがもうひとりサラトガ？よろしくね！」

サラトガ「え、ええ……」

サラトガ・エンタープライズ(ずいぶん違うわね(違うな)……)

イラストリアス「私達を知るアーク・ロイヤルさんとはずいぶん違いますね……」



アーク・ロイヤル「どれくらい違うのか？」

イラストリアス「……………いろいろと……………」

アーク・ロイヤル「？」

ビービービー

ビスマルク「敵襲!？」

コレクター1「<<<こちらロナルド・レーガン所属AEW、コレクター1!>>>>

コレクター1「<<<正体不明の艦隊捕捉! 深海棲艦と類似!>>>>

コレクター1「<<<出撃を求む!>>>>

エンタープライズ「おそらく、セイレーンだな、いくぞ!」

アイオワ「OK!」

サラトガ「ええ!」

ホーネット「私も!」

長門「いくぞ!」

金剛「了解デース!」

出撃艦娘・艦船少女

戦艦「ビスマルク」「アイオワ」「リットリオ」「ウォースパイト」「リシユリユール」「長門」「金剛」

空母「エンタープライズ」「ホーネット」「ヨークタウン」「サラトガ」「アーク・ロイヤル」「イントレピッド」「グラーフ・ツエツペリン」

重巡「プリンツ・オイゲン」「ザラ」「ポーラ」「愛宕」「摩耶」「古鷹(B)」

軽巡「球磨」「川内」「神通」

駆逐「リベッチオ」「ジャーヴィス」「レーベレヒト・マース」「吹雪」「夕立」「陽炎」「不知火(B)」

メビウス2<<<メビウス2、スタンバイOK>>>

チョップパー<<<こちらチョップパー、準備OKだぜ!>>>

ソーズマン<<<こちら空母航空団のソーズマン、準備は大丈夫だ!>>>

クロウ3<<<こちらクロウ3番機、準備万端です>>>

ガラム2<<<リボン付きとラーズグリーズもいるとはな……>>>

エッジ<<<私達もNATOの空母航空団として参加していたの>>>

クロウ3<<<ふう、訓練したとはいえ、空母からの発艦はまだ慣れないです>>>

ポーンアロー2<<<PJは確か元アメリカ空軍だろ?俺みたいに傭兵じゃないしな

……>>

クロウ3<<<空軍と海軍航空団でこんなに違うとは驚きましたよ!>>

クロウ2<<<まあ奥さんに自慢したいとか豪語してたけどな!>>

クロウ3<<<ちよ、やめてください!>>

デビル2<<<敵艦船、多数!空母7、戦艦5、駆逐8!そして人型の戦艦も捕捉!>

>

アーチャー<<<あれがセイレーン……深海棲艦とは似ていますね>>

チョッパ<<<どんな相手でもやってやるぜ!チョッパ、エンゲージ!>>

エッジ<<<エッジ、エンゲージ!>>

ソーズマン<<<ソーズマン、エンゲージ!>>

アーチャー<<<アーチャー、エンゲージ!>>

メビウス2<<<メビウス2、エンゲージ!>>

メビウス8<<<メビウス8、エンゲージ!>>

自衛隊の空母艦載機 (F-35B、F-3B) と NATO の空母・強襲揚陸艦の艦載

機 (F-14D、F/A-18C/D/E/F、F-35B/C・ラファールM) を合

わせて

凄まじい数となっている

アンダーセン「各艦、対空戦闘開始せよ！」

C I C員「スタンダード、目標インプット！ファイア！」

空母の防衛を司るイービス艦などの数も相当だ

エンタープライズ「いくぞ！空母航空隊、発艦始め！」

アーク・ロイヤル「ああ、発艦始め！」

イントレピッド「Intrepid squadron, attack！」

艦船少女と艦娘にあまり違いはないからか

ほぼ違和感がない

ピュリファイアー「!？」

デビル2<<<敵随伴艦、全艦撃破！同時に制空権確保！>>>

ピュリファイアー「クッ！ファイア！」

相手は光学兵器「レーザーキャノン」で攻撃を開始する

だが、もはやそれもエースたちには無意味だ

ガラム2<<<花火の中に突っ込むぞ！>>>

エッジ<<<了解！>>>

チョッパ<<<行くぜ！>>>

ソーズマンくくああ!くく

ガラム2くく他の連中は遠距離からの攻撃を頼む!くく

ロール2くく了解!fire!くく

エースたちが近距離で攻撃する中

他の航空隊は遠距離からのミサイル攻撃を行う

エンタープライズ「我々も突っ込むぞ!」

妖精達「オーオーオー」

サラトガ「なるべく避けて飛行して!編隊は崩して構わないわ!」

ピュリファイアー「!?!」

レーザーを掻い潜り、ミサイルや雷撃・爆撃を続ける航空隊

もちろんミサイル駆逐艦も対艦ミサイルによる遠距離攻撃を続ける

長門「主砲斉射、撃て!」

金剛「バアアアアアニング!ラアアアアアアアアアアアアアアアブ!」

アイオワ「ファイアアアアアアアアアアツ!」

ウオースパイト「fire、fire」

リシュリユー「Feu!Feu!」

老兵「痛いのをぶつくらわせてやれ!」

ミズーリの攻撃も始まる

戦艦達の遠距離砲撃も突き刺ささり

ピュリファイアー「……！」

コレクター1<<こちらコレクター1、敵勢力の撃破を確認！>>

涌井「流石NATOだ……我々とは桁違いの火力だ」

提督「心強いですね……」

沼田「では早速真珠湾に」

涌井「ああ、アンダーセン司令」

アンダーセン『うむ……全艦に次ぐ！これより針路をハワイ・オアフ島に向ける！』

アンダーセン『だがこの世界は我々も知らない世界だ、気を抜くな！』

・・・・・・・・・・・・・・・・

ユニオン

首都

ワシントンDC

財務長官「全く……アスカロンの連中は一向に我々に従いません」

内務長官「戦力をなんとかこちらに接収することはできるのか！」

司法長官「昔、アズールレーン総司令部が付与した独立捜査権が邪魔をするとはな

……」

国務長官「このままでは「あの方」に顔を向けられません」

副大統領「ああ、「あの方」は戦争継続を望んでいる」

国防長官「うむ……泳がせておくのももう限界と思われれます」

国防長官「どうします？ベネット大統領」

ベネット「……そろそろ、猛犬を撃つ用意をしなければな」

ニコラス・J・ベネット

ユニオン第43代大統領

強いユニオンを体现するために大統領に立候補し当選

鉄血の猛攻により弱体化しつつあるロイヤルを援護しながら

着々とアズールレーンの実権を取りつつある

ベネット「国防長官、第4艦隊と第6艦隊に出撃準備をさせろ」

国防長官「はっ！」

ベネット（……ユニオンは再び世界に繁栄させ、「キング」となるのだ）

ベネット（そのためには……まだ矯正が必要だ）

続く



## 第7話 ミッドウエー

ハワイ・オアフ島

パール・ハーバー

「アスカロン」司令部

指揮官「わかりました、あなた方の協力を受け入れます」

アンダーセン「ありがとうございます……」

指揮官「しかし、あのような現代型の航空母艦をふたたび見ることになるとは……」

黒木「この世界ではあのような空母がないと？」

指揮官「いえ、あるにはあるんです……ですが、通常兵器はセイレーンには効果がないので使われることがほぼなくなり、港に止まる置物になったんです」

指揮官「艦船少女も例外ではなく、通常兵器は基本通用しません」

沼田「なるほど……」

黒木「……」

提督「ところで、次は？」

指揮官「次は一航戦・二航戦が出ると思われます」

涌井「つまりミッドウエーか……」

アンダーセン「エンタープライズ・ホーネット・ヨークタウンと赤城・加賀・蒼龍・飛龍が戦ったあの地だ」

沼田「そして運命の五分間……」

指揮官「すでに五航戦を捕らえられ重桜側は焦っているはずです。戦力を最大級出してくる可能性が高い」

シエーン「その中で敵の艦船少女を拿捕……無茶もいいところだ」

提督「完全ステルス・光学迷彩も使ってくる以上、通常の深海棲艦戦とは大幅に異なりますからね」

アンダーセン「しかしこれ以外の手はない……進むしか無いようだ」

……

赤城（B）「とうとう来ましたね、加賀」

加賀（B）「姉さま……」

赤城（B）「五航戦の方が取られたのは不都合でしたが……私達四人でもこの作戦は十分に可能よ」

蒼龍 (B) 「はい、勝算の確率が高いと思われませう」

飛龍 (B) 「僕が活躍すれば敵艦隊なんて一網打尽さ！」

赤城 (B) 「そうね……………というわけで先遣隊は頼んだわ」

扶桑 (B) 「……………ええ」

比叡 (B) 「……………比叡、参ります」

……………

ミッドウエー海域

地点20D

アンダーセン 「対空・水上見張りは厳とせよ、一匹も見逃すんじゃないぞ」

レーダー員 「了解！」

オペレーター 「艦娘・艦船少女隊、発艦します！」

出撃艦娘・艦船少女

空母 「エンタープライズ」「ホーネット」「ヨークタウン」「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛

龍」

戦艦 「アイオワ」「大和」「扶桑」「山城」「金剛」「霧島」

重巡 「摩耶」「高雄」「鳥海」「ザラ」

軽巡「神通」「川内」「夕張」「阿武隈」

駆逐「吹雪」「夕立」「時雨」「響」「雷」「睦月」

エンタープライズ「……………」

赤城「……あちらの私は仕掛けてくるはずよ」

赤城「全力で迎え撃つわ」

飛龍「了解！」

加賀「ええ……………」

赤城（今回は相手倒すことではなく…………）

赤城（「私」を救うために……………戦うのよ）

エンジェル1<<<くん?まて……………レーダーにアンノウン!>>>

ビービービー

涌井「どうした!」

エンジェル1<<<こちらエンタープライズ所属AEW、エンジェル1!>>>

エンジェル1<<<方位301、敵航空部隊捕捉!>>>

エンジェル1<<<計多数!>>>

ビービービー

デビル1<<<!?!、さらに方位103より敵艦船少女確認!>>>

デビル1<<<戦艦5、重巡1、軽巡1、駆逐2!>>>

デビル1<<<艦影照会の結果、扶桑・山城・比叡・霧島・摩耶・夕張・夕立・時雨!

>>>

時雨「戦艦艦隊が前に!」

扶桑「このタイミングで…?」

吹雪「司令官が言ってたとおり、相手は本気みたい…!」

大和「各艦、戦闘配置!空母は艦載機を!」

エンタープライズ「各航空隊、発艦始め!」

ヨークタウン「TAKE OFF!」

赤城「二航戦航空隊、発艦!」

飛龍「二航戦航空隊、発艦急いで!」

F6F-5、烈風改が相次いで発艦する

ガルム2<<<ガルム2、発艦!>>>

メビウス3<<<メビウス3、発艦!>>>

ガルダーダ2<<<ガルダーダ2、発艦する!>>>

続いて、「いぶき」などからも航空隊が発艦する。

涌井「各艦、対空戦闘開始！一発も撃ち漏らすな！」

菊池「対空戦闘！SM-2攻撃始め！」

護衛するイージス艦なども迎撃を始める

オペレーター「全イージス艦、SM-2発射！」

シエーン「……よし、各航空隊はエース達に続け！」

シエーン「虫のように湧いてくるぞ！気をつけろ！」

クロウ3<<<危ない！>>>

アルバトロス2<<<まさにハエだ！数が多い！>>>

メビウス8<<<FOX2！FOX2！>>>

メビウス3<<<FOX3！FOX3！>>>

メビウス2<<<喋っていると舌噛むぞ！>>>

妖精達「オーオーオー」

激しい空戦が繰り広げられている

相手は艦船少女の艦載機であり旧型の零式艦上戦闘機であるが、何かしらの「オーラ」を纏っており

エースたちでも手を焼いている

大和「間もなく、交戦距離に入ります！」

霧島「こちらの電探でも敵を補足しました！」

金剛「了解です！」

扶桑「ええ………いくわよ」

山城「姉さま………」

吹雪「前みたいに凶暴化しているのかな………」

夕立「私と同じ………どんな艦っぽい？」

扶桑（B）「前方、艦多数」

山城（B）「弾着予想、よし！」

比叡（B）「砲撃開始！」

霧島「前方、撃ってきました！」

扶桑「あれが扶桑………わたし！」

山城「あれがあつちの姉さまとわたし!?!」

金剛（あのビューティーな子がヒエイ!?）

霧島（そしてあれが私……………）

大和「各戦艦は随時砲撃開始！」

ドリーム2<<こちらエンタープライズ所属AEW、敵座標を送る！その地点に砲撃を頼む！>>

アイオワ「OK！砲撃用意！主砲プラス3度」

アイオワ「fire！」

戦艦群が攻撃を開始

夕立（B）「前方、行くぜ！」

時雨（B）「速力上げます！」

神通「艦影接近！敵4隻接近してきます！」

夕立（B）「いくぜ！」

時雨（B）「時雨様の本気、見せてあげるわ！」

摩耶（B）「全部……………斬る！」

夕立「!?」

吹雪「危ない！」



間一髪で避ける夕立

夕立「…………危なかったっばい…………」

時雨「俺がもう一人の僕たち……………」

摩耶「あいつが…………面白れえ！」

オペレーター「艦娘・艦船少女隊、戦闘態勢に入りました！」

オペレーター「早期警戒機より再び報告！敵航空隊、更に接近！サイズから見て艦船少女のものではない模様！」

黒木「何？」

オペレーター「こちらにあと15分で到達する可能性あり、航空隊のさらなる発艦を要請とのこと！」

涌井「ブレイド隊・ターキー隊・ワンド隊・ガラム隊は発艦急げ！」

オペレーター「なお、NATOのほうではすでにウォードッグ隊などを発艦させた模様です！」

C V N エンタープライズ<<<こちらエンタープライズ、航空管制指揮官だ>>>

CVN エンタープライズ<<相手の戦闘機は機影からみてF-4E、F-14A、F-2、F/A-18、F-35Cの可能性があり>>

CVN エンタープライズ<<おそらく重桜の艦船少女ではない現代型の航空母艦からの発艦だと思われる>>

エッジ<<私達を狙ってるってことなの？>>

ガラム2<<俺達はすでに五航戦などの主力艦船を拿捕している。その可能性は大だろうな>>

チョッパー<<こんな異世界でもあんまり変わんねえなあ…>>

アーチャー<<何故ここまで争う必要があるのか…：僕たちが知らない何かがあるのでしょうか？>>

ソーズマン<<考えるのは後だ、どんな相手であれやるのみだ！>>

エンジェル1<<出た、敵の通常艦船を確認>>

エンジェル1<<ミサイル駆逐艦6隻、ミサイル巡洋艦4隻、航空母艦2隻、戦艦2隻>>

エンジェル1<<なおこれらの艦船への攻撃はこちらの駆逐艦・巡洋艦隊が行う>>

エンジェル1<<航空隊は戦闘機の相手に集中しろ>>

ガラム2<<了解だ、いくぞ相棒>>

重桜パイロット<<<敵だ！散開しろ！>>>

チョップパー<<<ブービー、いいか？>>>

ブレイズ<<<……コクリ>>>

チョップパー<<<了解！チョップパー、エンゲージ！>>>

アーチャー<<<了解、アーチャーエンゲージ！>>>

エッジ<<<エッジ、エンゲージ！>>>

ソーズマン<<<了解だ、ソーズマンエンゲージ！>>>

ガルム2<<<ガルム2、エンゲージ>>>

ターキー3<<<ターキー3、エンゲージ！>>>

ワンド4<<<ワンド4、エンゲージ！>>>

ヘルモス4<<<ヘルモス4、エンゲージ！>>>

オパール5<<<オパール5、エンゲージ！>>>

重桜パイロット<<<久しぶりのまともな相手だ！ユニオンの連中を叩き落とせ！>>>

>

チョップパー<<<そう簡単に落とされてたまるかっての>>>

エッジ<<<私達を待つてる人がいるの、だから邪魔しないで！>>>

エンジェル1<<<敵艦船、対艦ミサイル発射！>>>



霧島「……………うおおおおおおおおおおおつ！」

高速で突撃する霧島

比叡(B)「なに!？」

金剛「フアイアアアアアアアアアアアアアアアア！」

間一髪で避けるあちらの「比叡」だったが、金剛の砲撃をまともに食らってしまい

比叡(B)「くっ!」

霧島(B)「比叡!」

霧島「逃がしません!」

霧島(B)「くっ……………はあああああああつ!」

霧島「はあああああああつ!」

吹雪(霧島さん、凄い…………)

睦月「吹雪ちゃん!危ない!」

吹雪「え?」

ザラ「はああつ!」

ザラが吹雪を庇う

吹雪「だ、大丈夫ですか!？」

ザラ「これくらい平気！うてっ！」

響「左舷、敵艦載機来るよ」

吹雪「了解です！対空戦闘始め！」

赤城（B）「あなたは何故ここで戦ってるの？」

赤城「……………」

赤城（B）「あなた達がこの異世界で戦う義理はなにもないはずだわ……どうしてなのかしら？」

赤城「……帰るために戦うという目的あるけど」

赤城「でもひとつの目的は「あなた」を救うことよ」

赤城（B）「救う？どういふことかしら？」

赤城「このミッドウエーであなたはまた同じ過ちを繰り返そうとしている……」

赤城（B）「過ち？この私が過ちなんで……確かに記憶ではそういうことはあつたけど、今は違うわ」

赤城「いいえ、違わない！その認識である限り変わらないはずよ！」

赤城（B）「な、なんですって……」

赤城「私もかつて似たようなことをやらかしたわ……あの時の記憶があつたのにそれ

を無視して結果大破してしまった」

赤城「あなたもその過ちを繰り返そうとしてる」

赤城(B)「くっ……」

赤城「今の私に慢心してるあなたは通用しないわ!」

赤城「全力でかかってきなさい!一航戦旗艦として受けて立つわ!」

赤城(B)「……いいわ、最大限の力で貴方達を薙ぎはらう!」

時雨(B)「いただき!」

時雨「させないよ!」

夕立「さあ素敵なパーティを始めましょ!」

夕立(B)「望むところ!」

摩耶「おらあ!殴り合いなら負けねえよ!」

摩耶(B)「我が刃で朽ち果てろ!」

扶桑「撃て!撃て!」

扶桑(B)「発射!」

夕張「撃ち方始め!」

夕張(B)「目には目を!新型には新型を!喰らえ!」

ガルーダ2<<<攻撃を仕掛ける!FOX3!>>>

ボーンアロー2<<<FOX3!FOX3!>>>

ビーコック5<<<FOX1、fire!>>>

スパロウ3<<<FOX1、fire!>>>

蒼龍(B)「……………対艦ミサイル来ます」

加賀(B)「何?」

赤城(B)「蒼龍、飛龍、迎撃よ」

飛龍(B)「了解!迎撃弾発射用意!」

蒼龍(B)「目標捕捉、発射!」

スパロウ3<<<なんだあれは!?!>>>

なんと蒼龍と飛龍はエネルギーの塊を対空ミサイルのように放ってきた

赤城(B)「ただの艦船少女とは思わないことね、「あの方」のおかげでここまで力が  
持てるようになったのよ」

ガルーダ2<<<あの方…?>>>



蒼龍 (B) 「第1陣着弾！」

赤城 (B) (よし、この攻撃をしのげばいけるはずよ……)

赤城 「……………」

加賀 「……………」

ドンドンドンドンドンッ

次々と対艦ミサイルが迎撃されていく……が

様子がおかしい

蒼龍 (B) 「!?!」

飛龍 (B) 「視界が……」

赤城 (B) 「ごほっごほっ……これは……ごほっ」

加賀 (B) 「これは……煙幕?!」

ビーコック3<<<よし! かかった!>>>

ポーンアロー2<<<合計30発の煙幕対艦ミサイルだ! 艦船少女だろうが目を遮られればこつちのもんだ!>>>

ポーンアロー2<<<頼んだぞ赤城!>>>

赤城 「ええ、航空隊攻撃始め!」

攻撃機群が一斉攻撃をしかける

煙幕で相手が見えなからうが、必ず当てる妖精さん達

赤城（B）「しまっ……きやああっ！」

加賀（B）「姉さま！うわあっ！」

飛龍（B）「わあああああああ！」

蒼龍（B）「撃て！撃てきやつ！」

四隻ともまともに攻撃を食らう

撃沈こそしないが発着艦は不可能だ

ポーンアロー2<<よし！やったぜ！>>>>

エンタープライズ「……そろそろだな」

赤城「ええ、航空隊後退して！」

ヨークタウン「……行きましょう」

ホーネット「どんな人なのかな……」

加賀「……………」

赤城（B）「……………来たみたいね」

赤城「すでに勝負は付きました、降参してください」

赤城（B）「私達を捕虜にするつもりかしら？」

赤城「その通りよ」

赤城（B）「ふっ……」

赤城（B）「……その真っ直ぐな目……流石「私」ね」

赤城「……肩を貸しましょうか？」

赤城（B）「……これくらいは平気よ……」

赤城「そう……」

赤城（B）「……久しぶりよ、こんなに本気を出したのは」

赤城「私も久しぶりです……本気を引き出させた相手を見たのは」

赤城（B）「ふっ……考えることは同じのようね」

赤城「私」ですからね……」

加賀（B）「姉様……」

加賀「赤城さん……」

赤城「通信開きます」

赤城『こちら機動部隊旗艦「赤城」相手の艦船少女4人を保護しました』

赤城『他の艦船少女も投降してください。なお我々の艦へは艦娘達が誘導します』

夕立「終わったっばいね」

夕立(B)「はーっ！疲れたなあ」

夕立「やりすぎちやったっぽい？」

夕立(B)「夜戦だったらもつと撃てたんだがなー」

夕立「こつちも夜戦だったら負けないっぽい！」

夕立(B)「じゃあこのまま夜まで待つて夜戦やろうぜ！」

夕立「望むところっぽい！」

時雨「夕立、帰還するよ」

時雨(B)「夕立、早くしなさいな」

川内「夜戦なら私に任せ、うわああっ」

神通「姉さん、早く帰りましょうね……」

エツジ<<敵通常艦隊、撤退していきます>>

チヨツパー<<たく、まさかこつちで通常のやつらと相手することになるとはなあ>>

>

アーチャー<<ええ……戦争はどこも変わらないんですね>>

ガラム2<<……>>

輸送艦「みうら」内

摩耶「しっかしつえーなお前は！まるで忍者だったぜ！同じ艦とは到底思えないぜ  
！」

摩耶「その剣技教えてくんねーか！」

摩耶（B）「あ、うん……ぼくで良ければ……」

扶桑「うわっ！」

扶桑（B）「あっ！」

ゴツン

扶桑「自分とぶつかるなんて不幸だわ……」

扶桑（B）「だ、大丈夫ですか？」

山城「はあ……」

山城（B）「どうしたの？」

山城「さつきもなにもないところで転ろんでしまっただけ……」

山城（B）「私もよく転んじやうし……でももう慣れたから平気！」

山城「そうよね……うん」

ズーン

時雨（なんか扶桑達から怪しいオーラが……）

金剛「改めてようこそデース！」

比叡（B）「よろしくお願ひいたします……金剛姉さま」

霧島（B）「ああ、よろしく頼む」

金剛「歓迎の紅茶デース！」

霧島「スコーンもありますよ」

比叡（B）「ほう……これはダーズリン産の……」

比叡（B）「そちらの世界のものでも特に変わらないようですね……」

霧島（やっぱりうちの比叡姉さまとはずいぶん違いますね……）

金剛（まさに大人のお嬢様デース）

霧島（B）「しかし、急に殴り込んできたのは驚いたな……」

霧島「ま、まああれくらいやらないと終わらないと思っただので……」

金剛「霧島は頭脳派兼武闘派ですからネー！」

霧島「そ、そこまで武闘派じゃないと思えますが……」

霧島（B）「まあでも「私」がワシントンとサウスダコタと殴り合った時はあれくらい

やってたはずだが？」

霧島「まあそうですけど……」

明石の保健室兼工廠

エンタープライズ「な、なんだと!？」

赤城(B)「そこまで驚くことかしら? 「グレイゴースト」さん」

提督「重桜……いやレッドアクシズがセイレーンの技術を取り込んでいたのはわかって  
いたが、セイレーンと結託していたとは」

赤城(B)「私達が「あの方」という存在よ……」

赤城(B)「上はセイレーンと手を組めば人類をより良い方向にもっていける………そ  
う考えていたわ」

エンタープライズ「あのセイレーンはかつて多数の艦隊を潰し、海を汚染した元凶だ」  
エンタープライズ「それらとレッドアクシズが手を組んでいたとは………」

赤城(B)「あら、あなた達もあまり変わらないはずよ……」

加賀「……つまり「アズールレーン」もセイレーンと手を組んでいた……と?」

赤城(B)「正解よ……正確にはアズールレーンの上層部……最高司令官総司令部及びユニ  
オン・ロイヤルの大臣以上のメンツがセイレーンと手を組んでいるわ」

ホーネット「な、なんだって!？」

エンタープライズ「……」

赤城(B)「あら、意外と驚かないのね」

エンタープライズ「指揮官曰く、上に黒いなにかがあるとは言っていた…まさかセイレーンと手を組んでいたとは……」

吹雪「ま、待ってください!つまり、この戦争は」

ウオースパイット「アズールレーンとレッドアクシズの壮大なマッチポンプ…つてところかしら」

ホーネット「じゃあこの戦争に意味って……」

加賀(B)「ただセイレーンの意思によって行われている…あの時の戦争のように明確な領土侵略などの目標もない」

提督「……」

赤城(B)「あなた達、「艦娘」が現れなければ今頃はもつと各地に被害が広がっていったはずよ」

吹雪「どういうことですか?」

赤城(B)「あなた達が五航戦や巡洋艦隊を拿捕したおかげで上が大慌てして、戦力をあなた達に一極集中させることに決めたのよ」



赤城（B）「鉄血」もロイヤルと北方連合の戦を縮小させて、こちらのほうに遠征するという話よ」

摩耶「マジかよ……」

長門「ある意味良いことだが……」

涌井「それに関しての対策はおいおい考えていくとしよう……」

睦月「…あの、いいですか？」

赤城（B）「どうしたのかしら？」

睦月「この子達と戦った時、まるで感情がないロボットみたいに戦ってた」

睦月「それで明石さん達が解析したらセイレーンの成分が出て……」

赤城（B）「ああ、あれね……」

蒼龍（B）「あれは確か「艦船少女戦闘増強剤」によるものだな」

加賀（B）「使ったら艦船少女は通常の倍強くなるが、副作用として理性がなくなり、ただ相手を殺す兵器となる」

加賀（B）「そして唯一の弱点は」

吹雪「足元の艦装ですわね」

飛龍（B）「通常は足元の艦装にも見えない防御壁が展開するけど、この薬を使ったら

この限りじゃないんだ」

陽炎「なるほどね……」

黒木「しかし、そんなに強くなるなら全部隊に使うなりすればいいのでは？」

赤城（B）「そこまでやるほど上もバカじゃないわよ、あと私達はそれを使わなくても強いから」

蒼龍（B）「全てをロボットになったら流石に上も制御しきれませんからね」

加賀（B）「祥鳳達には試験運用として投与されてたからな……」

提督「……………」

黒木「で、これからどうしましょうか？」

涌井「うむ、ともかくハワイ方面に戻るしかあるまい」

アンダーセン「そこで作戦を再び考えましょう」

ビービー

アンダーセン「どうした？」

レーダー員『こちらレーダー、こちらに2名の艦船少女が向かっています！』

アンダーセン「なんだと？」

エンタープライズ「あれは……インディアナポリスとサウスダコタ……」

レーダー員『こちらに着艦を求めています、どうします？』

アンダーセン「断る理由はない、着艦させてくれ」  
レーダー員『はっ!』

インディアナポリス「はあはあはあ……」

明石(B)「酷い傷だにや……」

明石「ともかく、今すぐこちらに!」

サウスダコタ「ああ、彼女を頼む」

エンタープライズ「一体何があつたんだ?」

サウスダコタ「我々、「アスカロン」の基地が襲撃を受けた」

サウスダコタ「ユニオンの大艦隊に」

エンタープライズ「なんだと!」

ヨークタウン「私達を……?」

サウスダコタ「どうやら大統領令によりアスカロンの解体、そして戦力の接収が決められた」

サウスダコタ「アズールレーンの総司令部もこの決定を支持している」

サウスダコタ「僕とインディアナポリスはエンタープライズ達にこのことを伝えるた

めになんとか大艦隊の攻撃から抜け出せたけど」

サウスダコタ「他のみんなは…捕らえられたか…それとも……」

エンタープライズ「……………」

帽子を深く被るエンタープライズ

赤城「エンタープライズさん……」

エンタープライズ（また、生き残ってしまった……か）

サウスダコタ「そして大艦隊は今はこちらの方に向かっている…どうやら「つばめ」達の艦隊も接収するつもりだ」

サウスダコタ「……くっ！」

夕張「やだ、あなたも凄い傷じゃない！」

霧島「サウスダコタさんもこちらに！」

サウスダコタ「ああ……」

霧島（一体……これから何がおきるというの……？）

続く

## 第8話 転移、新たなる世界

涌井「ともかく迎撃体制を整えるしか無い！」

沼田「だが、この攻撃をしのいだとしても重桜・鉄血がこちらを狙ってくるかもしれない」

黒木「そしてアスカロンの基地が破壊された以上、補給も期待できないでしょう」

シエーン「まさに八方塞がりだな……」

アンダーセン「今は目の前の敵に集中するしかない……後のことは後で考えよう」

エンジェル「<<こちら早期警戒機、大艦隊を捕捉！>>

アンダーセン「数は？」

エンジェル「<<……おいおい、冗談だろ……>>

アンダーセン「どうした？」

エンジェル「<<ニミッツ級が6隻！フォード級が3隻！キティホーク級が4隻！

随伴ミサイル巡洋艦が約20隻！随伴ミサイル駆逐艦が約30隻！>>

ソナー員「<<潜水艦も探知！シーウルフ級2隻、バージニア級15隻！>>

シエーン「空母艦隊が複数……いや多すぎる……」

アンダーセン「こちらの戦力では退けるかもどうか……」

沼田「乗員の疲労も溜まっている……艦船少女や艦娘を出したところでも……」

通信員「通信来てます！相手の航空母艦からです！恐らく旗艦からかと！」

エンタープライズ「私が話す、通信を頼む」

通信員「はっ！」

エンタープライズ『こちらアスカロン所属秘書艦、航空母艦エンタープライズだ！どういうつもりだ？』

ボイス『こちらはユニオン連合艦隊司令のリチャード・ボイス中将である』

ボイス『アスカロンは大統領令100214号により解体され我々の指揮下に入ることとなった』

ボイス『速やかに投降しろ、でなければ全ての艦を撃沈する！』

エンタープライズ『我々の基地を破壊したのもその一環か！』

ボイス『そうだ、お前の指揮官は我々に従わなかったからな……今頃は瓦礫の底だ！』

エンタープライズ「くっ……」

ホーネット（姉さん……）

ボイス『繰り返し返す！今すぐに投降しろ！さもなれば撃沈する！以上だ！』

ガチャン

副司令官「い、良いんですか!?そこまで言ってしまつて……」

ボイス「フフ……我々の知識が少しでもあるのならむしろ降伏を選ぶはずだ」

涌井「各艦、戦闘配置!敵は撃ってくるぞ!」

ビービー

アンダーセン「今度は何事だ?」

リーダー員「別方向よりセイレーン艦隊を探知!計45隻!」

沼田「なに!?!」

リーダー員「セイレーン艦隊はユニオン艦隊に目もくれず、こちらの方向に砲を向けています!」

涌井「結託しているというのにはやはり本当だったか……」

沼田「しかし両方を相手にするのは危険すぎる……」

アンダーセン「うむ……このままでは……」

吹雪(ここで終わり、なのかな……)

その時

ゴンッ

涌井「なんだ今の音は」

リーダー員「各観測機器が謎の起動停止を確認！」

雨沢「この空間が歪んでいる…？」

沼田「くっ、な、なんだ……！」

アンダーセン「急に頭が……」

如月(B)「こわいよお……」

睦月(B)「うわあんっ……」

睦月「大丈夫……大丈夫だから……」

如月「うん、大丈夫……」

黒木「これは、あの時のっ……くっ」

吹雪「一体……何が……っ！」

長門「これは……まさかっ！」

その次の瞬間

意識はプツンと途絶えた

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・



「吹雪ちゃん！吹雪ちゃん！」

吹雪「…………あれ？」

明石（B）「よかった、気がついたにや」

吹雪「ここは…………輸送艦の中…………」

霧島「今提督たちが状況を確認中よ」

長門「うむ…………また転移したということか…………」

吹雪「つ、つまり戻ってきた？」

加賀「いいえ、通信回線・GPSは相変わらずのロスト」

比叡（B）「ユニオン・ロイヤル・鉄血・重桜などの通信も確認できませんでしたわ」

吹雪「じゃあここは…………「私達」や「艦船少女」の世界じゃなくて」

高雄「完全な別の世界…………ってことね」

愛宕「大丈夫かしら…………」

アンダーセン「うむ、通信は全てロストしている」

涌井「そしてユニオンなどの通信も確認できなかった」

黒木「完全な別の世界に転移した…………と考えるのが自然でしょう」

海江田「ともかくどこか陸地を探すしか無いでしょう…………もしかすると原始人に出会

う可能性もありますが」

ビービー

涌井「なんだ？」

リーダー員『方位210より！敵性生物の反応を確認！深海棲艦です！』

アンダーセン「数は？」

リーダー員『確認できるだけでも空母7、戦艦4、重巡8、軽巡5、雷巡3、駆逐10！全艦 flagship です！』

アンダーセン「艦娘・艦船少女隊を発艦させてくれ、編成は自由！」

涌井「深海棲艦がいるということはやはり……」

リーダー員『待つてください！別の方位より新たな反応を確認！』

リーダー員『この反応は「セイレーン」です！』

涌井「なに!？」

沼田「セイレーンと深海棲艦が同時に現れただど？」

リーダー員『空母5、戦艦4、巡洋5、駆逐8！人型のセイレーンを多数捕捉！それ以外にも反応有り！』

秋津「何故ここで両方が同時に……」

アンダーセン「ともかく、今は相手を撃破するしか無い……」

「艦娘・艦船少女隊、発艦します！」

出撃艦船

戦艦「アイオワ」「ウオースパイト」「長門」「霧島」「リシユリユー」

空母「翔鶴（B）」「瑞鶴（B）」「翔鶴」「瑞鶴」「赤城（B）」「加賀（B）」「赤城」「加賀」

賀」「エンタープライズ」「イラストリアス」

重巡「古鷹（B）」「加古（B）」「高雄」「愛宕」「鳥海」

軽巡「球磨」「多摩」「阿武隈」「夕張」

駆逐「Z1」「Z3」「不知火（B）」「陽炎」「吹雪」「吹雪（B）」

オペレーター「航空隊、全機発艦！」

赤城（B）「全艦載機、発艦始め！」

赤城「艦載機の皆さん、用意は良い？」

加賀「いくわよ、遅れないで」

加賀（B）「ええ………艦載機発艦せよ！」

翔鶴「五航戦航空隊、発艦始め！」

翔鶴（B）「先輩には負けませんわ、艦載機発艦！」

瑞鶴「瑞鶴航空隊、随時発艦して！」

瑞鶴（B）「いくわよ！」

レーベ「敵艦発見、攻撃開始！」

マックス「あれがセイレーン……………」

リシユリユー「深海棲艦と似ているわね……………」

長門「我々の攻撃も通用する、だから深海棲艦とは変わりがない」

アイオワ「その逆もしかりみたいね……………艦船少女の攻撃も深海棲艦に通用する」

霧島「ますます謎が増えましたね……………」

ウオースパイト「ともかく、今は戦うのみ……………fire！」

ル級flagship「!？」

次々と撃破されていく深海棲艦とセイレーン

戦い慣れた彼女たちにはもはや障害にすらならなかった……………

だがそんな時

長門「これで、最後だ！」

又級flagship「グアアアアアッ！」

長門「よし、これで……………」

エンジェル<<くまで、セイレーンと深海棲艦の出現を再び確認！計80隻！>>

霧島「なんですって!？」

長門「いくらなんでも多すぎるぞ！」

一同が慌てているその時

ビービー

涌井「今度は何だ？」

レーダー員『艦隊の接近を確認！これは……………』

レーダー員『後世の艦と思われまます！』

涌井「後世……………だと？」

黒木「……………」

大日本合衆国

東部太平洋艦隊

旗艦 戦艦「比叡」

司令長官 高杉英作

随伴艦艇

航空母艦「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」「翔鶴」「瑞鶴」

戦艦「霧島」「榛名」

航巡「利根」「筑摩」「最上」「三隈」

軽巡「長良」「阿武隈」「川内」

駆逐「秋雲」「夕雲」「卷雲」「風雲」「浦風」「谷風」「磯風」「浜風」

高杉「あの艦隊は……確か」

航空参謀「前に別の世界に転移した時に見た艦達とそっくりですな……」  
作戦参謀「あそこに艦娘……がいるようですね」

高杉「通信参謀、あの艦隊に通信できるかやってみてくれ」

通信参謀「はっ！前の周波数が使えるはずです」

通信員「後方の艦隊より通信です」

アンダーセン「繋いでくれ……」

アンダーセン『こちらは総司令のアンダーセンだ。あなた方は確か……』

高杉『こちら高杉……どうやらあなた方は前にあった人たちのようだな』

アンダーセン『うむ……そのようだ』

アンダーセン『詳しい話は後ほどお願いします。今はあの敵を倒さなければなら  
ない』

高杉『了解した』

ガチャ

高杉「航空参謀、艦載機の発艦を！」

航空参謀「はっ！」

高杉艦隊の空母6隻からは

戦闘機「電征3型」「嶺花」「閃電改」攻撃機「蒼山改」が発艦した  
エンタープライズ「あれは……日本の艦なのか？」

赤城「正確には私達とは違う日本の艦よ」

加賀「どうやら私達は後世世界に飛んでしまったようね……」

翔鶴「ともかく今はあの方とともに深海棲艦とセイレーンを倒さないと……」

翔鶴（B）「そうね……よくわからないけど、やるわよ、瑞鶴！」

瑞鶴（B）「うん！翔鶴姉！」

瑞鶴（でもなんで後世世界に深海棲艦とセイレーンが……気になるわ……）

イラストリアス「航空隊随時発艦！ロイヤルネイビーの力を見せてあげて！」

高杉艦隊と共闘していく

だが敵の数が多く、航空機の数は数え切れないほどとなっていた

球磨「いくらなんでも多すぎるクマー！」

高杉「護衛艦隊も迎撃しているみたいだけど、焼け石に水みたい……」

高杉「通信参謀、榛名・霧島に新三八弾装填を！上空の味方航空隊には退避命令を！」  
通信参謀「はっ！」

高杉「三八弾装填用意！」

「三八弾装填用意！」

通信<<こちら戦艦比叡、これより三八弾を発射する！上空の航空隊は退避せよ！繰り返す、退避せよ！>>

赤城「了解、艦載機の皆さん退避を！」

エンタープライズ「退避…何をするつもりだ？」

赤城（B）「ふふつ、何か面白そうなことが起こりそうね」

砲手「三八弾装填よし！電探連動よし！」

砲手「方位よし！最終確認よし！」

高杉「撃ち方、始め！」

砲手「てーっ！」

敵機「!?」



エンタープライズ「あれは……」

瑞鶴（B）「一瞬で敵機が……」

イラストリアス「消えた……？」

赤城「あれが後世艦隊の方が使う三式弾が進化したもの……だったわね」

加賀「いわゆる燃料気化爆弾ね……」

翔鶴（B）「凄い兵器ね……」

赤城「ともかく、敵機が消えた今なら私達でもやれるはずよ！航空隊、随時攻撃！」

流星改妖精「ハイイ」

……

アイオワ「これで、最後よ！」

ヲ級 flagship「グアアアアアツ！」

エンジェル<<<撃破確認！周辺海域にストレンジャーなし！>>>

赤城「やつと終わりましたね……」

赤城（B）「久しぶりのセイレーン戦は骨が折れましたわ……でも深海棲艦もセイレーンと似てるのね」

加賀（B）「ええ、深海棲艦に私達の攻撃は通用しましたから」

セイレーン・深海棲艦を撃破した「つばめ」艦隊は、この状況について知るべく

高杉艦隊の旗艦「比叡」に司令及び一部の艦船少女・艦娘が移動した。

高杉「うむ……異世界に転移して、その地でまた転移したと……」

黒木「はい、その地では艦娘に似た艦船少女に出会い」

黒木「その地で元の世界に戻る方法を探していました……」

高杉「見つからず今に至ると……」

涌井「突如ここに転移したことから、何か弾みで元の世界に戻れないことはないと考えられるが」

アンダーセン「その確率は天文学レベルかもしれない……」

高杉「なるほど……ところで艦船少女と呼ばれるのは……」

エンタープライズ「私だ」

赤城（B）「あと私ね」

高杉「赤城と……前世米国のヨークタウン級のエンタープライズか……」

高杉「なんとも艦娘とあまり変わらないようですね」

沼田「はい、攻撃力などは艦によって少し変わるものの、艦娘とほぼ変わらないよう  
です」

赤城「ええ……でも全くの別世界であるはずのあの世界に私達と似たような者達がいる……とても偶然とは思えません」

赤城（B）「同感ね……艦娘と艦船少女……なにか関係はあるとは思うわ」

提督「ところで、何故深海棲艦とセイレーンがこの世界に……」

高杉「確か後世第二次世界大戦のマスケット講和会議より1年後……その時に急遽出現したのです」

高杉「しかもその直後、我々と休戦協定を結んでいたはずの神聖欧州帝国がセイレーン・深海棲艦を「神の使い」と呼称し手を組み、アメリカ・イギリスを攻撃し始めたのです」

赤城「神聖欧州帝国？」

高杉「前世で言うナチス・ドイツがヨーロッパ全域を征服し、国名は神聖欧州帝国に改名したのです」

高杉「前世でのアドルフ・ヒトラー……ハインリッヒ・フォン・ヒトラーが皇帝です」  
ビスマルク「ドイツもずいぶん大きくなったのね……」

高杉「この後世でのドイツは前世での弱点をほぼ克服し、我々及び米英の連合軍でやつと講和に持ち込めたほです」

提督「そのドイツがセイレーンと深海棲艦と手を組んだ……と」

高杉「目的は世界征服で間違いはないと考えられます」

アンダーセン「この世界も一筋縄ではいかないようだな……」

通信参謀「長官、帝都より電信が」

高杉「うむ、わかった……こちら高杉……」

高杉「……了解しました、では」

ガチャ

高杉「大高大統領と高野総長が君たちに会いたいと言っておるが……」

涌井「行かないわけにはいくまい……ともかく今は情報がほしい」

アンダーセン「ああ……情報もないのにこの海を渡ることは出来ないからな」

高杉「では私達が横須賀港まで案内いたします」

輸送艦「みうら」格納庫内

赤城（B）「ところで、少し思ったのだけど」

赤城「どうしたのかしら？」

赤城（B）「あなた達艦娘は……誰が最初に誕生したのかしら？」

赤城「確か……戦艦「三笠」だったはずよ」

長門「ああ……我々の大先輩で、かつての深海棲艦戦では凄まじい武功を上げたと聞い

ている」

赤城 (B) 「あら、「そちら」も「三笠」なの？」

霧島 「どういうことですか？」

赤城 (B) 「私達艦船少女でも一番最初に出来たとされるのが戦艦「三笠」なのよ」

加賀 (B) 「彼女もセイレーン戦では敵が足りないほどの戦果を上げたと聞いている」

比叡 (B) 「そちらの「三笠」は今はどうしていらつしやるのかしら？」

長門 「……とある戦いで発生した大嵐で行方不明となつてしまった」

赤城 (B) 「行方不明？そこまで同じなのね」

霧島 「そちらの「三笠」も行方不明ということですか？」

赤城 (B) 「ええ……セイレーンとの戦いで……」

長門 「二人の三笠……か」

扶桑 (B) 「偶然の一致ですね……」

山城 (B) 「それにしても一致しすぎてる感じがする……」

扶桑 「謎が深まってしまったわね……不幸だわ……」

大和 (……………)

……………

どこかの深海

??? 「あら、「艦娘」達がこちらの世界に？」

?? 「ああ、あいにく逃してしまったが……」

??? 「あらあら……せつかく深海棲艦と手を組んだというのに……」

??? 「まあ……次は必ず捕まえなさい……「あの方」のために」

??? 「今まで様子を見てきたけど、いい頃合いよ」

?? 「はっ……」

駆逐棲姫 「……」

??? 「あら、駆逐棲姫さん、どちらへ？」

駆逐棲姫 「……カラムスヲ、ツブス……」

??? 「血の気が多いわね……やりすぎないようにね」

駆逐棲姫 「……」

続く

## 第9話 後世

「つばめ」艦隊及び高杉艦隊は日本海軍の横須賀基地に入港し

その後、司令官及び艦娘・艦船少女は艦載ヘリコプターで帝都の大統領官邸へ向かった

大統領官邸

大高「わざわざ来てくださってありがとうございます、私が大統領の大高と申します」  
高野「お久しぶりです。軍令部総長の高野です」

大高「いやはや、前に我々の艦隊があなた方のお世話になったようで……」

涌井「いえいえ、あの時あなた方がいなければ深海棲艦相手に我々は負けていたことでしょう……」

アンダーセン「ああ……あの時はかなりギリギリだった」

大高「そして……そこのお嬢様方が艦娘？」

赤城「私達はそうですけど、こちらの……」

エンタープライズ「正確には艦船少女だ」

大高「ほう、艦船少女ですか……」

赤城（B）「赤城です、よろしくお願いいたしますわ」

不知火（B）「不知火や、よろしゅうな」

エンタープライズ「エンタープライズだ。よろしく頼む」

高野「よろしく頼む」

沼田「しかしセイレーンと深海棲艦がドイツ……神聖欧州帝国と手を組んでいるとは……」

大高「うむ……神聖欧州帝国は世界征服を目論んでいる、そのためにはどんなものでも使うつもりなのでしょう」

高野「ちなみにあなた方はこれからどうするおつもりでしょうか？」

大高「もちろん、我々はあなた方を保護する用意があります。元の世界に戻る方法も随時調べていくつもりです。」

赤城「元の世界にはすぐにでも帰りたいのですが……深海棲艦とセイレーンをのさばらしておくつもりありません」

赤城（B）「同意見ね……あのセイレーン達をほっておくことはできないわ」

赤城（B）「元の世界に帰って……あの戦争を止めることはしたいけど……」

エンタープライズ「……この前までその戦争を続けようとしていたが」

赤城（B）「今は違うわ、もう一人の私を見て思い出したのよ」



赤城（B）「私達は侵略のために戦うんじゃない、「守る」ために戦うことをね……」  
加賀（B）「ええ………」

提督「もしかすると深海棲艦とセイレーンと戦ってる内に戻る方法も見つかるとも  
しれません……」

涌井「かなり夢の話だが……行動しないよりマシだ」  
ビービービー

赤城「警報!？」

エンタープライズ「警報音だと?」

高野「どうした? 何があった!？」

部下『大島付近に未確認生物の出現を確認!』

高野「接近は探知できなかったのか?」

部下『空軍の早期警戒機及び海軍の対潜哨戒機では探知されなかった模様です!』

大高「帝都及び近隣区に非常事態宣言発令! 帝都防衛軍は出動を!」

赤城「私達もいきましよう」

赤城（B）「ええ………」

赤城（B）（異世界でもここは日本……守らないと……!）

相模湾エリア

出撃艦娘・艦船少女

戦艦「長門」「霧島」「比叡(B)」「扶桑(B)」「山城(B)」

空母「赤城」「加賀」「赤城(B)」「加賀(B)」「エンタープライズ」

軽巡「球磨」「多摩」「神通」

駆逐「吹雪」「睦月」「夕立」「ラファイ」「夕立(B)」「秋月」「初月」

秋月「敵艦多数確認！セイレーンと深海棲艦合わせて19隻！空母多数！駆逐棲姫もいます！」

初月「対空戦闘用意！姉さん、吹雪さん、いくよ！」

吹雪「わかりました！」

夕立(B)「いくぜえええええ！」

ラファイ「行くよ……」

赤城「攻撃隊発艦急いで！」

ヲ級flagship「コウゲキタイ、ムカエウテ！」

駆逐棲姫「イイカラ、シズメ！」

加賀（B）「航空隊、随時攻撃！」

随伴艦艇を蹴散らす艦娘・艦船少女達

だが……

霧島「……………!?!」

霧島「あそこに船が！」

神通「あれは……客船じゃない！」

船長「あ、あれは……………」

船長「か、怪物なのか……」

副船長「あれが神聖欧州帝国の神の使い……!」

ヲ級flagship「……………シズメ！」

すばやく艦載機を客船のほうに繰り出す

吹雪「危ない！」

敵機が客船を攻撃しようとしたその時

赤城「はあああつ！」

赤城（B）「やらせは、しないわ！」

二人の「赤城」の戦闘機

「烈風」「電征」が敵機を撃墜する

船長「あ、あれは……戦闘機？」

航海長「にしてはかなり小さい……………」

赤城「客船は今すぐここから離脱してください！」

赤城（B）「私達が敵の相手をします！」

船長「わ、わかりました……………取舵一杯！」

副船長（あれは……………海に浮かぶ少女……………）

副船長（軍の新兵器？いや、違う……………兵器にしては……………）

霧島「撃て！」

又級elite「グアアアアアアアアアアアッ！」

駆逐棲姫「ハアツハアツハアツ……………」

駆逐棲姫「マダダ……………マダ！」

エンタープライズ「しぶといな……………だがこれで！」

???「させないわよ」

エンタープライズ「っ!？」

エンタープライズ「お前は……………」

??? 「あら、エンタープライズ……お久しぶりね」

エンタープライズ 「セイレーンのテストターαだ！」

吹雪 「あ、あれが……？」

霧島 「つまりセイレーンの幹部級……」

テストターα 「フフフ……まさかあなた達がこの世界に来るなんてね……」

テストターα 「あの人形を倒されるとは思わなかったけど、まあいいわ」

赤城 「あのときの倒したのは偽物……ってことね」

長門 「そのようだな……」

テストターα 「そして「艦娘」……あなた達もここに来るとね……」

吹雪 「わ、私達の事を知っていたんですか！」

テストターα 「ええ……今までずっと監視させてもらったわ」

テストターα 「でもまあ……」

テストターα 「守護者と偽りの守護者のタグとは面白いものね」

テストターα 「本来出会うはずもないコインの表と裏が出会う……なんとも珍しい事例

よ

霧島 「守護者と偽りの守護者？」

長門 「コインの表と裏……？」

赤城（B）「どういふことよ？」

テストターα「まあいいわ……………今日のところは深海が完敗しちゃったけど、次は絶対あなた達を捕まえる」

テストターα「カミ」に献上するためにね……………」

テストターα「フフフ……………」

その場から駆逐棲姫とともに消え去る

エンタープライズ「クソつ、消えたか」

長門「ともかく、今は戻るぞ、提督達へ報告しなければ……………」

空母「いぶき」内作戦室

大高『さすがは艦娘と艦船少女ですな……………我々の装備でも撃退はできるのですが、あの威力は驚きました』

高野『しかし、あれがあんな近くで出現するとは……………』

長門「確か我々が艦船少女達と戦った時……………あのときステルスで我々を攻撃しようとしていたが……………」

瑞鶴（B）「あれは確かセイレーンの技術ね……………原理はよくわかんないけど」

加賀「つまりその技術を応用して東京を奇襲しようとしていた……と考えられるわね」

吹雪「私たちが狙ってるのかな……」

睦月「うーん……どうなんだろう？」

睦月(B)「んー？」ペロペロ

如月(B)「？」

如月「ふふつ、可愛い……」

高野『うむ……それでだ』

高野『先程聞いた平行世界の技術については我々が探ってみよう……その代わりと言ってなんだが……』

提督「我々が日本に接近してくるセイレーン・深海棲艦を撃退する……ということですわね」

高野『ああ……我々は欧州・インド洋にも艦隊を派遣している以上、日本列島にはかなりの空きが出る』

高野『深海棲艦・セイレーンがあのように突然出現してくるかもしれない……無茶な願いだとは思うが……』

赤城「構いません、戦っているうちになにか手がかりが見つかるかもしれませんしね」

加賀「ええ……」

赤城（B）「私達も構いませんわ、セイレーンを野放しにするわけにはいきませんからね」

高野『ありがとうございます……』

高野『では私はこれで……何か情報が来ましたら伝えます』

ピッ

赤城（B）「ふうやれやれね……」

バタバタバタ

雷「た、大変よ！」

リベツチオ「大変大変！」

長門「どうしたんだ？ なにかあったのか？」

雷「とにかく来て！」

リベツチオ「基地の外で民間人がいっぱい集まってるの！」

赤城「え？」

日本海軍

横須賀基地



正門

「おーい！巫女様あああ！」

「巫女様を出してくれ！」

「悪霊を打ち払う巫女様！姿を！」

警備員 「押さないでください！」

加賀 「何の騒ぎなの……」

正門には「巫女様」目当てで来た一般人が詰め掛けている

明石 「どうやら私達が巫女様になつてゐるみたいです」

赤城（B） 「深海棲艦とセイレーンが悪霊で、それを打ち払うの私達が巫女……つてこ

とかしら？」

明石（B） 「噂に尾ひれがついたみたいにな……」

吹雪 「確かに間違つてはいないと思うけど……」

「ああ！巫女様だ！」

「おお……なんとも美しい……」

「小さな巫女様もいるようだぞ！」

「まさに日本の守護神！」

「よく知らんがこの日本を守ってくれよ！」

吹雪「なんか凄いですね……」

長門「まあ戦前の私の人気のようなものだな」ドヤツ

赤城「私もあのときは人気でしたね……」

赤城(B)「あら？そうだったの？」

赤城「ええ、戦前・戦中では長門と私で人気を二分しましたからね」

長門「艦船少女にはそういう記憶はないのか？」

赤城(B)「私達艦船少女には軍艦として動いた記憶……いや記録はあるわ」

赤城(B)「だけどあなた達艦娘のように艦に関わった人間による記憶はもってない

……と考えるのが自然だわ」

加賀(B)「どうしてなのかはわからない……」

赤城(B)「そして私もあなた達「艦娘」の存在を知るまで「前の艦」の存在を半信半

疑だったわ」

赤城「どうしてですか？」

赤城(B)「自分であって自分ではない……そう考えていたのよ」

加賀(B)「あなた達「艦娘」の世界では過去に太平洋戦争があつて、それで記録が確

かめられたようだけど」

蒼龍(B)「だけど私達の世界では太平洋戦争がなかったから記録を確かめようとも不

可能だった」

飛龍（B）「だからぼくたちには本当に前の姿あったのか疑問だったんだよ」

長門「ちなみに我々のことを艦娘と知ったのはいつのタイミングなんだ？」

赤城（B）「艦娘の存在自体はあの方……セイレーンから聞いていたわ」

霧島「セイレーンは艦娘の存在を知っていたのですね」

加賀（B）「ええ……もつともそれを聞いても半信半疑でしたが」

赤城（B）「あの時……あなたが達を直接見たら確信したわ……」

赤城（B）「あなた達が艦娘……つまり「私」達ということをね」

赤城「私もあなたを見た時に……うっすらだけど「私」だつてことに気がついた。なんとなくだけ」

長門「艦娘と艦船少女……なにか通じるようなものがあるようだな」

霧島「しかしあのセイレーンのテスターαが言っていた「守護者と偽りの守護者」「コインの表と裏」という言葉」

霧島「一体どういふことなのでしょう……？」

比叡（B）「それに関してはセイレーンから直接聞き出すしか無いと思われまますわ」

長門「ともかくしばらくは情報を集めたほうが良いだろう」

「巫女様〜巫女様〜！」

「バンザーイ！バンザーイ！」

.....

駆逐棲姫 「クツ、ヨケイナコトヲ」

テスターα 「まだあなたには利用価値がある、あんなところで消滅してもらっても困るわ」

駆逐棲姫 「チツ……」

戦艦棲姫 「……………」

空母棲姫 「……………」

テスターα 「あら？今度はあなた達が出るわけ？」

戦艦棲姫 「クククヨリワタシタチノホウガツヨイ」

空母棲姫 「イクゾ……」

続く

## 第9. 5話 「船」

照和世界に迷い込んだ「つばめ」艦隊は

元の世界に戻る方法を見つけることと、深海棲艦・セイレーンの脅威から「日本」を守るため

日本海軍横須賀基地及び呉基地を拠点に各領海に部隊を分散し、深海棲艦・セイレーンが接近してこないか警戒していた。

だが、偵察機の侵入や駆逐艦・軽巡洋艦の侵入こそあるものの、平和な海そのものであったため、艦娘・艦船少女達は暇を持って余っていた。

・・・・・・・・

ルイージ「ただいま」

U—511「帰還、しました……」

長門「敵影は見つからず……か？」

U—511「うん……」

ルイージ「なにもいなかったよー」

エンタープライズ「平和のようだな……」

霧島「かれこれ二週間経ちますが、相手は特に何も動いていないみたいですね」

比叡(B)「大西洋での戦いは激しさを増していると聞いていますが……敵は太平洋は全く気にしていらっしやらないようです」

扶桑「一体どういうことかしら？」

アイオワ「力を溜めている……という可能性もあるわ」

ウオースパイト「気が抜けた所を一気に奇襲する……あり得るわね」

ビスマルク「なら気を抜かないように用心するしか無いわ」

リットリオ「これからの哨戒も気をつけないといけませんね」

赤城(B)「……………」

赤城「あら？どうしたの」

赤城(B)「……かつて敵同士だった艦達がヒトの姿になって、そして争わず話し合ってるなんて」

赤城(B)「どうにも運命というものはわからないものね……」

赤城「そうですね……まさか私も「私」とこうして話すことになるなんて思ってもみませんでした」

赤城 (B) 「不思議ね……ふふふ」

加賀 (B) 「ほう、そんなことがあったのか」

加賀 「ええ……」

加賀 (B) 「話を聞く限りそちらの五航戦のほうが強いようだな」

加賀 (B) 「不意打ちの手を使ったにも関わらずそれを破られて完敗した……か」

加賀 (B) 「これだから五航戦は……」

翔鶴 (B) 「あら……なにか言いましたか？」 バチバチ

翔鶴 (B) 「加賀先輩、勝負よ！」

加賀 (B) 「望むところだ」

翔鶴 「やっぱり違うわね」

瑞鶴 (B) 「ん？」

瑞鶴 「どうしたの？翔鶴姉」

翔鶴 「艦船少女と艦娘……同じ艦から生まれているのにこうも違うのは不思議だなーっと思つて」

瑞鶴 (B) 「まあ確かにそうね……一見すると同じ艦とは到底思えないかも」

瑞鶴「確かに……そういえば、なんでそっちの翔鶴さんと瑞鶴さんは獣の耳とかないの？」

瑞鶴「あつちの赤城、加賀、蒼龍、飛龍にはついてるのに」

翔鶴「セイレーンの技術を取り込んだから獣の耳とかが付いてるって聞きましたけど……」

瑞鶴（B）「ええつと……んっ!」ズキッ

瑞鶴（B）「くっ……はあはあ……」

翔鶴「だ、大丈夫？」

瑞鶴（B）「大丈夫……ちよつと頭痛がしただけ」

翔鶴「念の為休んだほうがいいわ、明石さんのところに行きましよう」

瑞鶴（思い出そうとすると頭痛がした……何かあったのかな？）

瑞鶴（もしかしたらセイレーンに非道なことをされていたのかも……）

霧島「ええつと……ここはこれですわね」

霧島（B）「ほう……」

ラファイ「……」

霧島「あら、ラファイさん」



霧島 (B) 「ほう、この子が……」

ラファイー 「……キラシマ……とキラシマ？」

霧島 「そうです、私と同じ霧島です」

ラファイー 「よろしく……」

霧島 (B) 「ああ、よろしくな！」

ラファイー 「キラシマ達はなにをされていたの？」

霧島 「ちよつと記録をまとめていただけです」

霧島 (B) 「しかし、艦娘達もこんな激戦を戦い抜いてきたのか……」

霧島 (B) 「領土奪還作戦、MO作戦、ミッドウエー海戦、本土防空戦、鉄底海峡海戦

……他にも色々あるんだな」

霧島 「まだまだありますからね……例えば……」

吹雪 「ただいまー！」

吹雪 (B) 「たっだいまー！」

睦月 「吹雪ちゃん達、お帰り！」

如月 (B) 「……おかえり」

睦月 (B) 「おかえり〜♪」

吹雪「ええつと睦月ちゃんにはこれ、そっちの睦月ちゃんにはこれを」

吹雪(B)「夕立達と如月達にもあるよ」

夕立「ありがとうっばい！」

夕立(B)「ありがとな！」

吹雪「他の方にも渡していかないと……でも今日は疲れたなあ……」

吹雪(B)「うん、行く先々に握手とかサインとか求められたもんね」

睦月「人気なんだね……」

如月「そうみたいね」

睦月(B)「あめさんあめさん♪」

如月(B)「おいしい……」

横須賀基地内棧橋

大和「……………」

長門「どうしたんだ？大和、こんなところで」

大和「……三笠さんについてずっと引っかかってて」

長門「三笠のことか？」

大和「はい……話を聞く限り、艦娘の三笠も艦船少女の三笠も同じように戦い……同じ

ように行方不明になったようで」

大和「まるで……」

長門「偶然とは思えない……か」

大和「はい、そして……さつき、あちらの艦船少女にお聞きして……その特徴を聞く限り」

大和「どうにも艦娘の「三笠」と同じような容姿をしているみたいなんです」

長門「うむ……二人の三笠か……」

大和「もしかしたら……そこに艦娘と艦船少女の謎の答えがあるのかもしれない」

長門「だが本人が居ないことには……」

大和「……もし、私達のようにこの世界に転移していたとしたら」

長門「どうということだ？」

大和「二人の三笠は両方共行方不明になっている……つまり轟沈なども確認されてないということですよね？」

大和「ということとは……」

長門「まさか、な……」

赤城（B）「でもありえない話ではないと思うわね」

大和「赤城さん……」

長門「聞いていたのか」

赤城(B)「あなた達が私達に来たのも、ここに転移したのも」

赤城(B)「全て偶然とは思えないわ。」

赤城(B)「そして艦船少女と艦娘」

赤城(B)「それらの関係も偶然とは思えない」

赤城(B)「考えてみる価値はあると思うわ」

長門「そうだな」

大和「ええ……今は情報を集めましょう」

続く

## 第10話 迎撃

グリム「はあ……」

ダヴェンポート「グリム、なんか悩みでもあるのか？」

グリム「チョッパ―大尉……この異世界に来てもう二週間」

グリム「早く元の世界に帰らないと深海棲艦が息を吹き返してもおかしくないですよ！」

ダヴェンポート「まあまあ落ち着けよ、怒ってたって何も変わんねえぞ？」

ナガセ「そうよ、焦って余計な力を消費してもあまり意味はないわ」

ランパート「僕達は気長に待つしか無い……」

フォルク「そうだ、ここでうだうだ言うより眼の前の敵を気にしろ」

グリム「そうですけど……」

ビービーツ！

ナガセ「敵襲？」

アナウンス『敵爆撃大隊、領空侵犯を確認！本土に接近中』

アナウンス『緊急発進せよ！』

グリム「な、なんですか!？」

ダヴェンポート「どうやら来たようだぜ」

フォルク「ああ……」

ナガセ「行きましょう」

デビル1<<<こちら「いぶき」所属早期警戒簡易管制機「デビル1」>>>

デビル1<<<各機、状況を報告せよ>>>

メビウス2<<<メビウス隊、スタンバイOK>>>

第10航空団第118戦術航空隊 メビウス

搭乗機 F-22A ラプター

エッジ<<ウオードッグ、準備OKです>>>

第6航空団第108戦術戦闘飛行隊 ウオードッグ

搭乗機 F-14A トムキャット

ガルダー2<<<こちらガルダー隊、準備できてるよ>>>

第8航空団第28航空隊「ガルダー」

搭乗機 F-15E ストライクイーグル

ボーンアロー2<<<ボーンアロー隊、いつでもいけるぜー>>>

第8航空団第29航空隊「ボーンアロー」

搭乗機 F-35A ライトニングII

クロウ1<<<クロウ隊、準備完了>>>

第6航空団第4飛行隊 クロウ

搭乗機 F-16C ファイティングファルコン

ガラム2<<<ガラム隊、OKだ>>>

第6航空団第66飛行隊「ガラム」

搭乗機 F-15C イーグル

デビル1<<<うむ、全員揃っているようだな>>>

ガラム2<<<しかしまさか俺たちの戦闘機をNATOの輸送艦で持ってきてたとは

な……>>>

チョッパー<<<艦載機だとF-35C、FA-18、F-14くらいしかねえからな。

お前らは本来は空軍だからこっちのほうに慣れてるんじゃないやねえのか?>>>

クロウ3<<<まあ、こっちのほうに愛着はあるけど……>>>

ボーンアロー2<<<グッドフェローも粋なことをしてくれるなあ……>>>

ガルーダ2<<<僕達が艦載機以外でも戦えるようにしてくれてたんだね>>>

基地管制<<<こちら日本空軍多摩飛行場管制、君たちが異世界のパイロット達と上か

ら話は聞いている>>

基地管制<<別世界でも空を飛んでくれて感謝する。頼むぞ>>

ガラム2<<ああ……>>

アーチャー<<…あれがこの世界の航空機なんですね>>

エッジ<<電征Ⅲ型、蒼葉改、閃電改、桜花、嶺花と呼ばれる物みたいね>>

ガラム2<<桜花は俺達の世界では旧日本軍の特攻機として呼ばれてるが、この世界では真つ当な迎撃機のような>>

デビル1<<おしやべりはそこまでだ、作戦を再度確認する>>

基地管制<<早期警戒機が本土に接近する敵航空隊の接近を確認した>>

基地管制<<敵は深海棲艦・セイレーンの戦闘機及び独の大陸間長距離爆撃機「ヨルムンガンド」  
「アース」の模様だ>>

基地管制<<「ヨルムンガンド」はともかく、「アース」は機銃や噴進弾を無闇に当てても落とせるものではない>>

ガラム2<<その「アース」ってのはコックピットやエンジンを狙えば良いんだろ？>>

>>

ガルーダ2<<重巡航管制機落とした時と同じようにやれば良いんだね>>

クロウ3<<あの時は大変でしたね……確か「アイガイオン」と「フレスベルク」で



したっけ?>>

チョップパー<<<少なくともブービーが落としたアークバードよりはマシだろ?>>

デビル1<<<頼もしいな:>>

ガルム2<<<よし、来たようだな……:>>

深海戦闘機<<<テツキ、カクニン>>

セイレーン戦闘機<<<コウセン、コウセン>>

独爆撃機隊<<<日本の迎撃機だ!各機弾幕を張れ!>>

独爆撃機隊<<<こちらに神の使いがついている!負けることはない!>>

デビル1<<<全機、交戦を許可する>>

ガルム2<<<ガルム2、エンゲージ>>

ボーンアロー2<<<ボーンアロー2、エンゲージ!>>

ガルムダ2<<<ガルムダ2、エンゲージ!>>

チョップパー<<<チョップパー、エンゲージ!>>

アーチャー<<<アーチャー、エンゲージ!>>

エツジ<<<エツジ、エンゲージ!>>

メビウス2<<<メビウス2、エンゲージ!>>

メビウス8<<<メビウス8、エンゲージ>>

クロウ3<<<クロウ3、エンゲージ!>>>  
 デビル1<<<メビウス1、ブレイズ、ガラム1、ガルーダ1、ボーンアロー1、エン  
 ゲージ>>>

日本空軍機<<<各機、異世界の戦闘機に遅れを取るなよ!>>>

クロウ3<<<FOX2!FOX2!>>>

チョッパー<<<FOX2!FOX2!>>>

深海戦闘機<<<チツ!>>>

セイレーン戦闘機<<<グアアアアツ!>>>

デビル1<<<さすがエースだ、前方の戦闘機隊を一気に掃討した!>>>

独爆撃機隊<<<敵機が近づいてきたぞ!弾幕を!>>>

ガラム2<<<FOX2!FOX2!>>>

独爆撃機隊<<<左舷引火した!消火器を!>>>

独爆撃機隊<<<ダメコン急げ!>>>

メビウス2<<<FOX2!FOX2!>>>

チョッパー<<<FOX2!FOX2!>>>

独爆撃機隊<<<ヨルムガンDの3機一気にやられたぞ!>>>

独爆撃機隊<<<だがこのアースは落ちまい!通常の機関砲や噴進弾ごときでは落と

せん！>>

ガルード2<<<なら目を潰すだけだ！FOX3！>>>

ガルム2<<<FOX2！FOX2！>>>

独爆撃機隊<<<クソ！左舷エンジン停止！>>>

独爆撃機隊<<<爆弾を降ろせ！軽くしろ！>>>

独爆撃機隊<<<撃ちまくれ！>>>

メビウス1<<<……>>>

ガルム1<<<……>>>

ブレイズ<<<……>>>

ガルード1<<<……>>>

ボーンアロー1<<<……>>>

独爆撃機隊<<<あれが隊長機だ！落とせ！>>>

独爆撃機隊<<<機関砲、回せ！とにかく撃ち尽くせ！>>>

深海戦闘機<<<リボンツキ……！>>>

セイレーン戦闘機<<<ゲキツイシロ！>>>

チョッパー<<<ハエどもが集ってきたようだぜ！>>>

エッジ<<<エッジ、FOX2！>>>

日本空軍機<<<ーてっ!ーてっ!>>>

深海戦闘機<<<グアアアアツ!>>>

ガラム2<<<FOX3!FOX3!>>>

独爆撃機隊<<<だ、駄目だ!脱出しろ!>>>ビービーツ

デビル1<<<「ヨルムガンドD」4機撃墜!>>>

チョッパ<<<よっしやあ!>>>

ガラム2<<<ちっ!だが、「アース」のほうはコックピットだけ狙うのも楽じゃねえぞ

>>

ガルーダ2<<<なら…行くよブラザー>>>

ガルーダ1<<<…:>>>

アーチャー<<<…まさかその積んである爆弾って…>>>

ガルーダ2<<<よし…この角度から…:BOM Fire!>>>

デビル1<<<ガルーダ2、ガルーダ1、爆弾投下!>>>

独爆撃機隊<<<た、隊長!上空より爆弾が!>>>

独爆撃機隊<<<迎撃、間に合いません!>>>

独爆撃機隊<<<ぐ、ぐあああああああああつ!>>>

デビル1<<<「アース」2機撃墜!>>>

チヨッパー<<<そうか、対空ミサイルや機銃ごときじゃ傷はつけられんが>>>  
チヨッパー<<<爆弾ならいけるってことか>>>

ガルム2<<<爆撃機は速度も遅いから確かに狙えるが……>>>

チヨッパー<<<よくやるぜ……>>>

独爆撃機隊<<<この数では作戦続行はできません!>>>

独爆撃機隊<<<これくらいは損傷、作戦に支障はない>>>

独爆撃機隊<<<何を言っているんですか!?!>>>

独爆撃機隊<<<いいからやるのだ、私は総統閣下より選ばれた存在ということをお忘れな>>>

独爆撃機隊<<<クソっ!「総統の息子」め……>>>

独爆撃機隊<<<全機を撃ち落とすのだ、今までのとはまぐれにすぎん>>>

エッジ<<<敵、撤退しません>>>

チヨッパー<<<残りのヨルムンガンドは俺たちがやる、ガルム2の2機はアースを頼むぜ!>>>

ガルム2<<<了解!>>>

.....

ガラム2<<FOX3!FOX3!>>

日本空軍機<<これで最後だ!撃て!>>

独爆撃機隊<<う、右舷が!>>

独爆撃機隊<<嫌だ、僕は死にたくない!僕は、総統閣下選ばれた新貴族だぞ!>

>

ポーンアロー2<<隊長のミサイルが命中するぜ!>>

独爆撃機隊<<う、ぐああああああつ!>>

デビル1<<最後の爆撃機の撃墜を確認、よくやった>>

ポーンアロー2<<隊長、やったぜ!>>

日本空軍機<<よくやったぞ!しかし、あのアースに爆弾を投下するとはな…奇想天

外もいところだ>>

ガルーダ2<<そうしないと勝てない戦いもあったからね>>

日本空軍機<<そちらの世界も戦いは複雑だったのだろうか…>>

チョッパ1<<まあな…:帰還するぜ、ブービー>>

ガラム2<<相棒、まだ生きてるか?>>

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

グリム「はあ…:疲れましたね…:」

エツジ「そうね……」

グリム「あれ？隊長は？」

ダヴェンポート「隊長なら先に休んでるぞ、いくらブービーでも人間だからな」

グリム「そうですか……」

グリム「……ここですばらく戦うしかない、か……」

ダヴェンポート「……艦娘や艦長、司令達も頑張っている以上、俺たちも頑張るしかない」

フォルク「制海権が取れていても、制空権が取れていないと意味がないからな」

グリム「そう、ですね……」

……

紺碧島 とある海岸

???「……」

前原「おやお嬢さん、砂浜で何かありましたか？」

前原一征

後世日本海軍

秘匿潜水艦隊「紺碧艦隊」艦隊司令長官

階級 海軍少将

??? 「…あの子達はここに来ていると言ってたな」

前原 「ええ、お嬢さんのお仲間の艦娘・艦船少女含む艦隊群がこの世界に転移してきた…」

前原 「現在は本土に侵攻してくる深海棲艦・セイレーンの撃破、そして元の世界に戻るための情報収集をしていると聞いている」

前原 「…我々は後日の深海棲艦・セイレーン戦に参加するために本土に行く予定ですが…お嬢さんは？」

??? 「…この海を見てやっつと決心した」

??? 「一度はこの海から逃げた身、あの子達に合わせる顔がないとも思った」

??? 「だが目の前で深海棲艦とセイレーンにこの世界とあの2つの世界を好きにさせるわけにはいかんだ」

??? 「この綺麗な海をずっと綺麗なままであり続けるために、我は再び艦装を纏うつもりだ」

前原 「…御出でになる、ということですね」

??? 「ああ、再び日の本を守るためにも…いや、世界を守るためにだ」

??? 「それが艦娘であり、艦船少女でもある我の役目だ」



続く

## 第11話 姫

小笠原諸島周辺海域

出撃部隊

艦船少女・艦娘

戦艦「長門」「金剛」「霧島」「霧島(B)」「サウスダコタ」「ビスマルク」「アイオワ」  
空母「赤城」「加賀」「赤城(B)」「加賀(B)」「アークロイヤル」「サラトガ」「エン  
タープライズ」「ホーネット」

重巡「摩耶」「鳥海」「インディアナポリス」「摩耶(B)」

軽巡「球磨」「多摩」「夕張」「夕張(B)」

駆逐「吹雪」「吹雪(B)」「時雨」「暁」「響」「時雨(B)」「ラファイ」

NATO軍

空母「ロナルド・レーガン」「プリンス・オブ・ウェールズ」

強襲揚陸艦「ブーゲンビル」「オーシャン」

巡洋艦「アンティータム」

駆逐艦「ジョン・ポール・ジョーンズ」「マスティン」「ステザム」「デューイ」「ドラ

ゴン「ディフェンダー」「ダンカン」

潜水艦「ジミー・カーター」「ノースカロライナ」「タービュレント」「アートフル」  
自衛隊

空母「あまぎ」

護衛艦「みらい」「あたご」「さぎなみ」「ふゆづき」

潜水艦「たつなみ」「けんりゅう」

独立国家「やまと」

シーバット級原子力潜水艦「シーバット」

後世日本

戦艦「比叡」「榛名」

空母「赤城」「加賀」「蒼龍」

航巡「最上」「三隈」

軽巡「長良」

駆逐「秋雲」「夕雲」「卷雲」「風雲」

赤城「全艦、準備OKですか？」

長門「ああ！」

赤城(B)「ええ」

加賀（B）「しかし、多方向から同時に攻めてくるとはな……」

霧島「こちらも部隊を3つに分担して対応することになりましたが……」

ビスマルク「一つは千島・樺太方面に現れた深海棲艦の討伐」

エンタープライズ「一つは先島諸島方面に現れたセイレーンの討伐」

ホーネット「そしてここが小笠原諸島方面に現れたセイレーン・深海棲艦の討伐つて

ことね」

アークロイヤル「同時多発的に侵攻……か」

長門「なら迎え撃つまでだ！」

デビル2<<敵をリーダーで補足！出ます！>>

又級flagship「グオオオオオオオオオツ！」

ヲ級flagship「……」

ル級flagship「……」

ナビゲーター「……」

コンダクター「……」

エンタープライズ「主力艦を一気に詰めてきたか……！」

長門「全艦、砲雷撃戦用意！」

赤城「全航空隊、随時発艦してください！」

時雨「じゃあ「時雨」行くよー!」

時雨(B)「わかったわ、時雨様達のお通りよー!」

吹雪(B)「やつほー!」

吹雪「や、やつほ……」

夕立(B)「ソロモンの悪魔の力」

夕立「見せてあげる!」

アンダーセン「こちら今回の指揮を務める司令のアンダーセンだ」

アンダーセン「敵は航空機を中心に攻撃を仕掛けるようだ、空からの攻撃に気をつけろ」

アンダーセン「なお航空隊はウォードッグ、ガルムを中心に敵空母に攻撃を」

ビーグル「頼んだぞ、空のエース達!」

チョッパー「了解!いくぞ、ブービー!」>>

ガルム2「<<相棒、いくぞ>>」

高杉「各艦、砲撃始め!」

菊池「よし!シースパロー発射、始め!」

ヲ級改flagship「ムカエウテ!」

コンダクター「キエロ!」

海戦の火蓋が切つて落とされた

先行するのはエースパイロットのウォードッグ、ガラム

その後方に自衛隊艦載飛行隊・後世日本艦載航空隊、NATO空母航空団、艦娘・艦  
船少女空母航空隊が続く

ガラム2<<FOX2!FOX2!>>

エッジ<<FOX2、FOX2!>>

アーチャー<<あれくらいに敵、1つずつ落としていけば……>>

ソーズマン<<FOX2!FOX2!>>

チョップパー<<ブービーが敵機撃墜!>>

そして艦隊は防空戦を行いながら

敵艦に攻撃を開始

長門「主砲斉射!撃ちまくれ!」

金剛「全砲門ファイアアアアア!」

霧島「主砲三式、弾幕を張ります!」

アイオワ「Fire!Fire!」

エンタープライズ「第二次攻撃、発艦急げ!」

サウスダコタ「Fire!」

深町「魚雷全門ぶちかませ！」

海江田「1番、2番、魚雷発射」

もちろん、いまさらこんな艦隊に敵が務まるはずもなく

リ級flagship「グアアアアッ！」

又級flagship「ゴオオツツウ！」

次々と撃沈していく……

ビスマルク「力押しだけで、たいしたことないわね！」

ホーネット「このまま畳み掛けるわよ！」

エンタープライズ「……………待て！」

ヒュンツ

ホーネットの真横に砲弾が掠れた。

ホーネット「え？」

ビービービーッ

デビル2<<方位300、アンノウン検出！>>>

霧島「こちらでも確認！深海棲艦の戦艦棲姫と空母棲姫です！」

戦艦棲姫「フフフフ……………」

空母棲姫「ハハハハハ！」

赤城「やはり来ましたね……」

加賀「ええ」

加賀（B）「あれは……」

赤城（B）「くっ……オーラが半端じゃないわ……」

エンタープライズ「あれが深海棲艦の姫……ボスの一人か」

戦艦棲姫「シズメ、シズメ！」

空母棲姫「ウオオオオオオオオオオオオッ！」

戦艦棲姫・空母棲姫による攻撃が始める

アンダーセン「敵の姫二隻には気をつける！あれの攻撃が当たれば通常艦船はもちろ  
ん、艦娘・艦船少女でもひとつたまりもないぞ！」

アンダーセン「防空艦の各艦は迎撃に努めろ！攻撃は基本は艦娘・艦船少女が行え！」

ホッパー「来るか……」

浦田「今こそイージスの役割を果たす！」

梅津「スタンダードミサイル2、随時発射！三方向の敵を撃墜しろ！」

菊池「うちーかたはじめ！」

チョッパー<<<FOX3！FOX3！>>>

アーチャー<<<隊長が敵機撃墜！>>>



戦艦棲姫「ナギハフエー！」

空母棲姫「シズメ!!!」

長門「ちっ！ーてっ！ー」

サウスタコタ「Fire!……くっ！」

霧島「大丈夫ですか!、やはりあの時の傷が……」

サウスタコタ「……気にするな!それより今は……うっ！」

アイオワ「すごい傷じゃない!あなた、まだ完治してないのに……」

霧島(B)「いくらなんでもこれでは戦いは無理だ!」

サウスタコタ「これくらい、平気だ………戦艦は、簡単には、沈まない………僕と戦っ

たキリシマ達が一番わかっているはずだ」

霧島「ですが!」

サウスタコタ「あの時、僕が守ってれば指揮官達も逃がせられたのに………僕はあの敵の砲撃に倒れて………」

サウスタコタ「指揮官は僕を逃してくれただ、表向きには連絡役として指揮官と仲間たちは敵をひきつけてくれて………」

サウスタコタ「だからもう嫌なんだ!僕がミスして誰かを犠牲にするのは!」

霧島「サウスタコタさん………」

サウスタコタ「全力で、かかってこい!! 深海棲艦! セイレーン!」

戦艦棲姫「……シズメ!!!」

空母棲姫「シズンデシマエ!!」

コンダクター「キエロ!」

サウスタコタ「はあああああああああつ!!!」

霧島「サウスタコタさん!」

霧島（B）「あんなに接近してしまったら、ひとたまりもないぞ!」

サウスタコタ「あああああああああああああああああああつ  
!!!!!!!」

戦艦棲姫「シズミナサイ!」

「そうはさせん!」

サウスタコタ「……え?」

霧島「サウスタコタさんの前に……人が……?」

??? 「さすがアメリカの艦だ……気合は日の本には負けておらん」

長門 「あれは……」

金剛 「ウソ、デシヨ……?」

赤城 (B) 「あれは……まさか……」

「三笠さん!」

三笠 「間に合ったようだな」

敷島型前弩級戦艦 「三笠」

長門 「まで、お前達も三笠を」

赤城 (B) 「そういうあなた達も……」

三笠 「話は後だ!今は敵を討つぞ!」

三笠 「各艦、陣形を整えろ!態勢を立て直せ!」

三笠 「サウスダコタは戦線を離脱しろ!」

サウスダコタ 「わ、わかった!」

三笠 「航空隊の指揮は赤城達に一任する、我は素人なのでな」

赤城 (B) 「わ、わかりました!」

赤城 「了解です!」

三笠 「よし、各艦砲撃用意!」

長門「主砲、徹甲弾装填！」

金剛「装填確認デース！」

霧島「弾着観測、いけます！」

アイオワ「こつちもOKよ！」

ビスマルク「いつでもいけるわ！」

三笠「用意……ーてっ！」

戦艦棲姫「!？」

戦艦棲姫「ナン、ダト……！」

夕立「一点集中の攻撃で戦艦棲姫を撃沈したっぽい！」

吹雪「す、凄い……！」

空母棲姫「クツ……！」

コンダクター「オノレ……！」

赤城「遅い！」

赤城(B)「叩き込みなさい！」

妖精たち「ーテっ！」

空母棲姫「ぐああああっ！」

コンダクター「ぎゃああああつ！」

デビル2<<<よし、敵のボス級を撃破したぞ！>>>

ガラム2<<<残りの艦船は撤退する模様、追撃は？>>>

アンダーセン「ここで見送れ、深追いは禁物だ」

南波「ん？潜水艦隊が浮上してきます！」

深町「なんだと!?!新たな敵か？」

南波「いえ、これは……！」

ザバツ

海江田「……あの時の潜水艦隊か」

日本海軍 秘匿潜水艦隊 紺碧艦隊

司令長官 前原一征

所属艦船

潜伊3001 亀天号（旗艦）

特潜伊601 富嶽号

伊501 水神号

伊502 快竜号

伊503 爽海号

潜補伊700

潜揚大伊900

前原 「こちら紺碧艦隊司令長官の前原一征だ、応答願う」

アンダーセン 「こちら艦隊司令官のアンダーセン、まさかあなた達がここに……」

前原 「我々は深海棲艦・セイレーン戦に参加するために本土のほうに向かっていたのですが、この付近で戦闘が発生したと通信が入り」

前原 「お嬢さん」のご希望もあり、お嬢さんを海中から射出したのです」

吹雪 「か、海中から!？」

前原 「そしてそのお嬢さんが……」

三笠 「我、戦艦三笠だ」

長門 「この世界に転移していたとは……」

赤城 「まさかここに居たなんて……」

赤城 (B) 「不思議ね……」

加賀 (B) 「それよりなぜ我々が知る三笠をお前達も知っていたのだ？」

三笠 「それは我から話そう……と言いたいが」

三笠「これは一度本土に戻り、ほかの方面にいる艦娘・艦船少女たちも呼び戻した上で話す」

三笠「長い話になるからな」

長門「…わかった」

アンダーセン「全艦、帰投せよ」

三笠「……………」

続く

## 第12話 集結

輸送艦「みうら」内

講堂

長門「……………」

赤城（B）「それで……………何を話すつもりなのかしら？」

三笠「我」のことだ、お前達は不思議思っただろう」

霧島「ええ、私達を知る三笠さんはもちろんあなたのことです」

比叡（B）「私たちが知る三笠さんもあなたのことでした」

長門「なぜ同じ人物が別の世界に認識されているのか…か」

三笠「……………我は艦娘でもあり、艦船少女でもある」

吹雪「え？……………え？」

三笠「つまり艦娘達を知る私、艦船少女達を知る私は同一人物だ」

赤城（B）「ま、まあそうなるけど……………」

長門「なぜそのようになったのだ？三笠さんは確かあの時の戦いで…」

霧島「嵐に巻き込まれ……………というのは私達が最初に転移した時と同じです」



三笠「そのようだな」

三笠「嵐でなぜ飛ばされたかは置いておくでしょう。それに関しては我にもさっぱりだ」

明石「こちらであの時の状況は解析しようにも全く手がかりがない状態ですからね……」

三笠「我はその嵐に巻き込まれ、気づけば薄暗いところに居た」

三笠「黒いやつら……いわゆるセイレーンにホッドの中で眠らされていた……というべきか」

加賀（B）「セイレーンに囚われていた？」

三笠「眠らされていたので詳しいことはわからなかったが、かすかに会話が聞こえた」  
三笠「これを元にアレを作れる」「アレを人類に与えれば第一段階は完了する」……と」

比叡（B）「アレ」……？」

山城（B）「なんのこと……？」

明石「うーむ、人類に何かしらの兵器を裏で提供するために必要なにかを得ようとしていたのでしょうか」

エンタープライズ「アズールレーン・レッドアクシズに何かを裏で提供していた……か」

三笠 「その後我は記憶を消去され、海に投げられ、重桜に保護され、艦船少女として配備された」

赤城 (B) 「そしてその時に私達と出会った……」

三笠 「いつのにか牛のような角をつけられてな……取ろうにも取れんのだ」

加賀 (B) 「重桜艦はセイレーンの強化技術を投与し、そして副作用として動物的なモノが生えるのが決まりだったからな……」

加賀 (B) 「一部艦はその技術を植え付けてもその動物の耳などは現れなかったがな」  
瑞鶴 (B) 「……………」

吹雪 (だからあつちの翔鶴さんと瑞鶴さんには耳とかがなかったんだ……)

三笠 「その後、我は艦船少女としてセイレーンを撃退していったのだが……ある戦いで再び嵐に巻き込まれた」

三笠 「そしてここに再び転移した。その衝撃なのか艦娘時代の記憶も戻ったのだ」

三笠 「そして深く損傷した私は紺碧艦隊の方々に保護された」

沼田 「前原さんが彼女を？」

前原 「ええ、我々の拠点の紺碧島の砂浜に打ち上げられてる彼女を発見したのです」

前原 「最初は何かと思いましたが、話を聞く内に事情を把握したのです」

前原 「幸い我々は前に別世界に転移したことがあったので、その事実を元に真実と見

極めることができました」

長門「しかし、三笠さんが来てくれるならこの艦隊も安心できる」

大和「私達の大先輩ですからね」

比叡(B)「三笠さんがいるなら百人力ですわ」

三笠「それほど期待されても困るが……しかしできるだけ努力をしよう」

アイオワ「なら、改めてよろしくね」

エンタープライズ(B)「よろしく頼む」

三笠「うむ……よろしくだ」

他の艦達と握手を交わす

アンダーセン「ところで、前原さんは作戦に参加するために本土に來たと聞いたが……」

前原「それは私からより高野総長から聞いたほうがよろしいでしょう」

高野「そのようだな」

霧島「なにか大規模な作戦があるのでしようか?」

高野「うむ、深海棲艦とセイレーンが拠点にしている海域の特定に成功したのだ」

高野「そこを叩けばこの日本に深海棲艦・セイレーンが現れることはもう無くなるだろう」

グラフ・ツエツペリン「場所はどこなんだ？」

高野「インド洋の……ここです」

アーク・ロイヤル「ここは……モルデイブ諸島か」

ウォースパイト「インド洋のど真ん中ね……」

高野「現在、日英間の貿易は護衛船団方式を取っているが、その船団がこの付近で襲われる事例が多発し、その相手が」

提督「深海棲艦・セイレーンということか……」

アンダーセン「うむ……しかし、拠点ということは相当な数が予想される」

アンダーセン「こちらの手勢で勝負がつくか……」

前原「大丈夫です、我々にはもう一つ援軍が居ます」

アンダーセン「もう一つ……まさか……」

・・・・・

インド洋

モルデイブ島方面海域

赤城（B）「その援軍とやらは心強いのかしら？」

長門「ああ、大和型の主砲46cmを超える51cm三連装砲を持つ戦艦が中核に

なっている艦隊だ」

サウスダコタ「51cm!？」

大和「確かに計画では51cmを作る計画がありましたが、結局お流れになってました」

長門「この世界では51cm砲が実用化されたが、その代わり大和と武蔵は生まれていない」

長門「正確に言えば日本武尊に生まれ変わったと言うべきか……」

霧島「ですがその援軍が来たとしても制海権・制空権を我々が確保していないと作戦に支障が出ます」

霧島（B）「今は敵の排除に集中か……」

三笠「ああ……」

デビル1<<<こちら早期警戒機、敵勢力の接近を確認>>>

三笠「各艦、複縦陣を取れ！」

長門「了解！」

三笠「各艦、対水上戦闘用意！」

大和「対水上戦闘用意！」

三笠「目標！深海棲艦・セイレーン連合艦隊！各空母は戦闘機を！細かい指示は任せ

る！」

エンタープライズ「了解だ、航空隊発艦！」

艦娘・艦船少女・自衛隊・NATOの連合は全戦力が参加

後世日本軍も坂元艦隊（旗艦：長門）高杉艦隊（旗艦：比叡）紺碧艦隊（旗艦：亀天号）と主力艦隊が参加し

そしてイギリス・東洋艦隊（旗艦：プリンス・オブ・ウェールズ）アメリカ・リーガン太平洋艦隊（旗艦：フィルモア）と後世の海外太平洋艦隊も参加する

まさに総力戦という形となった

敵の戦力自体はそうでもないが、赤城は違和感を覚えていた

赤城（この戦力……とても拠点を守る戦力にしては少なすぎる……）

赤城（B）（何か裏がある……？）

オペレーター「特生リーダーに空間の歪みを観測！でます！」

沼田「何!？」

そして次の瞬間

目の前には艦隊の姿があった

オペレーター「あれは……なんだ!？」

涌井「ハーケンクロイツ……ドイツの艦隊か！」

神聖欧州帝国

大地中海艦隊

第二機動部隊

旗艦 空母「スロベニア」

涌井「あれが艦隊……」

オペレーター「随伴艦艇すべて合わせて約30隻です！」

沼田「大艦隊で……だと？」

ソナー手「こちらソナー、潜水艦を探知！全部で10隻です！」

アンダーセン「潜水艦もいるのか……そしてUボート……」

ビスマルク「くっ……通りで見たことがあるわけね」

グラーフ・ツェッペリン「ああ……空母や潜水艦も多数いるようだな」

デビル2<<<空でも微弱ながらアンノウン検出！認識が弱い！ステルスか？>>>

ガラム2<<<おいおい、この時代にステルス機か？>>>

デビル1<<<あれがブレードーマウス……>>>

チョップパー<<<いくらなんでも無茶苦茶じゃねえか!?突然艦隊は現れるわ、ステルス

機は来るわ>>>

エッジ<<<一筋縄ではいかないみたいね>>>

ガルータ2<<ステルスは僕達がやる、クロウ隊は援護を頼む>>  
クロウ3<<了解です！>>

独艦隊司令「転移は成功したようだな、流石は総統閣下がお呼びした神の使いの力だ」  
独艦隊司令「全艦砲撃戦用意、日英米の艦隊を排除しろ」

デビル2<<独艦隊、砲撃開始しました！>>

高杉「各艦砲撃始め！」

坂元「撃ち方始め！」

青梅「ハーブーン発射用意よし！」

菊池「うちーかたはじめ！」

リーガン「各艦砲撃戦用意！」

海江田「Uポートが4か……まさか我々が交戦することになるとはな……」

溝口「敵深度600、速力18ノット！」

海江田「魚雷一番二番装填」

前原「……」

海江田「前原さん、どうしました？」

前原「いえ……なぜここに現れたのか」



前原「旭日艦隊の情報によれば、地中海に釘つけられていたと聞いている」

深町「どっかに隠れていた……というわけじゃなさそうだな」

海江田「今はともかく、敵に集中しましょう」

溝口「敵魚雷発射！水上艦に向かう！」

深町「ちっ、いきなりか！倍返しだ！魚雷をぶち込め！」

ソナー手「魚雷探知！「いぶき」に向かう！」

ソナー手「誘導魚雷と思われる！迎撃を！」

梅津「デコイ用意！」

菊池「デコイ投下します！」

—————

オペレーター「状況報告！」

「最上、後部甲板に被弾！」

「榛名、第三主砲被弾！」

「プリンス・オブ・ウェールズ、左舷前方被弾！浸水・火災発生！」

ビスマルク「ちっ！」

アークロイヤル「攻撃隊、アタック！」

「陸奥、第2倉庫に被弾・浸水！応急修理中！」

高杉「第3射、攻撃はじめ！」

「Z48、49、50、51を撃破！」

ブレイド3<<<FOX2、Fire！>>>

スピア4<<<FOX2！FOX2！>>>

ガラム2<<<相棒、レーダー照射を受けてるぞ！>>>

チョップパー<<<ブービー！ミ사일だ、回避しろ！>>>

ガルード2<<<ミ사일、レーダー照射！回避！>>>

ガルード1<<<……>>>

ガラム1<<<……>>>

ブレイズ<<<……>>>

デビル1<<<凄い、あの機動は……>>>

独航空隊<<<チツ！撃て！撃ち続けろ！>>>

独艦隊<<<まだ援軍が来る！我々は無敵だ！>>>

ガラム2<<<どういふことだ？>>>

オペレーター「空間の歪み、再び検出！先程より規模が大きい！」

黒木「敵艦の数は？」

オペレーター「レーダー探知！計50隻！深海棲艦・セイレーンも確認できます！」

涌井「物量戦と来たか……………あのドイツが…」

金剛「いくらなんでも数が多すぎるデース！」

霧島（B）「一体どうやって瞬間移動みたいなことをしているんだ?！」

霧島「……………もしかしてあの基地が関係しているのでは?！」

扶桑「あの基地?！」

山城（B）「なんかアンテナみたいなのがあるけど…」

霧島「私の勘に過ぎませんが、もしかするとその瞬間移動とアレは何かしら関係しているかもしれません」

三笠「一理あるな……………流石艦隊の頭脳だ。我には到底できん」

サウスダコタ「だがそこらへんには見えない防壁が張られていて、突破はそう容易ではないと見るが…」

三笠「なら一斉でアレを潰すしか無いようだ！砲撃用意！」

大和「第1、第2主砲徹甲弾装填！」

長門「主砲装填用意！」

金剛「装填準備よし！」

アイオワ「弾着観測、準備OK！」

サウスダコタ「風向きよし」

扶桑「距離よし！」

扶桑(B)「最終確認完了！」

菊池「トマホーク、発射準備！」

青梅「誘導スタンバイ完了！座標入力完了！」

「各イージス艦、トマホーク発射準備完了！」

「航空隊も爆弾・ミサイル発射準備完了！」

「戦艦ミズーリ、比叡、榛名、霧島などの各通常戦艦も準備完了！」

三笠「一斉攻撃、てっ！」

菊池「撃ち方始め！」

ガルーダ2<<<Fire!>>>

エッジ<<<FOX3!>>>

ブレイド3<<<FOX1、Fire!>>>

大和「ーてっ！」

長門「てええっ！」

アイオワ「Fire！」

山城(B)「いっけー！」

老兵「痛いのをぶっ食らわせてやれ！」  
ホッパー「Fire！」

長門「どうだ！」

霧島「……………!?!」

デビル2<<目標、未だ健在!>>

金剛「な、なんデスって!?!」

三笠「あれほどの火力でも駄目か……………!」

大和「次弾装填!急いで!」

ヲ級改flagship「サセルカ！」

ル級flagship「クラエツ！」

オペレーター「敵砲撃、加熱！」

オペレーター「さらに反応!艦船60隻、航空機20機です！」

チョッパー<<クソ!これじゃ数に押されて負けちまう!>>

ガラム2<<こつちに攻撃を誘い込んで時間を稼ぐしかない!>>

アーチャーくく稼ぐにしてもこの数じゃ!>>  
クロウ3くくクソ!ここで死ねるかよ!>>

??? 「撃てっ!」

その時、凄まじい砲撃が敵に降り注ぐ

長門型・大和型の砲撃すら霞む勢いのモノ…が

観測員「ああ!アウグスブルク、ケルンテルン、チューリンゲン、ボヘミアが!」

独艦隊参謀「空母が4隻とも一気に!」

独艦隊司令「なんだ!?一体何が起こっている!」

そこには

一つの戦艦が…いた

電探員「初弾着弾確認!」

大石「次弾装填!第一主砲はB型弾を、第二主砲は殲滅弾装填!」

日本海軍 英国救援艦隊 旭日艦隊

旗艦 戦艦「日本武尊」

司令長官 大石蔵良

赤城（B）「あれが……」

加賀（B）「この世界の大和……」

エンタープライズ「なんだあの大きさは……！」

大和「日本武尊の主砲は51cm……この火力が合わさるなら突破できるかもしれない！  
せん！」

エンタープライズ「だがあの大型戦艦、レーダーには一発でかかるはずだ！その気配  
すら見えなかった……」

長門「日本武尊は半潜水戦艦と聞いている、気付かれないように潜水してきたと考  
えるのが自然だ」

ホーネット「規格外も良いところじゃない！」

ヨークタウン「だけど、これで突破口を開けるわ……」

三笠「よし、態勢を立て直し次第砲撃開始！」

扶桑（B）「撃ち方はじめ！」

ウオースパイト「Fire！」

リシユリユー「Feu！」

「各艦、砲撃開始しました！」

ドンドンドンドンッ!

レ級「クソッ!」

ル級flagship「グアアアアアッ!」

吹雪「いつけええ!」

ラファイ「いくよ……!」

摩耶「対空、弹幕貼り続ける!」

球磨「行くクマああああ!」

瑞鶴「攻撃隊、さらに発艦急いで!」

瑞鶴(B)「突入ルート確保完了!」

赤城「私が先行します!」

翔鶴「続きます!」

加賀「赤城さん達の援護を」

加賀(B)「姉さま!」

赤城(B)「私達も援護します!」

ガルスム2<<<俺達もいくぞ、相棒!>>>

チョッパ<<<ブービー、そのまま突っ込め!>>>

エッジ<<<続きます!>>>



ヲ級改flagship「チツ！」

青梅「敵機急降下来ます！」

菊池「CIWS、AAWオート！」

「あすか」「みらい」「マステイン」「ジョン・フィン」「ロス」がトマホーク発射！」

「敵航空機D群、「アンテータム」「シャイロー」「デイフェンダー」「ダンカン」が撃破  
！」

「E群は一航戦・五航戦が60%撃破！残りはガルム隊・ウオードツグ隊が現在交戦中  
！」

ガルム2<<<FOX2！FOX2！>>>

エッジ<<<FOX3！FOX3！>>>

チョッパー「早く頼むぜ！」

大石「主砲、撃て！」

三笠「てーっ！」

アイオワ「撃てっ！」

高杉「撃ち方はじめ！」

坂元「砲撃はじめ！」

日本武尊などの各艦が大攻勢にかかる

レ級「!?」

コンダクター「しまった!?!」

そしてついにその装置を破壊する

前原「発射管扉開け!」

海江田「1番から4番まで魚雷装填!」

山中「1番から4番まで装填!」

深町「誘導距離は無制限!炸薬は通常の三倍はもつとけ!」

速水「んな無茶な……」

前原「雷撃開始!」

寺島「八式誘導魚雷、撃てっ!」

山中「紺碧艦隊が雷撃を開始しました!」

海江田「うむ、こちらも1番から4番発射!」

深町「全弾発射しろ!ぶちかませ!」

続いて敵主力艦に潜水艦が攻撃を仕掛ける

「米原潜の「ジミー・カーター」「ノースカロライナ」「ニューメキシコ」も雷撃を開始!」

「「カルフォルニア」「ワシントン」「モンタナ」はトマホーク・ハーブーンのミサイル攻

撃を開始!」

「英原潜の「タービュレント」「アートフル」仏原潜の「エムロード」「ペルル」も魚雷発射しました!」

「続いて艦娘「U-511」「ルイージ・トレツリ」も雷撃を開始!」

コンダクター「おのれ……おのれっ!」

空母・戦艦・重巡に潜水艦を対処する術はない

護衛の駆逐・軽巡・軽空はすべて他の敵の相手をせざるを得ない状況に持ち込まれている

コンダクター「くっ……ああああああああっ  
!!!!!!」

レ級「グオオオオオオオオオオオツ!」

勝敗は決した

デビル1<<<……よし!敵旗艦撃沈!>>>

デビル1<<<深海棲艦・セイレーンの残存艦は南方に撤退していきます!>>>

ガルム2<<<これで深海棲艦・セイレーンが日本方面に攻める確率は減ったか……>>>

>

アーチャー<<<残りの神聖欧州帝国の艦艇はどうするんですか?>>>

ガルム2<<<僕達の目的は殺戮というわけじゃない……投降してくれると良いん

だが……>>

観測員「し、司令！あの基地が破壊されたことによりこちらの転移も不可能です！」

参謀「このままでは我々は……」

独艦隊司令「くそっ……我々は見捨てられたのか……っ！」

デビル1<<敵艦、沈黙！投降する模様！>>

高杉「各艦、砲撃止め！」

前原「対水上戦闘止め！浮上！」

……

戦艦「日本武尊」艦内

大石「皆さん、お久しぶりです……とはじめましての方もいるようですね」

エンタープライズ「ああ……ユニオン所属……今は一応「つばめ」所属の空母「エンター

プライズ」だ」

三笠「戦艦三笠だ」

赤城（B）「一航戦、赤城ですわ……」

大石「ふむ……これが噂の艦船少女……艦娘とよく似ている……」

赤城（B）「よく言われますわ……」

三笠「我は厳密に言うとは艦娘であるがな」

大石「これだけ似ている存在が全く別の世界にある……奇跡と言えますな」

イラストリアス「何かしらの関係はあるんだと思いますが、情報が少なすぎてまだ手探りで……」

大石「ほう……」

赤城「そちらがたの戦況の状況はどうなっているんですか？」

大石「Uポートの掃討と深海棲艦・セイレーン相手に手一杯ですが、ドイツは今の所積極的に攻勢には出ていません」

大石「だがまさかこの海域に転移してくるとは……」

高杉「その転移してきた艦隊は鹵獲し、乗員は捕虜にしました」

高杉「現在は明石さん達と共同で中を調べている最中です」

大石「これでなにかわかると良いのだが……」

前原「私の勘が正しければ、あれには相当なモノが積んであると見ます」

大石「おお、前原さんも久しぶりですな」

前原「ええ……あの時転移した時以来です」

大石「前原さんも居るといふことは……ようやく作戦を実行できるということか」

前原「はい、」

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

明石「はあーっやっつと終わりました」

明石（B）「終わったにや」

夕張「かなり動いたわね、久しぶりに」

夕張（B）「いろいろと面白かった……」

エンタープライズ「どうだったんだ？」

明石「ええつと、こんな機械がごろごろありました」

長門「写真か……」

扶桑「大きいわね」

明石（B）「現物は今詳しく解析中にや」

明石「そしてビスマルクさんたちにドイツ語を読んでもらってわかったのですが、これが転移装置の端末であることがわかりました」

明石（B）「そしてその転移装置の親機のようなものが基地の残骸から発見されたにや……」

明石「転移はどうやらネットワーク化されているようで、基地から基地に移動できるようになっていたらしいです」

加賀（B）「なって「いた」……？」

明石「本来ならかなりのネットワークを構成する予定が、旭日艦隊により基地が制圧

されたりして、一部の基地にしか配備されなかったようで」

明石「基地から基地同士の移動しか使用できない以上、行き先の基地がなければ使い物にはなりませんからね」

明石「セイレーンが全面協力しているにすればいいぶん中途半端です。セイレーンは自由自在に転移が可能なのに……」

赤城（B）「それは多分、セイレーンの技術を人間が扱いきれてないからよ」

加賀（B）「我々重桜もセイレーンの技術はかなり持て余していたからな……」

霧島「もしかしてその転移技術……私達が帰れるものに利用できるかもしれないですね……」

明石「だと良いんですけどね……今は後世世界の技術者達と共同で解析中で……」

夕張「後世世界の技術関係はかなり進んで、一部は私達のも凌駕する勢いなんだけど……」

夕張「それでもかなりブラックボックスが多くて……まだまだ時間がかかりそう……」

金剛「一筋縄ではいかないみたいデス……」

明石（B）「そういえば三笠さんはにや？」

長門「三笠さんは甲板に出ている、少し風に当たりたいそうだ」

明石（B）「ならいいにや……」

・・・・・

三笠「……………」

大和「……ここに居たんですね」

三笠「……大和か」

大和「まさか私達の大先輩とこんな形で会えるとは思いませんでした……」

三笠「ああ……我もまさか大型戦艦の後輩と会えるとは……」

大和「私は三笠さんが行方不明になってから建造された艦娘ですからね」

三笠「我が居ない間は連合艦隊の旗艦を？」

大和「ええ、長門と交代交代で旗艦を担当します」

大和「一時期は私もトラック諸島で静養して、長門も戦列には居なかつたので総旗艦

は常設じゃありませんでした……」

三笠「……何があつたんだ？」

大和「……ある作戦の時、私はかなりの無茶をしたんです」

大和「長門をかばって……結果私があと一撃で轟沈するほどまでに……」

大和「長門は当時私が大破したのを「自分のせいだ」とかなり自分を責めていたみた

いで……」



大和「あれ以降、秘書艦業務のみを行って、戦列には出てなかったんです」

大和「だけどM1作戦の時に」

大和「あの「大東亜戦争」の時のようにもう仲間を減らしたくない……！」と決意して戦列に復帰したんです」

三笠「……なるほど」

三笠「だが聞く限り、大和は当時の提督からは「決戦兵器」として期待され、温存されてきたというのも聞く」

大和「確かに私は他の方より資源を使います、ですが現行のミサイル駆逐艦・原子力空母に比べれば微々たるもの」

大和「あの時と違って、資源状況自体は問題はなかったから……作戦に参加しなかったのは……」

三笠「……「悩み」……か？」

大和「……はい、大破した傷自体は高速修復材ですぐに治りましたが……「この戦いに終わりはあるのか」「私が動いても変わらないんじゃないか」と悩んで……」

大和「そして提督から休んだほうがいいと、表向きにはそういう形にして……」

大和「ですが今はわかります……」「この戦いの終わりを待つんじゃない、終わらせるんだ」と」

大和「そして……今の戦い……私達の世界、艦船少女の世界、後世の世界」

大和「この戦いの謎も解かないといけない……私はそう考えています」

三笠「……そうか」

大和「……それだけです、私は艦内に戻りますから……」

三笠「ああ……」

三笠「……」

三笠（私が捕らえられた時……一体何があったのか……）

三笠（……）

???「あら……こんなところにいるのねえ……」

三笠「誰だ！」

テスターα「ふふふ……」

三笠「くっ！ 艦装展開！……ーてっ！」

テスターα「無駄よ……」

スカッ

三笠「なに!？」

テスターα「あなたの前にいるのは私の幻……いくら撃つても当たりはしないわ」

三笠「何をしに来た！」

テスターα「私はただあなた達を監視しに来ただけ……だけど艦娘と艦船少女……これほどまでに強いとは流石に驚きましたわ」

テスターα「次会った時は捕らえると言ったけど……まだ捕らえるには惜しいわね……」

三笠「元からお前たちに屈するつもりはない！」

テスターα「その威勢がどこまで続くか……楽しみね……」

テスターα「まだ出来上がりきれてないのはちよつと惜しいけど……まあいい」

テスターα「これからもどんどん私達を倒していきなさい……」

テスターα「もつとも、私達を殲滅するのは到底無理だろうけど……」

シユンツ

三笠「……消えた……か」

大和「三笠さん！」

長門「大丈夫か!？」

赤城(B)「今のは……一体……」

三笠「……」

つづく



出撃艦艇

艦娘・艦船少女

軽巡「神通」「夕張」「川内」「球磨」「夕張(B)」

駆逐「吹雪」「夕立」「睦月」「如月」「時雨」「陽炎」「不知火(B)」「神風」「吹雪(B)」「夕立(B)」「時雨(B)」「睦月(B)」「如月(B)」「ラファイ」

自衛艦隊

護衛艦「みらい」「ちようかい」「さぎなみ」「さみだれ」

潜水艦「けんりゆう」「たつなみ」「ずいりゆう」

独立国家やまと

潜水艦「シーバット(やまと)」

MATO艦隊

駆逐艦「ジョン・ポール・ジョーンズ」「ステザム」「ベンフォールド」「マクキャンベル」「スプルーアンス」「デューイ」「マステイン」「ジョン・フィン」

潜水艦「ジミー・カーター」「ノースカロライナ」「ニューメキシコ」「カルフォルニア」

後世艦隊

潜水艦「亀天号」「伊501」「伊502」

水上において指揮するのは「つばめ」副司令の沼田徳治海将補が「みらい」に乗艦し

務め、潜水艦隊の司令は紺碧艦隊の司令長官である前原一征少将が「亀天号」にて務める

神通「各艦、単横陣を取ってください！」

メイル2<<<こちら「ちようかい」所属対潜ヘリ、コールサイン「メイル2」>>>

メイル2<<<各機、発艦完了！随時、デイツピング・ソナーを投下します！>>>

球磨「情報によればここにいるクマー」

川内「はあ……夜戦したい……」

神通「姉さん、きちんと潜水艦探知してくださいね？」

川内「ふああああい」

夕張「ソナー良好、爆雷投射機問題なし！」

夕張（B）「徹夜で対潜装備を整備した甲斐があつたな……ふあああつ」

メイル3<<<こちら「さぎなみ」所属メイル3！敵潜水艦を探知した！機影から見て

Uポートだと思われませう！>>>

ソナー員「たつなみ」「やまと」なども魚雷発射管扉を開放した模様！」

沼田「そちらの相手は潜水艦達に任せる！」

潜水艦「たつなみ」

速水「発射管扉開放しましたが、本当にやるんですか!？」

深町「当たり前だ! 1番、2番に89式装填! データは前方のU3100型にイン  
プット! 距離無制限!」

南波「艦長! あちらも気づいたようです! 艦首をこちらに!」

深町「いまさら遅い! 魚雷発射!」

メイル3<<<「けんりゆう」「たつなみ」「やまと」「亀天号」「トラファルガー」魚雷  
発射!>>>

メイル3<<<弾着……今!>>>

メイル3<<<破砕音観測! ……: Uポート4隻撃沈! 続いてその後方よりUポート  
6隻!>>>

沼田「そちらの相手は潜水艦に任せる!」

メイル4<<<こちら「さみだれ」所属メイル4! 別方位に潜水艦探知! こちらもU  
ポートです! 計8!>>>

沼田「我々はこちらの目標に対処だ、対潜戦闘用意!」

沼田「対潜ヘリは目標地点に対潜魚雷発射せよ!」

メイル5<<<了解!>>>

ドラゴ2<<<目標確認！投下！>>>  
各SH-60K、SH-60Bの対潜ヘリコプターが対潜魚雷を発射する

メイル2<<<魚雷は計10本！>>>

メイル3<<<…魚雷3本命中！残りは命中せず！>>>

メイル4<<<Uポート魚雷発射！計8本！>>>

沼田「各艦、回避行動！」

梅津「回避行動急げ！」

角松「とおおりかあじ！」

メイル4<<<一部の敵魚雷、方向転換！誘導魚雷です！>>>

沼田「「ふゆづき」はジャマー投下！そして続いて各艦はデコイも投下せよ！」

沼田「そして魚雷を回避次第、アスロック発射を！」

米倉「アスロック用意！」

自衛隊・アメリカ軍の各艦艇の対潜能力を最大限までフル活用して、Uポートを迎撃している

それができるのは、もちろん各艦の乗員の練度もそうだが、今まで数多くの実戦に参加し、数々の戦いを見てきた沼田司令だからこそと言える。



プレス3<<<こちら「アンティータム」所属、プレス3！方位409より深海棲艦・セイレーンのもものらしき潜水艦探知！>>>

球磨「やつと出番クマー！」

神通「敵の座標は？」

プレス3<<<反応多数のため、座標データをそちらに送ります！>>>

夕張「情報確認……なるほどね……」

夕張（B）「うじゃうじゃいるぞ……」

神通「爆雷投下用意！」

神通「てーっ!!」

艦娘・艦船少女水雷戦隊より爆雷が次々投下され

カ級elite「グオオオツ！」

ヨ級「グアアアッ！」

ソ級「ゴオオオオツ！」

次々と撃破されていく

プレス3<<<深海棲艦潜水艦、10隻撃破！>>>

プレス4<<<「亀天号」がUポート2隻撃沈！>>>

米倉「よし、これなら……いけます！」

沼田「……」

沼田（まるで小手調べのような手勢だ…）

沼田（何か仕組みられている…？）

その時……

プレス5<<<魚雷数10！こちらに向かう！>>>

菊池「なに!？」

沼田「各艦回避行動！」

梅津「とおおおりかああじ！」

角松「ようそろー！」

なんとか全艦回避する

沼田「魚雷の発射位置は!？」

プレス3<<<あれは……なんだ!?!>>>

「キャハッ！キャハハハハハッ！」

「キャハハッ！キャハハハハハハッ！」

沼田「あれは……深海棲艦の魚雷艇!？」

梅津「Patrol Torpedo boat……PT……か」

P T 「キャハハッ！キャハハハハッ！」

吹雪 「あれって…」

川内 「すばしっこいで有名のP Tじゃない!？」

沼田 「各艦、目標を魚雷艇に絞れ！」

菊池 「ハーブーン、発射用意よし！撃ち方始め!!」

P T 「ハハハハッ！ハハハッ！」

神通 「各艦対潜用具収め！対水上戦闘用意！目標魚雷艇群！」

夕張 「ーてっ！」

艦娘達も攻撃を開始する

P T 「キャハハハハハッ！」

球磨 「全然当たらないクマー！」

吹雪 「くっ！」

スカツスカツ

P T 「キャハッキャハハハハッ！」

マイル4<<<亀天号以下、潜水艦隊も魚雷発射！>>>

P T 「キャハハハハッ！」

マイル5<<<クソ！命中せず！>>>

神通「くっ！」

夕張（B）「こちらの手勢じゃこの数は厳しいとみるぞ！」

川内「装備も対潜のほうに傾けてたのが仇になったみたいね……」

球磨「なんとかしないとクマー！」

神通「なんとしても……機銃てーっ！」

明石<<お困りのようですね>>

吹雪「な、なんですか!？」

明石<<いえ、ちょっと秘密兵器をそちらに送っただけですよ♪>>

神通「秘密兵器？」

ラフィー「なにそれ……」

睦月（B）「？」

明石（B）<<さあ皆さん、出番にやー!>>

妖精<<オー!>>

そこに現れたものは……

吹雪（B）「あれって……」

夕立「陸攻っぽい!？」

一式陸上攻撃機、九六式陸上攻撃機及び護衛の一式戦闘機「隼」が上空に到着する

神通「だけどただの陸攻じゃ…」

明石<<<ただの陸攻じゃありませんよ、なんとこれにはすっごいのがあるんです!>>

>

明石(B)<<<発射にや!>>>

妖精<<<ファイアー!>>>

ヒュンヒュンヒュンツ

球磨「クマ!?!」

川内「あれって…:」

陽炎(B)「…噴進弾じゃと!?!」

P T「キャハツ!?!」

一瞬で粉微塵になるP T達

陽炎「変な花火ね…:」

メイル3<<<目標、完全に沈黙!>>>

メイル4<<<周辺海域にストレンジャーなし!>>>

吹雪「え…:え?」

睦月「す、すごい…:」

如月「一瞬ね…:」

如月（B）「一瞬……」

睦月（B）「ええええ!？」

明石「いやー、ギリギリ基地航空隊の設営間に合ってよかったです!」

神通「どうしてPTが来るってわかったの?」

大石「地中海に展開中の艦隊から連絡が入ってな、深海棲艦の魚雷艇を取り逃がしたと」

大石「こちらの艦隊をスエズから出しても間に合わない判断し、明石さんに協力を頼み、なんとかエジプトの基地内で基地航空隊の設営をしたのだ」

明石「緊急設営セットを作っておいてよかったです!」

神通「迅速な対応、ありがとうございます」

明石「ふふふ……まだまだがんばりますよー!」

大石「……だが、これは序の口と言わざるをえない」

大石「掃討はしたとは言え、まだ潜んでいる可能性もある」

涌井「ああ……これで深海棲艦とセイレーンも我々が欧州に来たとわかってしまったからな」

涌井「連中もバカではない、どこかで奇襲する可能性もある」  
涌井「各艦の警戒態勢は維持だ」

「艦これ」世界

横須賀鎮守府

武蔵「大和達と「つばめ」艦隊、そしてNATO共同部隊が失踪して一週間か……」

陸奥「まだ搜索は続けてるけど、残骸すら残っていないって……」

比叡「まるで神隠しにあったような感じですね……」

武蔵「うむ……最悪の場合……もしかすると深海棲艦に……」

陸奥「長門達がそう簡単にやられるはずがないわ！」

武蔵「あくまでも最悪の場合だ、それ以外にも色々考えることはできる」

陸奥「だけど……」

榛名「……姉さまと霧島、大丈夫なのでしょうか……？」

比叡「姉さま……霧島……」

伊勢「扶桑達も大丈夫なのかな……？」

日向「……」

ビーツビーツ！

陸奥 「なに？」

「警報！警報！深海棲艦と思われる艦隊の領海接近を確認！」

「臨時第1艦隊及び臨時第1航空戦隊、臨時第4水雷戦隊は出撃せよ！」

武蔵 「出撃だ、いくぞー！」

陸奥 「ええ……」

陸奥 （長門……）

つづく



## 第14話 帰りを待つ者

テスターα「さて……ちよつと遊ぼうかしら……」

ヲ級flagship「……」

テスターα「深海棲艦、道案内頼むわね……」

ヲ級flagship「……」

### 出撃部隊

戦艦「武蔵」「陸奥」「比叡」「榛名」

航空戦艦「伊勢」「日向」

空母「大鳳」「雲龍」「天城」「葛城」

重巡「妙高」「那智」「利根」「筑摩」

軽巡「那珂」

駆逐「弥生」「白雪」「朝潮」「雪風」「島風」

いぶき型航空母艦「あまぎ」

ほうしょう型航空母艦「ほうしょう」

いずも型ヘリコプター搭載護衛艦「いずも」

こんごう型ミサイル護衛艦「こんごう」

ゆきなみ型ヘリコプター搭載護衛艦「はるか」

まや型ミサイル護衛艦「まや」

むらさめ型汎用護衛艦「あけぼの」「ありあけ」「きりさめ」

たかなみ型汎用護衛艦「おおなみ」

あさひ型汎用護衛艦「あさひ」

第6航空団（小松）

第306飛行隊 F-15J/DJ

第93空母航空団（百里）

第403飛行隊 F-3B

第404飛行隊 F-35B

国連軍

第156戦術戦闘航空団第190航空隊 アクイラ（Su-37）

太平洋海域

A-3地点

陸奥「状況は？」

イーグルアイ<<<深海棲艦の艦隊の接近を確認した>>

イーグルアイ<<<戦艦3、空母4、重巡4、軽巡4、駆逐5、輸送3、未確認2！>>

>

陸奥「未確認？」

イーグルアイ<<<新型の人型深海棲艦のようだ、照会してみたがどの人型にも該当が  
しなかった>>>

那智「新型か…」

妙高「新型でも変わりません、落ち着いて対処しましょう」

イーグルアイ<<<航空隊は黄色中隊を中心として敵航空隊を撃墜せよ！>>>

イエロー4<<<了解>>>

イエロー13<<<…リボン付きは？>>>

イーグルアイ<<<まだ見つかっていない、今は捜索中だ…>

イエロー13<<<…そうか>>>

陸奥（自衛隊の統合任務部隊とNATOの統合部隊が一斉に行方不明…）

陸奥（そして両方が失踪したと思われる海域では突発的な大嵐…一体何が…）

武蔵「陸奥…今は考えるのは後だ」

陸奥「…ええ」

イーグルアイ<<<敵艦隊捕捉!>>>

ヲ級flagship「……」

比叡「あれは……」

テスターα「あれが艦娘……「本体」の言う通り……さつさとお開きにしましょう……」

テスターα「発射!」

ル級elite「……ウテ!」

イーグルアイ<<<あれは…なんだ?>>>

イエロー13<<<他の深海棲艦とは違うようだな……まるでどこか海の美しき怪物

…>>>

イエロー4<<<「セイレーン」……この言葉が似合いますね>>>

大鳳「あれが新型……」

イーグルアイ<<<新型とは言え、深海棲艦にかわりはない!撃破せよ!>>>

葛城「了解!瑞鶴先輩が居ない分、頑張らないと……!」

葛城(そして無事に帰ってくるまで……私達が持たせないと!)

雲龍「第一次、用意!」

大鳳「行きます!第六〇一航空隊、発艦初め!」

武蔵「各艦、全砲門、砲撃用意！」

榛名「装填完了！」

武蔵「てーっ！」

イエロー13<<<イエロー13、エンゲージ！>>>

イエロー4<<<イエロー4、エンゲージ>>>

トレイン9<<<トレイン9、エンゲージ！>>>

ホース3<<<ホース3、エンゲージ！>>>

ドム2<<<ドム2、エンゲージ！>>>

イエロー13<<<各機、散開…いくぞ>>>

イエロー4<<<了解>>>

海戦と空戦の火蓋が切って落とされる…

利根「いくのじゃー！」

ツ級「グアアアアアッ！」

特に難もなく深海棲艦は倒れていく…が

テストα「なるほどね…」

後ろの「ソレ」は未だに倒れない

武蔵「どうやら新型はそう簡単に倒れてくれないようだな」

榛名「ヲ級もみたいです」

ヲ級 flagship「……」

テスターα「……来い」

イーグルアイ<<<敵の新たな反応を捕捉!>>>

イーグルアイ<<<これも新型だ! UNKNOWNだ!>>>

テスターα「Pawn、Rook、Queen…いけ」

比叡「主砲発射、二番続いて!」

雲龍「第二次攻撃隊、全機発艦!」

葛城「全部回せ!」

大鳳「行きます!」

朝潮「敵艦確認!撃て!」

イーグルアイ<<<「はるか」「まや」「こんごう」「ありあけ」「きりさめ」よりSSM

発射!>>>

イーグルアイ<<<続いて「おおなみ」「あさひ」「あけぼの」よりSSM発射!>>>

ドム4<<<FOX1、Fire!>>>

ドラグーン5<<<FOX1、Fire!>>>

イエロー6<<<FOX3!FOX3!>>>

テスターα「……なるほどね」

召喚された艦船も難なく撃破していく  
だが……

イーグルアイくくなぜだ!?あの人型には攻撃が……>>

朝潮「あつちから手を出してる感じじゃないです、ただ見てるだけの気がします」

雪風「魚雷も交わしたみたいですよ！」

武蔵「なら……接近戦で！」

榛名「了解です！」

比叡「任せてください！」

陸奥「いくわよ！」

大鳳「援護行きます！」

妙高「私達も！」

「「はああああああああああっ!!」「」

武蔵「撃ちまくれ!!!」

武蔵（接近して近距離での射撃なら……!）

戦艦4、重巡4の超近距離攻撃

普通なら粉微塵になるほどの威力である

「普通」なら

テスターα「ほう……よくわかったわ……」

武蔵「なに!？」

筑摩「攻撃が効いて……いや、まさか……!」

テスターα「あら、よくわかったわね……」

陸奥「ホログラム!？」

足柄「実体がないですって!？」

テスターα「今回はちよつとしたお遊び……だけど、あそこに来た「艦娘」達にそつくりな子もいるわね……」

陸奥「……!」

武蔵「まさか、お前たちが大和や他の皆を……!」

テスターα「どうかしらね……」「それ」は想定外だったから」

テスターα「混ざらない黒と白が合わさる……面白いじゃない」

テスターα「わざわざこの世界まで監視して「艦船少女」を作ったかいたってよかつたわ……」

陸奥「艦船少女?」

テスターα「ではまた会いましょう……次が来ればだけ……」



武蔵「待て！……消えたか……」

比叡「一体どういうことなんでしよう……？」

武蔵「わからん……今は帰投したほうが良いな」

武蔵「だが、大和達の失踪には……あれが関わってるかもしれないな」

榛名「……」

陸奥（長門……）

比叡（姉さま……霧島……）

雪風「……ん？」

ガサゴソ

島風「どうしたの？雪風」

雪風「いえ、なんかキラキラしてるものをいっばい拾いました！」

陸奥「なにこれ……小さくて……四角いわね……」

武蔵「ゴミ……ではないだろうな」

陸奥「あの深海棲艦の艦隊には輸送艦もいたから、そこからかしら？」

筑摩「とりあえず、持って帰って技研のほうに回せばなにかわかるかも知れませんね」

武蔵「片っ端から拾っておくか……この量はドラム缶がいるな……」

ヲ級改flagship「……………」

雪風「ん？」

那珂「ん？どうしたの？」

雪風「いえ…………大丈夫です！」

那珂「ならいいんだけど……………」

ヲ級改flagship「……………」

「タノンダ…ゾ……………」

後世世界

輸送艦「みうら」

長門「はーくしょん!!」

吹雪「だ、大丈夫ですか!？」

長門 「いや、大丈夫だ……誰かが私の噂をしたのかもしれんな」

長門 「陸奥とかがな」

吹雪 「陸奥さん……」

長門 「……心配しているだろうな……」

長門 「早く帰らねばな……あちらの世界も心配だ」

吹雪 「そう……ですね……」

長門 「……」

続く

## 第15話 突破せよ

後世世界

ジブラルタル海峡

イギリス領 ジブラルタル

原「大石長官、お待ちしております」

原元辰

海軍中将

旭日艦隊参謀長

前世からの転生者の一人である

大石「どうだ？敵の様子は？」

原「現在は膠着状態で、たまにUポートが通商破壊作戦を行っている模様です」

原「ですがイギリス海峡フランス側ではドイツ及びセイレーン・深海棲艦が」

原「北海の方でも多数の艦艇などが集結しつつあるとのこと」

原「ドーバー海峡付近ではさらに大多数の艦隊などが集結しつつあります」

大石「東の壁と北の壁か……中央にはさらに大艦隊……」

原「国内のスパイからの情報によると、ハインリッヒ・フォン・ヒトラー皇帝が観艦式を行うという情報も入りました」

ビスマルク「ハインリッヒ？」

グラーフ・ツェッペリン「つまりそれが後世での総統か」

原「はい」

ビスマルク「……………」

エンタープライズ「ん？なんだ、急に考え込んで」

ビスマルク「いえ……………後世でも過ちを再び繰り返すなんてね……………」

プリンツ・オイゲン「あの時よりさらにタチが悪くなってる気がする……………」

ローマ「全くね……………この世界のイタリヤはとつくのとうにドイツに支配されてるみたいだけど」

ヨークタウン「これだけ戦線が拡大してるのに、崩壊する予兆すらないなんて……………」

ホーネット「それだけ独裁が上手く行ってるってこと？」

長門「このままだと間違いなくこの世界はセイレーン・深海棲艦により破滅することになるだろうな……………」

霧島「……………順当に行けば北海方面とイギリス海峡フランス方面からの挟み撃ちが一番良いと思いますが……………」

涌井「だがそれで戦力を分担させると片方が脆くなる可能性もある…いや両方が脆くなるか」

沼田「黒木特佐はこの状況どう思う？」

黒木「…私は艦隊戦に関しては素人なので基本は司令方に任せるしかないですが…」

黒木「特殊生物相手とすれば…真ん中を叩く必要があります」

沼田「真ん中…ドーバー海峡か」

涌井「イギリス本土方面から攻めるということか？」

黒木「いや、それだと相手に気づかれます」

黒木「敵もそれを見越して対抗策は講じているはずです」

涌井「ならどうするか…あてはあるのかね？」

黒木「……あります」

涌井「…ほう」

「みくら」

明石の工廠

明石「ええつと……これをこうして…こうこう…」

ピピピッ

明石「よし、とりあえず形にはなったわね…」

明石（B）「にや…」

吹雪（B）「へー…」

吹雪「ん？どうしたんですか？」

明石「瞬間移動装置がやっと完成したので…」

吹雪「大きいコンピューターみたいですね…これを一艦ずつに置くんですか？」

明石「いえ、流石にそれはスペースを取るのです。そこは後世の方々の知識を元にきちんと改良して…」

明石「この小型端末を各艦に置けば、瞬間移動ができるようになります！」

明石「ちなみに後世のドイツは基地と基地の間を瞬間移動することしかできませんでしたが、これではなんと」

明石「地図で指定さえすればどこへでもいけるんです！」

吹雪「そ、そこまでどうして…」

明石「大石司令長官経由で紺碧会の技術者を呼んでもらったら、その技術者の中にはなんと23世紀・24世紀とかの未来から転生した人も居たんです」

明石（B）「その人たちに任せてみると…こうなったにや…」

明石「まあ流石に別の世界へGO！は出来ない代物になってしまいましたけどね

……」

吹雪 (B) 「どうしてですか？」

明石 「まだエネルギーが足りないんです……」

吹雪 「エネルギー？」

明石 「はい……この機械に使うエネルギーは今ではスーパーX2のレーザー核融合炉で代用していますが」

明石 「それでもエネルギーは3分の1しか満たされてないんです……」

明石 (B) 「だからせいぜいこの世界を自由自在に転移するしかできないにや……」

吹雪 (B) 「なあんだ……まだ元の世界には帰れないみたいだね……」

吹雪 (そう簡単に帰れるわけがないか……)

明石 「なにか夢の超エネルギーでもあればいいんですけどね……」

明石 (B) 「あてはあるにはあるにや……だけど今は絶対に手に入らないものにや……」

吹雪 「手に入らないもの？」

明石 (B) 「艦船少女の「リユウコツ」を構成するための素のメンタルキューブにや」

明石 「話を聞く限り、莫大なエネルギーをあの小さいキューブ一個にかなり内蔵しているらしいんです」

明石 (B) 「核融合炉の数倍どころじゃないにや……理論上じゃ数十倍や数百倍になる



にや」

明石「もちろん、すべてのエネルギーを取り出すには数兆円や数京円もかかるらしいんですが…」

明石「そんなことやつてたら間違いなく国は傾くほどの出来事になります」

吹雪(B)「け、けい…?」

吹雪「つまりほとんど無理ってことじゃ…」

明石「いえいえ、何もこの転移装置のためにすべてのエネルギーを取り出さなくても良いんです」

明石「メンタルキューブのエネルギーをちよつとだけ引き出したとしてもこの装置をフル稼働させる分には足りるんです」

明石(B)「その理論はもう出来上がってて明石達の頭の中にあるのにや…:」

明石「で問題が…」

吹雪「そのメンタルキューブの実物がないってことですか?」

吹雪(B)「うーん、メンタルキューブは私達でも触ることなんてなかったからなあ…:」

吹雪(B)「国家機密とか言って研究者と一部の将校の指揮官にしかメンタルキューブには関われなかったし…」

明石(B)「メンタルキューブの素の素もそもそも不明にや……突然出来たようなもの  
としか聞いてないにやし……」

明石「うーん、どっかから降ってきたら良いんですけどね」

明石(B)「そんな虫がいい話あるわけないにや……」

明石「ですよね……」

明石(B)「にやし……」

雨沢「明石さん達、ちよつときてください、黒木特佐が呼んでます」

明石「おつと呼ばれがかかった……」

明石(B)「ちよつと失礼するにやー」

吹雪「私達はどうします?」

吹雪(B)「うーん……お腹空いたから食堂行きたいなあ……」

吹雪「じゃあ行こっ?」

吹雪(B)「うん!」

---

ドイツ

ベルリン

皇帝府

ヒトラー「……」

ハインリッヒ・フォン・ヒトラー

神聖欧州帝国 皇帝

前世とは違い、霊能力を持ち

その能力で数々の暗殺・攻撃などを察知し事前に回避していたとされる

ゲッベルス「こ、皇帝閣下！」

ヨアヒム・ペーター・ゲッベルス

神聖欧州帝国 宣伝相

ヒトラー「…汝の式を邪魔する艦隊が2つ…」

ヒトラー「艦船少女…艦娘もいる…」

ヒトラー「……ゲッベルス、これを阻止しろ」

ゲッベルス「はっ！」

フランス川

ドーバー海峡付近

連絡員「報告！北海及びケルト海にて日・米・英の艦隊と戦闘態勢に入ったとのこと

！」

マイントイフェル「やはり……皇帝閣下の言うとおりが……」  
ワルター・G・F・マイントイフェル

神聖欧州帝国 参謀総長

「新貴族」の一人

連絡員「艦娘・艦船少女も確認できたとのことです！現在セイレーン・深海棲艦が交戦中です！」

参謀「……観艦式はどうするおつもりで？」

マイントイフェル「予定通りに行く。皇帝閣下には鼠が入り込みそうになったがすぐに始末すると伝えろ」

参謀「はっ！」

連絡員「ちなみに日本武尊は現在ジブラルタルに留まったままとのことです！」

マイントイフェル「……恐れをなして逃げたのか？」

連絡員「わかりません！一部の戦艦もジブラルタルに留まったままとの報告もありま  
す！」

マイントイフェル「……………」

マイントイフェル（不気味だ……何もしてこない……だと？）

マイントイフェル「畏か……それとも恐れをなして……か？」

マイントイフェル「まあいい、どちらにしる空は空軍が制空権を握り、水上は艦船、水中はUボートだ」

マイントイフェル「もし今から来たとしても十分阻止は可能だ」

ヒトラー「我らアーリア人こそ世界の覇権を握るべき選ばれし民族なのだ！」

ヒトラー「その証拠に神の使いも我々の味方についた！」

テスターα「……」

ピュリフアイアー「……」

オブサーバー「……」

ヒトラー「我々を阻む敵は日本、アメリカ、イギリスのみとなった！」

ヒトラー「今こそ我らの力を一つにし、すべての敵を排除し、世界を統一しようではないか！」

「ハイル・ヒトラー！ハイル・ヒトラー！」

ピカッ

ヒトラー「ん!？」

マイントイフェル「な、なんだ！照明弾か!？」

参謀「わかりません！これは……!？」

マイントイフェル「くっ……！光が……！」

ヒトラー「……なんだこれは……！」

ヒトラー（我の予知を超えている……だと!?!）

マイントイフェル「……あれは……！」

マイントイフェル「日本武尊……!?!」

後世艦隊

戦艦「日本武尊」「比叡」「霧島」「長門」「陸奥」

重巡「妙高」「那智」「足柄」

潜水艦「亀天号」「伊501」「伊502」

「つばめ」・NATO艦隊

戦艦「ミズーリ」

潜水艦「やまと」「たつなみ」

艦娘・艦船少女

戦艦「三笠」「大和」「長門」「霧島」「ビスマルク」

航戦「扶桑」「山城」「扶桑(B)」「山城(B)」

空母「グラーフ・ツェツペリン」「エンタープライズ」「ホーネット」「ヨークタウン」

重巡「プリンツ・オイゲン」「摩耶」「摩耶(B)」

駆逐「吹雪」「夕立」「時雨」「夕立(B)」「時雨(B)」「Z1」「Z3」

原「転移成功です」

大石「うむ、順次攻撃初め！」

高杉「各艦砲撃初め!!」

三笠「目標ドイツ・セイレーン・深海棲艦混成部隊！」

大和「撃ち方初め!!」

長門「てーっ！」

ビスマルク「Feuer! Feuer!」

老兵「痛いのをぶっ食らわせてやれ!!」

グラーフ・ツェツペリン「攻撃隊、出撃! V o r w ・ r t s !」

エンタープライズ「いくぞ! 攻撃隊発艦！」

観艦式陣形の神聖欧州帝国艦は次々と被弾する

そしてセイレーン・深海棲艦はなんとか攻撃態勢に入り、艦娘・艦船少女に反撃を開

始する

ル級flagship「テツ！」

レ級「ウテツ！」

ピュリーファイアー「発射！」

霧島「てーっ！」

マイントイフェル「一体…なんだ！」

艦長「反撃だ！反撃をしろ!!」

海兵「こんな密集陣形じゃ味方まで被弾します！」

大石「第二射、撃て！」

観艦式の密集陣形で次々と誘爆していく……

前原「魚雷発射用意！」

入江「発射管扉開け！」

海江田「魚雷発射用意、敵の戦闘能力を完全に奪え！」

深町「魚雷発射用意！全門ぶちまけろ！どう撃ってたって当たるが、外すんじゃないぞ!!」

速水「いつでもいけます！」

深町「魚雷発射！」

海江田「魚雷全門発射！」



前原「攻撃初め！」

「ぐああああああああつ！」

「く、空母と戦艦が雷撃で！」

「消火作業急げ！」

マイントイフェル「空軍はどうした！今すぐスクランブルさせろ！」

参謀「はっ！」

マイントイフェル（いくら戦艦でも、制空権さえ取られれば……！）

電探員「敵航空機群接近！戦闘機・攻撃機多数！」

大石「やはり来たようだな……だが……」

ガラム2<<ガラム2、エンゲージ！>>

エッジ<<エッジ、エンゲージ！>>

メビウス8<<メビウス8、エンゲージ>>

妖精<<オーツ！>>

マイントイフェル「なっ!？」

連絡員「イギリス方面より航空機多数接近！」

マイントイフェル「なに!?!すでにイギリスの制空権は取り終えたはずだ！」

連絡員「それが：アイルランドより離陸した日本側の航空機群に全機撃墜された模様です！」

マイントイフェル「なに!？」

ゲツベルス「お逃げください！皇帝閣下！」

ヒトラー「う、うむ……！」

チョッパーク<<久しぶりに暴れてやるぜ！いけ！ブービー！>>

アーチャー<<チョッパー大尉も働いてください！FOX3！FOX3！>>

チョッパーク<<わーってる！FOX2！>>

独軍パイロット<<な、なんだあれは?!>>

エッジ<<FOX1！>>

独軍パイロット<<主翼が……！お、おちるっ！>>ビービービーツ

大石「よし、露払いは完了した」

大石「残りは「海の乙女」達だけだ」

長門「全門、撃ちまくれ！」

オプザーバー「……ここまでとは……面白」

テスターα「流石は艦娘、艦船少女もそれにつられてここまで強くなるとは……」

エンタープライズ「何を笑っている！」

オブザーバー「なら……これは止めれるか？」カチツ

ホーネット「!？」

ヨークタウン「光が……集まって……」

オブザーバー「……撃て」

・ ・ ・ ・ ・

長門「い、今のは……」

エンタープライズ「レーザービーム……だど!？」

チョップパー<<<今のは……おい!落ちたやつは居ねえか!>>>

ガラム2<<<ガラム隊、問題なしだ>>>

アーチャー<<<隊長とナガセ大尉も大丈夫みたいですな……>>>

エッジくくええ、なんとか>>

メビウス2くくメビウス隊、異常なし!>>

エッジくくどうやらこっちで落ちたやつは居ねえみたいね>>

霧島「はあ…よかった…」

三笠「だがあんなものが当たれば我々でも無事にはすまん」

ホーネット「あれに対抗する方法なんて…」

三笠「………1つだけある」

吹雪「レーザー兵器……なら…」

長門「……あれか!」

テスターα「新たな飛行反応を捕捉」

オプザーバー「…なんだ?」

そこに全速力で飛んでくる

大きなモノ……いや、軍艦であった

スーパ―X2

DAG—MBS—02 Super—XX

対ゴジラ・特殊生物用空中護衛艦

所属 陸上自衛隊 第1特殊航空群

雨沢『こちらスーパードX2攻撃担当の雨沢です』

雨沢『これよりファイヤーミラーを展開します！念の為、こちらのほうからは離れてください！』

ガルド2<<<了解だ、いくぞ相棒>>>

チョップパー<<<ビックリドッキリメカだなあ、まるで>>>

アーチャー<<<それ…古くないですか？>>>

ガルド2<<<転移装置を稼働させるために「みうら」に駐機させていたと思ったら、すぐに外して出撃させるとはな…>>>

オブザーバー「次弾装填…放て」

黒木『ファイヤーミラー展開』

雨沢『ファイヤーミラーセットオン！』

セイレーンより発射されたレーザービームは

スーパードX2のファイヤーミラーに直撃

ピュリーファイアー「やったか!？」

雨沢『エネルギー許容範囲内！一万倍への変換よし！』

雨沢『発射！』カチッ

そのビームが発射され…

ピュリーファイアー「!?」

セイレーンのところにそのまま跳ね返る

ピュリーファイアー「なん、だど!?!」

長門「雑魚敵は消えたようだ……畳み掛けるぞ!!」

吹雪「は、は……い!?!」

グニャッ

長門「なんだ!?!」

エンタープライズ「揺れている……?」

ビスマルク「な、なにこれ……?」

霧島「地震!?!」

ヨークタウン「揺れていると言うより……曲がっている……!?!」

Z3「な、なにこれ……」

大和「いったいなにが……!」

テスターα「これは……」

オプザバー「……引くぞ」

テスターα「……ええ」

吹雪(B)「くっ……くっ……くうっ!」

三笠「くっ……これは……いかん！各員衝撃に備えろ！」

吹雪「くっ……ううっ……」

水の中に浮かんでいる？

いや、沈んでいる……？

「私、なにが……」

ヲ級改flagship「セカイヲ……マモレ……」

「な、なに？」

「ミッツノセカイ……マモレ……」

「ソノタメニオマエタチハイル」

「私達……」

「カムムス……カンセンショウジョ……」

「セイレーン……巨悪を……」

吹雪「……うっ……はあっはあっ……」

気がつくど、そこは海の上

吹雪「ここは……」

長門「おい！大丈夫か！」

吹雪「長門さん！他の皆は？」

長門「輸送艦のほうにいる！戻るぞ」

吹雪「待つてください、ここは……」

長門「そのことに関しては後で話す！行くぞ」

吹雪「は、はい！」

「GPS反応出ました！」

「北緯及び東経確認……ここは日本領海内の西之島新島付近です！」

涌井「つまり……我々の世界に帰ってきたということか……」

エンタープライズ「艦娘の世界……か」

大石「我々もそれに巻き込まれてしまったようだが……」

前原「我々後世の艦隊は旭日・紺碧艦隊の全艦と高杉・坂元艦隊の一部だけが転移に巻き込まれたようです」

前原「高杉さんと坂元さんの乗る比叡・長門は巻き込まれていないことから、あちらに残っていると見ます」

沼田「スーパースペーX2の反射後にその時空が歪んだ……対特殊生物レーダーでもその反



応は確認されている」

黒木「莫大なエネルギーにより、イレギュラーな時空の歪みが発生した…か」

アンダーセン「だがそれなら過去の怪獣戦においても時空が歪まねばおかしい…」

沼田「セイレーンの放ったレーザービーム…あれが何かのトリガーになったとも考えられるな」

明石「転移装置も動力源のスーパーX2が出撃してましたから、稼働はしてませんでしたし…暴走もしてません」

アンダーセン「…ともかく一度日本に行きましょう」

アンダーセン「この件に関して、各自の本国へ報告する必要もある」

アンダーセン「そして場合によっては大統領など各国の首脳陣との会議が必要となるだろう」

大石「我々も同行する」

エンタープライズ「我々もだ」

エンタープライズ（…こんな形で来ることになるとはな…我々が「前に」戦って  
いた世界に…）

ヒトラー「がっ…はっ…はっ…っ！」

ゲツベルス「そ、そうとう……かつ……がつ……」バタン

ヒトラー「なぜ……だ……我々は神に選ばれたものでは……なかった……のか……」バタ

ンツ

テスターα「……哀れね……」

オブザーバー「……用済みは始末するのみだ」

オブザーバー（あのお方のために……弱き人類を……3つの世界の人類を……）

オブザーバー（剪定する……！）

続く

## 第16話 再び

横須賀鎮守府

ピロロロロツ

陸奥「はい、こちら横須賀鎮守府秘書官代行の……あ、はい……」

陸奥「……本当ですか!? はい、はい! わかりました!」ガチャツ  
比叡「どうしたんですか?」

陸奥「長門達の艦隊が西之島新島でコンタクト取れたって!」

榛名「本当ですか!」

武蔵「今はどこにいるんだ?」

陸奥「今こつちに向かってて、もうそろそろで……」

コンコン

陸奥「……もしかして……」

ガチャツ

長門「……ただいま」

陸奥「長門！」

ガバツ

ギユツ

長門「ああ、心配かけてすまなかつた……」

陸奥「ほかあ……本当に寂しかったんだから……！！」

比叡「姉さまと霧島は!？」

金剛「ここデース！」

霧島「ただいまです、比叡姉さまと榛名姉さま」

大和「武蔵、ただいま……」

武蔵「全く……」クイツ

陸奥「……ん？後ろの……方々は……」

三笠「久しぶりだな、陸奥」

エンタープライズ「はじめまして……だな」

比叡(B)「ほう……あれが……」

陸奥「……え？」



陸奥「なるほど、それが艦船少女というわけね」

エンタープライズ「正式名称はKinetic Artifactual Navy  
— Self-regulative Enllore Node:だ」

吹雪「き、きな…?」

金剛「日本語に意識すると動力学的人工海上作戦機構・自律行動型伝承接続端子ということデスネー！」

吹雪「ど、動力…?」

日向「全くわからんぞ……」

エンタープライズ「それを縮めてKAN—SENと呼んでいる場合もあるが……」

イラストリアス「通常は単純に艦船少女を使っています」

イラストリアス「英語ではFleet girlとかwarship girlとかになりますね」

陸奥「……そして」

三笠「……ああ」

陸奥「三笠さんまで……角みたいなのが付いてるけど……」

榛名「行方不明だった三笠さんが……別世界にいたなんて……」

三笠「長期の不在……すまなかった……埋め合わせられるとは思わないが、これからは精一杯努力する」

武蔵「三笠さん……」

陸奥「……そういえば、アイオワ達は？」

霧島「アイオワさん達はアメリカ海軍基地で各政府に通信で報告中だそうです。こちらへのちほどとのこと」

陸奥「そう……」

比叡「……」

比叡（B）「ん？」

比叡（私より……お上品!?!）

比叡「ひええええっ!?!」

比叡（B）「あら、もうひとりの私……」

比叡「あ、いえ……よろしくおねがいします……!」

金剛「W比叡とW霧島デース!」

榛名「霧島は真逆な感じがします」

霧島（B）「そうか？」

榛名「私達の霧島は艦隊の頭脳としての面が、あなたは米戦艦「サウスダコタ」と戦つ

た時の面が……でてるような気がします……」

サウスタコタ「僕がどうかしたか」

榛名「…え?!」

比叡「サウスタコタさんまでいるんですか!？」

霧島「艦娘は日本の艦船のほうに数が偏ってますが、艦船少女はアメリカなどの他の艦船の数も多いんです」

金剛「だからこうなっただンデース!」

不知火(B)「よろしゅうな…」

不知火「……よろしくお願ひします」

陽炎(やつぱりこっちの不知火のほうがじっくり来るわねえ……)

プルルルツ

陸奥「はい?……わかりました」

長門「どうした?」

陸奥「艦娘・艦船少女の長門、赤城、加賀、吹雪、エンタープライズ、イラストリアスに来てほしいって……提督から」

吹雪「わ、私もですか!？」

吹雪(B)「よかったね、ブツキー!」



吹雪「ぶ……ってそっちの私も呼ばれてるんですよね……？」

陸奥「ええ、艦船少女のほうにも来てほしいって……首相官邸まで」

加賀（B）「首相官邸に？」

赤城（B）「……帝都……か」

陸奥「あと三笠さんは工廠のほうに、妖精さんが色々と検査するって」

三笠「了解した」

パタパタパタパタパタ

海上自衛隊の輸送ヘリコプターMCH-101に乗り、官邸を目指す7人

赤城（B）「……やっぱりこの世界も変わらないのね……」

加賀（B）「……建造物はたくさんあるな」

赤城「大空襲を受けて、約70年……日本も随分変わりました」

加賀「だけど、心は変わらない……」

赤城（B）「……そうね」

エンタープライズ「……私があの時空襲したところでもある……か」

イラストリアス「ドーリットル空襲……ですわね」

エンタープライズ「知っていたのか」

イラストリアス「はい、艦娘さん達や他の兵士さん達から聞きました」  
エンタープライズ「……ホーネットと共に陸軍爆撃機を乗せての日本本土攻撃作戦」  
赤城「あの作戦があつたから、軍令部は当初は反対していたミッドウエー作戦に賛成  
することになって……」

加賀（B）「私達がミッドウエーに派遣された……そして……」

エンタープライズ「……………」

長門「あの時は戦争だったからな……今更どうとは思わない」

吹雪「仕方なかったんです……でも、今は違うと思います」

長門「ああ、我々は今は同じところに居て、同じように行動している」

長門「「昔」なぞどうでもいい……大事なのは「今」だ」

イラストリアス「その通りです……私達は前に進まない……」

エンタープライズ「……ああ、後ろばかり見ても仕方はない」

東京都 千代田区

首相官邸

応接室

五十嵐「うむ……なるほど、あなた方が艦船少女か」

五十嵐隼人

日本国内閣総理大臣

赤城（B）「重桜海軍第一航空戦隊所属、航空母艦「赤城」です」

加賀（B）「同所属、航空母艦「加賀」です」

エンタープライズ「アズールレーン第201独立遊撃部隊所属航空母艦「エンタープライズ」だ」

イラストリアス「同所属、航空母艦「イラストリアス」です」

五十嵐「そう改まらなくても大丈夫だ。話は聞いている」

五十嵐「平行世界が存在するというのは前の後世艦隊の件でわかってはいたが……この実証されると凄まじいな」

イラストリアス「違う世界……本来交わるはずがない世界の人たちが」

大石「こう交わる……本来ならありえないが」

涌井「ここにある……奇跡ですな」

赤城（B）「……私達をここに呼んだ理由とは？」

五十嵐「……あなた方には頼みがある」

加賀（B）「頼み？」

五十嵐「君たちの話を聞く限り、少し前に日本領海を侵犯してきた深海棲艦でもない

存在はセイレーンだということがわかった」

エンタープライズ「……我々のあの世界や後世のみならず、この艦娘の世界にまで……か」

吹雪「私達が居ない間に……」

五十嵐「我々はその対策のために各国の首脳陣と電話会談などを重ね、結果ある「協定」を制定しようという案があるのだ」

赤城「協定？」

五十嵐「国際対特殊生物連携協定」だ」

五十嵐「今まで足並みが揃えきれなかった対特殊生物戦の連携を強化し、深海棲艦などを始めとした怪獣などに対抗しようというものだ」

五十嵐「現在、我々の日本及びアメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどを始め我々の世界では国連加盟国の殆どが参加を予定している」

加賀「我々の世界……つまり」

五十嵐「ああ、後世世界そして艦船少女がいる新暦世界ともその協定を締結したいと考えています」

大石「我々としては問題はないと思います、大高大統領に提案してみなければわかりませんが……承諾してくださるでしょう」

大石「後世の他の国に關しても特に問題はないと」

五十嵐「そして…新曆世界だが…」

赤城(B)「……無茶も良いところね」

赤城(B)「アズールレーン、レッドアクシズの両方は裏からセイレーンが糸を引いているわ」

赤城(B)「加盟していない小さな国家ならいけるかもしれないけど、雀の涙にもならない」

エンタープライズ「……後世世界と西曆世界の軍隊を私達の世界に攻め込めば落とすことは可能だ」

赤城(B)「ちよつと本気なの!？」

エンタープライズ「装備や練度を見る限り、私達の新曆世界は劣っている」

エンタープライズ「セイレーンによる無差別爆撃などにより人口はすでに従来の半分以下」

エンタープライズ「2世界が連合して攻撃すれば、攻め落とすことなど容易いだろう」

エンタープライズ「……だが、争いはまた争いを生む」

吹雪「……」

エンタープライズ「そして…二度三度とあの時の大戦以上の戦いになるリスクがあ

る」

長門「……現実的では……ないだろうな」

エンタープライズ「ああ」

イラストリアス「でしたら……説得という形になるのでしょうか？」

赤城（B）「それこそ現実的じゃないわ」

加賀（B）「無茶も良いところね」

赤城（B）「あなた達の艦隊はすでに4大国家を敵に回しているのよ」

エンタープライズ「……だが、私は直接大統領や首脳陣と話したい」

エンタープライズ「セイレーンと手を組むことこそ「人類」のためになっているのか」

エンタープライズ「私はその疑問を解決したい」

エンタープライズ「それで道が違うなら……即座に叩き切る覚悟はある」

赤城「エンタープライズさん……」

エンタープライズ「……」

赤城（B）「……はあ、仕方ないわね」

加賀（B）「姉さま、いいのですか？」

赤城（B）「ええ、まあアテはないわけではないから……あの時見逃しておいて良かったわ……」

吹雪（B）「ああ、あの時の「アレ」……ですね？」  
吹雪「？」

エンタープライズ「よくわからないが……感謝する」

赤城（B）「……」

赤城「……あなた……あの時戦った時より……変わった？」

赤城（B）「あら、そんなに変わって見えたかしら？」

赤城（B）「同じ空母「赤城」だから、むしろ自然じゃないかしら？」

赤城「……まあ、そうね」

加賀「……あなたも……変わったわね」

加賀（B）「……まあな」

提督「話はまとまったようだな」

涌井「うむ、では……」

横須賀鎮守府

艦娘寮

アナウンサー『現在深海棲艦の出現は確認されていませんが、引き続きご注意ください』

い』

アナウンサー『以上特殊生物警戒情報のコーナーでした…続いて天気予報を…』  
ホーネット「この世界じゃこんなこともやってるんだ…」

サラトガ「1954年のゴジラ襲来以降数々の特殊生物が日本や他国に襲いかかる事態が起きていたからですね」

アーク・ロイヤル「ホーネット達の世界ではそんなことはなかったのか？」

ホーネット「確か十年くらい前のセイレーンが出現する前は特になかったらしいよ」  
イントレピッド「なるほど…」

長門「おつ、お前たちも来てたのか」

サラトガ「ええ、本国への報告も終えたので」

レキシントン「やっぱり違うわね…」

サラトガ(B)「?、なにかついで?」

レキシントン「いえいえ、なんでもないわ」

長門「我々はしばらくは待機だ」

赤城「提督は?」

長門「今は色々と飛び回ってるそうさ。報告しなければならんことが山程あるようだからな」

赤城「…そう」



長門「……暇だな」

陸奥「そうね……」

アイオワ「だったら……いい暇つぶしがあるわよ！」

吹雪「？」

ジュワーツ

長門「なるほど……ばーべーきゅーというやつか」

アイオワ「こんなに数がいるんだからこうしたほうが一番いいでしょ？」

長門「…そうだな」

間宮「じゃんじゃん焼きますから、皆さんいっぱい食べてくださいねー！」

「「はーいー」」

というわけで艦船少女・艦娘の親睦BBQの始まりである

ガヤガヤガヤガヤ

吹雪「んー！おいしいね！」

深雪「よ、吹雪！」

吹雪「深雪ちゃん！白雪ちゃんも！」

白雪「お久しぶりですね、吹雪ちゃん」

初雪「……ねむい……心配した……」

深雪「そうだが、急に行方不明になったと思っただけで急に出てくるなんて」

吹雪「私もよくわかんなくて……」

吹雪(B)「ん？もしかしてブツキーの妹たち？」

吹雪「うん！そうだよ」

吹雪「あれ？磯波ちゃんや叢雲ちゃんは？」

深雪「磯波達はなんか哨戒任務中だつてよ……残念だなあ……」

吹雪「そうなんだ……」

白雪「この人は？」

吹雪「ええつと……艦船少女の「私」って言えば良いのかな……？」

深雪「へー！この人が噂の艦船少女の「吹雪」かあ……」

初雪「……ホントだ……」

吹雪(B)「よろしくね！」

深雪「よろしくな！」

白雪「よろしくおねがいます……」

初雪「……よろしく」

大和「お肉以外にも食べてくださいねー！」

ガヤガヤガヤガヤ

国が違うどころか世界すら違う艦娘・艦船少女達

だが特に喧嘩とかもなく、和気あいあいなバーベキューになっている

摩耶「だからよ、防空はやっぱ大事だから、もつと機銃も電探もじゃんじゃんつけようぜ！」

摩耶（B）「そうだな……もつとつける必要があるな……」

鳥海「…つけすぎて主砲まで取っ払わないでくださいね？」

摩耶「へへ、流石にそこまではしねえが…対空ミサイルとやらを盛りだくさんにしようぜ！」

摩耶（B）「そんなこともできるのか？」

鳥海「それは流石に無理です」

摩耶「ちえっ…」

エンタープライズ「……」

長門「ここにいたか…行かなくてもいいのか？」

エンタープライズ「夜の星が見たくてな…」

エンタープライズ「あまり見えないが…」

長門「最近は何も都市部は光がたくさんあるからな…昔はもつと見えたんだがな…」

エンタープライズ「……だがこうして再び団欒できてよかった」

エンタープライズ「いつもこんな感じなのか？」

長門「まあ…深海棲艦との戦いもかなり落ち着いて暇なことが多いからな」

長門「ほぼ海外艦主催だな」

エンタープライズ「……平和…だな」

長門「ああ……」

ワイワイワイ

提督「おう、やってるなあ」

吹雪「司令官さん！」

赤城（B）「あら、提督様……今お戻りになられたのかしら？」

赤城「モグモグ…おかえりなさい」

提督「まあな……色々とくたびれてしまつてな…」

提督「幕僚監部やら防衛省やら特生自衛隊やら国連G対策センターやら色々と回つて

な……」

提督「だが、やっと部隊設立の準備ができた」

吹雪「部隊？」

夕立「どんな部隊っぽい？」

提督「それは正式発表をお楽しみ……ということにしておこう」

吹雪「え？」

夕立「気になるっぽい！」

工廠

明石「よし、精密検査完了です」

明石(B)「この工廠はきちんと設備が揃ってていいにやー」

明石「そしてその角……やっぱりセイレーンですか……」

明石(B)「うーん……これは取るのも不可能にや……」

三笠「まあいい……仕方ないことだからな」

三笠「それより他の機能とかは問題ないか？」

明石「大丈夫ですよ、健康のそのものです」

三笠「そうか……ならこれからも戦える」

三笠「…旗艦業務は色々大変なのでな…大和や長門や陸奥がいるからだいぶマシにはなったが」

明石「そうですね…では細かい結果は後でお知らせしておきます」

三笠「わかった……」

---

三笠公園

三笠「……久しぶりだな、「我」」

三笠「……また発つことになるが…心配するな」

三笠「……私は「艦娘」「艦船少女」としての役割を果たすつもりだ」

三笠「日本を…世界を…救う」

「そのために……我は行く」

続く